

授業科目名 (副題)	医療事務概論	
担当者	生駒 恵子	
実務経験のある教員による授業	○	
実務経験内容	市民病院で医療事務、レセプト点検業務等経験を有する教員が、医療保険制度、医療事務概論、レセプト作成について講義指導します。	
[アクティブラーニング授業]		
PBL(課題解決型)		反転授業
ディスカッション・ディベート		グループワーク
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク
その他		
[ICTの活用]		
manaba	○	Moodle
その他		
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>授業では病院における医療事務の仕事について講義します。医療事務は①窓口受付業務②治療代計算業務に大別されます。①では患者様に直接対応する秘書的技術、保険証の知識などについて学びます。②では実際に薬や注射などの治療代の算定方法を学びます。更に、カルテの読み込みやレセプト作成等、保険請求事務の練習を行います。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①医療秘書技能とセンスで患者対応ができるようになる。          ②医療保険制度のしくみや、保険証の見方がわかるようになる。          ③簡単な治療代の算定と保険請求事務ができるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>授業内容は専門用語も多くです。治療代の点数計算では一定の計算方法を学びます。毎回授業の復習をして臨んでください。          各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて2 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>受講態度(10%)、課題提出(30%)、小テストおよび復習プリント(60%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>レポート、宿題は、後日添削して返却します。          理解が不足の場合、再提出してもらいます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>病院の事務分野の仕事、受付や治療代の点数計算等を学びます。医療事務、医療秘書、病棟クラーク等医療機関で働きたいと考えている学生は積極的に受講して下さい。</p>		

授業科目名 (副題)	医療事務概論
担当者	生駒 恵子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院の組織と医療事務 窓口対応 チーム医療 守秘義務</li> <li>2. 保険診療のしくみ 被用者保険と保険給付 国民健康保険と保険給付</li> <li>3. 後期高齢者医療制度 公費負担医療制度 保険医療機関と保険医 二重指定制度</li> <li>4. 診療報酬の算定と保険請求事務</li> <li>5. 点数算定方法:初診料 再診料 医学管理料</li> <li>6. 点数算定方法:投薬料①保険薬と薬価基準 薬の種類 略語</li> <li>7. 点数算定方法:投薬料②内服薬、頓服薬、外用薬の算定方法 処方箋料</li> <li>8. レセプト演習</li> <li>9. 点数算定方法:注射料</li> <li>10. レセプト演習</li> <li>11. 点数算定方法:処置料</li> <li>12. レセプト演習</li> <li>13. 医療とICT 電子カルテシステム 医療保険制度の復習</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって主体的に学修を深め、資格取得に資する力を有している。 成績評価方法:授業態度、課題、試験で評価します。</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法:授業態度、課題、試験で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>医療事務概論 (保険診療のしくみと診療報酬請求業務) 著者名:生駒恵子 出版社:ビジネス実務法研究所 発行</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>授業中に適宜紹介、また適宜プリント配布します。</p>	

授業科目名 (副題)	インテリアコーディネート概論		
担当者	本保 弘子		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	一級建築士として住宅設計の実務経験を有し、設計した住宅のインテリアコーディネートの担当経験もある教員が、インテリアコーディネートを解説します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  インテリア空間を構成する基本的要素について整理し、これらを選び、コーディネートする過程での選択肢を提示します。三次元のインテリア空間において、美的な質の高いデザインを目指すのは当然ですが、機能性、経済性、維持管理の容易さ、心身の健康面への影響も考慮したバランスのよい実用的なコーディネートを学びます。ディスプレイについても学び、受講生全員の写真発表会があります。</p> <p>[ 到達目標 ]  ① インテリアコーディネートの基礎を体系的に理解できるようになる。  ② 住まいのインテリアコーディネートに役立つ知識を得ることができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  事前にテキストを読んできてください。  ディスプレイの写真発表会を8～10回目の授業で実施します。発表の準備としては、3回目で学ぶディスプレイの授業の復習と各自の工夫を求めます。  各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  受講態度(10%)、発表(20%)、1～12回目小テスト(20%)、理解度確認テスト(50%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  1回目～12回目の小テストの解説は、次回授業の始めに行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  授業中のスマホ、私語や居眠りなど授業に参加しない学生は欠席扱いとします。  当日の講義内容について、授業時間の最後の15分を使って小テスト(教科書・ノートは見てもよい)がありますので、授業中に内容を理解し、わかりにくいところは質問してください。</p>			

授業科目名 (副題)	インテリアコーディネート概論
担当者	本保 弘子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インテリアディスプレイ、名作イス</li> <li>2. 好きからはじめるインテリア</li> <li>3. ディ스플레이</li> <li>4. インテリアコーディネートの基本、インテリアスタイル(ナチュラル)</li> <li>5. インテリアスタイル(モダン、クラシック)</li> <li>6. カラーコーディネート</li> <li>7. 配色の基本パターン LD</li> <li>8. 食事用テーブルとイス、ソファの寸法、LDの家具配置</li> <li>9. 主寝室、子ども室の家具配置、ディスプレイ発表その1</li> <li>10. 照明計画、ディスプレイ発表その2</li> <li>11. 食空間、キッチンレイアウト、ディスプレイ発表その3</li> <li>12. ウインドトリートメント インテリアスタイル選択のインテリアコーディネートスケッチ</li> <li>13. インテリアコーディネートの実施についての重要事項、理解度確認テスト</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 発表、小テスト、理解度確認テスト</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 発表、小テスト、理解度確認テスト</p> <p>【2-1】客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力を有している。 成績評価方法: 発表、小テスト、理解度確認テスト</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法: 発表</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 発表、小テスト、理解度確認テスト</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 『心地いい わが家のつくり方 01 インテリアの基本』 著者名:主婦の友社 編 出版社:主婦の友社 (978-4074193318)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] なし</p>	



授業科目名 (副題)	インテリア設計製図		
担当者	本保 弘子		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	一級建築士として住宅設計、インテリア設計の実務経験を有する教員が、インテリア設計製図の基本を指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  先ず、インテリア写真のなかから好きなものを探してみましょう。選んだ写真を参考にしてスケッチパースを作成します。  次に、インテリア図面の基本である、平面図、展開図、アクソメ図、パースの図面表現について学びます。この後、リビングルーム、ダイニングルームとキッチンのインテリアをデザインし、図面を作成します。ホテルルームの課題については、リゾートであなたが、ぜひ宿泊したいと思うお部屋をデザインしてください。  12回目、13回目の授業は、インテリアプレゼンテーションの練習とします。</p> <p>[ 到達目標 ]  インテリア設計製図の基礎的な技法が修得できる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  身の回りの実物が参考になりますので、デザインに関心を持ち寸法を測ってみてください。ホテルルームの課題では、旅行パンフレット、旅行雑誌、ホテルのホームページなどの参考資料を探してください。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  受講態度(20%)と提出図面(80%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  図面提出時には毎回、確認と講評を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  「住居デザイン基礎実習」単位修得後に履修してください。  授業中のスマホ、私語、居眠りなどは欠席扱いとします。  遅刻、欠席のために授業の進度に遅れることのないように気をつけてください。</p>			

授業科目名 (副題)	インテリア設計製図
担当者	本保 弘子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インテリア写真のトレースとカラーコーディネート</li> <li>2. インテリア製図 平面図</li> <li>3. インテリア製図 展開図</li> <li>4. インテリア製図 アクソメ図</li> <li>5. インテリア製図 パース</li> <li>6. インテリア設計製図 LDK 平面図</li> <li>7. インテリア設計製図 LDK アクソメ図</li> <li>8. インテリア設計製図 LDK カラーコーディネート</li> <li>9. インテリア設計製図 ホテルルーム 平面図</li> <li>10. インテリア設計製図 ホテルルーム 平面図仕上、アクソメ図</li> <li>11. インテリア設計製図 ホテルルーム カラーコーディネート</li> <li>12. 照明器具のコーディネート、インテリアプレゼンテーション I 平面図</li> <li>13. インテリアプレゼンテーション II 展開図、アクソメ図</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 提出図面</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 提出図面</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法: 提出図面</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 提出図面</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] なし</p>	

授業科目名 (副題)	インテリアデザイン論		
担当者	本保 弘子		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	一級建築士として住宅設計、インテリア設計の実務経験を有する教員が、インテリアデザインの基本を解説します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          インテリアデザインの基礎として、スペースデザインの考え方、家具や照明器具などのインテリアエレメント、人間工学、インテリア計画と設計手法などを体系的に学びます。          さらにインテリアの美を求めて、インテリアスタイル、インテリアカラーコーディネート、ライティングデザイン、マテリアルコーディネートを取り上げます。</p> <p>[ 到達目標 ]          インテリアデザインの基礎的事項を体系的に理解できるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          予習としてテキストを読んできてください。          収納の工夫についての写真発表会を9～11回目の授業で実施します。発表では、各自の工夫を求めます。          各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          受講態度(10%)、発表(20%)、1～12回目小テスト(20%)、理解度確認テスト(50%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          1回目～12回目の小テストの解説は、次回授業の始めに行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          受講人数は20名を上限とします。「住居デザイン基礎実習」の単位取得者を優先します。          授業中のスマホ、私語や居眠りなど授業に参加しない学生は欠席扱いとします。当日の講義内容について、授業時間の最後の15分を使って小テスト(教科書・ノートは見てもよい)がありますので、授業中に理解し、わかりにくいことがあれば質問して下さい。</p>			

授業科目名 (副題)	インテリアデザイン論
担当者	本保 弘子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インテリアデザインとは</li> <li>2. インテリア空間</li> <li>3. インテリヤスタイルの意義</li> <li>4. インテリヤスタイル・マトリックス</li> <li>5. 家具デザイン</li> <li>6. 家具レイアウト</li> <li>7. ウィンドトリートメント</li> <li>8. ライティングデザイン</li> <li>9. マテリアルコーディネート、収納写真発表会その1</li> <li>10. インテリアのカラーコーディネート、収納写真発表会その2</li> <li>11. 人間工学、収納写真発表会その3</li> <li>12. インテリア計画と設計</li> <li>13. インテリアデザインの実施手法に関する重要事項、理解度確認テスト</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 小テスト、確認テスト、発表</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 小テスト、確認テスト、発表</p> <p>【2-1】客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力を有している。 成績評価方法: 小テスト、確認テスト</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法: 発表</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 小テスト、確認テスト、発表</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 『インテリアデザイン』 著者名:小宮容一 他 著 出版社:井上書院 (978-4753015870)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] なし</p>	

授業科目名 (副題)	栄養学		
担当者	細見 和子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>健康を保つためには、必要な栄養素を摂取する食生活と適度な運動や休養が必要です。栄養素の特徴や摂取した栄養素の体内での働き、食品に含まれる機能成分の働き、成長期における栄養の特徴や栄養と生活習慣病との関わり等について講義を中心にすすめます。専門的な用語もありますが、パワーポイントやDVDを用いて、できるだけ親しみやすい視点から解説していきます。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①栄養と健康に関する正しい知識が習得できるようになる。 ②健康な食生活が実践できるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>授業内容を理解するために教科書を熟読し予習、復習を必ず行ってください。。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>講義中の課題(テスト含む)(60%)、レポート(40%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>レポート・テスト回収後に、解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>積極的に授業に参加し予習、復習が必要です。</p>			

授業科目名 (副題)	栄養学
担当者	細見 和子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人と栄養</li> <li>2. 健康と栄養・食生活</li> <li>3. 食品の成分と機能</li> <li>4. からだのしくみと栄養素の働き</li> <li>5. 主要な栄養素の消化吸収</li> <li>6. 食事摂取状態と食生活</li> <li>7. ライフステージと栄養</li> <li>8. 日常生活と栄養</li> <li>9. 生活習慣病と栄養</li> <li>10. 生活習慣病の予防と食生活</li> <li>11. 現代社会の食と栄養</li> <li>12. 食生活の多様化</li> <li>13. 栄養学のまとめ</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を身に付ける。 成績評価方法: テスト</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を身に付ける。 成績評価方法: レポート</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を身に付ける。 成績評価方法: テスト、レポート</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を身に付ける。 成績評価方法: レポート</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『健康づくりの栄養学』 著者名: 小林修平 編者 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0518-1)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>資料プリントの配布やDVDなどの視聴を行います。</p>	

授業科目名 (副題)	音楽心理学演習		
担当者	松場 里弥		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  音楽心理学にまつわるさまざまなトピックを通じて音楽の知覚・認知メカニズムを学び、音楽と人の心理や行動との関係について考えます。さまざまな実験の紹介に加えて実際に簡単な心理学実験も体験し、科学的なものの見方や考え方を学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>① 普段何気なく接している音楽について、人がどのように聞き、認識し、感じているのかを理解することができる。</p> <p>② ディスカッションや実験を通して、自分の考えをまとめ、相手に情報を正確に伝えるためにどのようにすればよいかを考えることができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  授業内で出す課題について情報収集を行い、整理しておいてください。  各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  受講態度(授業への参加状況等、30%)、講義中の課題(30%)、レポート(40%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  毎回の課題について、必要に応じて次回授業内で解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  ディスカッションやグループワークには積極的に参加して下さい。</p>			

授業科目名 (副題)	音楽心理学演習
担当者	松場 里弥
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音楽心理学の概観</li> <li>2. 音楽と感情の心理学</li> <li>3. 音楽と映像の心理学</li> <li>4. 音楽と聞き方の心理学</li> <li>5. 音楽と演奏の心理学</li> <li>6. 音楽と癒しの心理学</li> <li>7. 音楽と脳科学</li> <li>8. 音楽の三要素(リズム・メロディー・ハーモニー)の認知</li> <li>9. 音の三要素(高さ・大きさ・音色)の知覚</li> <li>10. 音(聴覚)の情景分析とイリュージョン</li> <li>11. 音楽心理学の実験(実験方法、内容検討)</li> <li>12. 音楽心理学の実験(実験計画)</li> <li>13. 音楽心理学の実験(実験と考察)</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 課題、ディスカッションおよびレポートで評価します。</p> <p>【2-1】客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力を有している。 成績評価方法: 課題およびレポートで評価します。</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法: ディスカッションおよびグループワークで評価します。</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法: ディスカッションおよびグループワークで評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 必要に応じてプリント資料配布</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 適宜紹介</p>	



授業科目名 (副題)	カウンセリング論		
担当者	松岡 恵		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	公認心理師・臨床心理士・臨床発達心理士資格を有し、その実務経験のある授業担当者が、その経験を活かして、教育・臨床現場などの心理社会的テーマの事例を取り上げながら、授業を展開します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          カウンセリングの理論と臨床における実際の技法、心理臨床の現場、カウンセラーの仕事について理解を深めます。</p> <p>[ 到達目標 ]          ①カウンセリングの基本を学び、相手の気持ちや内面を正しく理解できるようになる。          ②自分自身について理解を深め、自分の思いを相手にうまく伝えることができるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          日頃から心のケアや支援等に関するニュース・記事に関心をもち、授業には次の単元を読み、質問事項を考えて臨んでください。          各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          各時間の課題と振り返りレポート(70%)、発表(30%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          質問に対しては、授業時に全体に向けて回答・説明し、必要に応じ質問者へ個別に回答・説明します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          体験学習も取り入れますので、積極的に参加して下さい。</p>			

授業科目名 (副題)	カウンセリング論
担当者	松岡 恵
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. カウンセリングとは</li> <li>2. 自己概念</li> <li>3. アサーション</li> <li>4. 論理療法 「思い込みをなくすと生きやすい」</li> <li>5. キャリアカウンセリング(ホランド理論)</li> <li>6. 女性のメンタルヘルス(①脳と感情②ストレス)</li> <li>7. 心の発達課題</li> <li>8. 学校臨床</li> <li>9. 思春期のこころの発達</li> <li>10. 青年期の発達危機</li> <li>11. 交流分析(エゴグラム)</li> <li>12. ①芸術療法とは②コラージュ制作</li> <li>13. コラージュ作品をプレゼンテーション</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法:各時間の課題と振り返りレポート(70%)、発表(30%)</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『徹底図解 臨床心理学』 著者名:青木紀久代編著 出版社:新星出版社 (978-4-405-10688-8)</p> <p>『よくわかるアサーション・トレーニング 自分の気持ちの伝え方』 著者名:平木典子 出版社:主婦の友社 (978-4-07-285050-3)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>なし</p>	

授業科目名 (副題)	家族関係		
担当者	大淵 裕美		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>自らの体験に基づく家族観をもとに、家族問題を考えることが多いのですが、家族に生じる問題は、それぞれの家族の個々の問題というより、家族を取り巻く社会の変化によって生じたものが多くあります。そこで、家族とは何かを考えることから始まり、家族を学ぶための基礎的概念を学んだ後、家族の歴史的変化や家族構造の変化をマクロな視点から学び、社会と関連した現代家族の特徴を掴みます。これらを踏まえて、夫婦や親子の具体的な家族関係について、その内部構造や機能、そこから生じる問題などについてミクロな視点から学びます。さらに近年生じてきているさまざまな家族にも目を向け、これからの家族のありかたを考えます。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①家族概念の成立過程や歴史、文化、社会との関わりの中での家族の変容を知り、家族を広い視野で相対的に捉えることができる。</p> <p>②家族を関係学的視点で見ることにより、家族に生じる問題を客観的に考えることができる。</p> <p>③既成の家族観ではなく、自分の家族観をもつことができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。 授業で出す宿題・課題等は、授業時間外にしあげておいてください。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>毎回の授業時に出す小テスト・論述課題・コメントシート(50%) 学期末テスト(50%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>小テストは、締め切り後に自動採点し解説が読めるように設定します。 論述課題については、翌週に全出席者の課題をフィードバックするとともに、授業時間時に解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>家族についてのさまざまな問題を、授業で得られた知見をもとにもう一度見直し、問題の本質が何かを理解する力をつけてください。</p>			

授業科目名 (副題)	家族関係
担当者	大淵 裕美
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション: 家族とは? 家族をどうとらえるか。</li> <li>2. 「近代家族」の成立: 家族は歴史的に変化するか</li> <li>3. 家族・貧困・福祉: 家族と貧困</li> <li>4. 家族・貧困・福祉: 日本の生活保障システムと家族</li> <li>5. 結婚: 結婚とは何か。未婚化という変化。</li> <li>6. 結婚: 離婚における変化。パートナーシップの多様化。</li> <li>7. 就業と家族: ワークライフバランスの実現に向けて。</li> <li>8. 妊娠・出産・子育て: 少子化</li> <li>9. 妊娠・出産・子育て: 医療技術と子どもをもつこと</li> <li>10. 妊娠・出産・子育て: 家事と育児の分担</li> <li>11. 親-成人子関係のゆくえ: 親-成人子関係についての理論的枠組み、親-成人子関係の変化</li> <li>12. 個人・家族・親密性のゆくえ: 多様化する家族</li> <li>13. 家族関係に関する理解度確認テスト・解説</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 小テスト・論述課題・コメントシート・学期末テスト</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法: 小テスト・論述課題・コメントシート・学期末テスト</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 小テスト・論述課題・コメントシート・学期末テスト</p> <p>【2-1】客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力を有している。 成績評価方法: 小テスト・論述課題・コメントシート・学期末テスト</p> <p>【2-4】持続可能な社会のために、未来を切り開く創造力を有している。 成績評価方法: 小テスト・論述課題・コメントシート・学期末テスト</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 適宜資料を配布します。</p>	

授業科目名 (副題)	環境保全論		
担当者	横田 雅弘		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	地方自治体における環境行政の経験がある者が、その経験を活かして、今日的な課題(地球温暖化問題、ごみ問題、外来生物問題等)への対応を講義します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>「環境」はさまざまな要素から構成されています。そのため、「神戸の環境」について気づき、理解するために、「地球温暖化・エネルギー」「ごみ・リサイクル」「自然環境・生物」「大気」「水質」などのテーマごとに、そのメカニズムや現状・対策などをできるかぎり映像(ビデオ等)を交えてわかりやすく解説します。あわせて身近な環境についても一緒に考え、環境についての理解を深めていきます。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①地球温暖化問題、ごみ問題等、「環境」をめぐる諸問題について正しい知識を習得し、理解を深めていくとともに、②身近な環境保全についての実践力(エコライフスタイル)を身に付けていくことができるようになるのが目標です。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>次の授業までにメディア等で放送・報道された「環境」に関連する記事やニュースのキーワードをメモし、自分の意見も整理しておき、次の授業の最後に実施する小テストにそれらをあわせて記載してください。また、各回の授業について復習し、質問事項の検討や、次の授業の予習をしてください。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>理解度確認テスト(50%)、小テスト(30%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>小テストに記載された質問等は、次回の授業の中で回答・解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>東日本大震災以降のエネルギー事情の変化、地球温暖化防止への国際的枠組みの構築、といった大きな問題から、ごみ出しルール、といった身近な問題まで、環境問題は幅が広く、かつ日々話題となっています。神戸に住み、または神戸で学ぶみなさんは、「神戸の環境」に大いに関心を持ち、理解を深め、積極的に環境に配慮した行動をしてください。</p>			

授業科目名 (副題)	環境保全論
担当者	横田 雅弘
<p>[ 授業計画 ]</p> <p>【はじめに】</p> <p>1. 考えてみよう「私たちの環境」（神戸の環境の現状と魅力を知る）</p> <p>【地球温暖化・エネルギーについて(脱炭素社会)】</p> <p>2. 地球温暖化のメカニズムと神戸の現状（温暖化はどこまで進んでいるか）</p> <p>3. 国と市のエネルギー政策（原発・火力発電・再生可能エネルギーのベストミックス）</p> <p>4. 温暖化防止のために私たちができること（脱炭素都市・神戸の実現に向けて）</p> <p>【ごみ・リサイクルについて(循環型社会)】</p> <p>5. ごみ処理のメカニズムと神戸の現状（私たちが出したごみの行方）</p> <p>6. 国と市のリサイクル政策（古紙・プラスチック・自動車・家電等）</p> <p>7. ごみの減量化のために私たちができること（循環型都市・神戸の実現に向けて）</p> <p>【自然環境・生物について(自然共生社会)】</p> <p>8. 生物多様性のメカニズムと神戸の現状（多様な自然の恵みを受け続けるために）</p> <p>9. 希少種の保全と外来生物の排除（神戸の本来の生態系を回復するために）</p> <p>10. 生物多様性保全のために私たちができること（自然共生都市・神戸の実現に向けて）</p> <p>【私たちを取り巻く大気や水について(健全で快適な地域環境)】</p> <p>11. 神戸の大気環境の現状と対策（PM2.5やアスベストから身を守るために）</p> <p>12. 神戸の水環境の現状と対策（いつまでもきれいな須磨海水浴場であるために）</p> <p>【取りまとめ総括】</p> <p>13. 環境問題の理解と復習(確認テスト)</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法:理解度確認テスト(50%)、小テスト(30%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法:理解度確認テスト(50%)、小テスト(30%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『KOBE COOL CHOICE マニュアル』 著者名:神戸市環境局 出版社:神戸市環境局 『くらしとごみ』 著者名:神戸市環境局 出版社:神戸市環境局</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>授業の内容にあわせて、関連する参考教材やパンフレット等を、適宜配布します。 著者名:神戸市環境局など 出版社:神戸市環境局など</p>	

授業科目名 (副題)	基礎ゼミ		
担当者	谷山 澤子、本保 弘子、細見 和子、古田 貴美子、西 奈保、福井 愛美、杉田 米行、堀 桂太郎		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	一級建築士としての実務経験のある教員が住宅模型制作を指導します。放送局などマスコミでのインタビューやレポーター、MCなどの幅広い実務経験のある教員が自己表現力研究の指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ] この授業では、一人の学生が総合生活学科8名の教員のうち割り当てられた4名の教員の演習授業を受講します。それぞれの教員は、一連の授業を3回担当します。学生は、最大4分野の授業を受講することにより、自らの研究対象を絞る手助けとします。</p> <p>[ 到達目標 ] ①多様な演習授業をとおして様々な分野への理解を深めることができる。 ②興味のある専門分野を選択する手がかりを得ることができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 割り当てられた4名の教員の、前期「総合生活論」で学んだ授業内容を、あらかじめ勉強して受講してください。各担当教員から出される課題やレポート等は授業時間外に仕上げてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ] 3回の演習授業ごとに、各教員が学生の自発性、課題への取り組みを重視して評価(100点満点)を出します。それら4回分を平均して最終評価とします。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 教員によって、授業内で解答解説する場合と、後日添削して返却する場合があります。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ] いずれの教員の授業を受講するかの希望をきくことができませんので、ご了承ください。</p>			

授業科目名 (副題)	基礎ゼミ
担当者	谷山 澤子、本保 弘子、細見 和子、古田 貴美子、西 奈保、福井 愛美、杉田 米行、堀 桂太郎
<p>[ 授業計画 ]</p> <p>各教員は、連続した3回の授業を実施します。学生は次のうち4名の教員の授業を受講します。授業回数は全部で13回ですが、9回目の授業で2年次の「総合生活演習」(ゼミ)に関する指導を行います。</p> <p>(アイウエオ順)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>英語新設(杉田)―課題の決定</li> <li>英語新設(杉田)―課題制作</li> <li>英語新設(杉田)―課題の発表</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>英語圏文化研究(谷山)―ゼミ内容のオリエンテーション・研究テーマの決定</li> <li>英語圏文化研究(谷山)―研究内容の資料収集及びレポート作成</li> <li>英語圏文化研究(谷山)―課題のプレゼンテーション・ディスカッション・課題提出</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>食生活と健康(西)―ディスカッション</li> <li>食生活と健康(西)―課題の説明</li> <li>食生活と健康(西)―課題の発表と提出</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己表現力の研究(福井)―ディスカッションと課題の決定</li> <li>自己表現力の研究(福井)―情報収集と内容の構築</li> <li>自己表現力の研究(福井)―課題の発表・提出</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>被服製作(古田)―衣服素材の選び方、縫製の仕方</li> <li>被服製作(古田)―手縫いとミシン縫いの基礎練習</li> <li>被服製作(古田)―小物製作</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>パンと製菓(細見)―課題の決定</li> <li>パンと製菓(細見)―調査・研究</li> <li>パンと製菓(細見)―課題の発表と提出</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>電気と情報(堀)―家庭で使う電気の基礎、照明器具のしくみ</li> <li>電気と情報(堀)―電気調理器のしくみ、オーディオ機器のしくみ</li> <li>電気と情報(堀)―コンピュータの歴史としくみ</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>住宅模型制作(本保)―課題の解説、模型制作</li> <li>住宅模型制作(本保)―模型制作</li> <li>住宅模型制作(本保)―課題の提出</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法:基礎的な知識や技能の習得状況を課題で評価します。</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法:プレゼンテーションや発言内容で評価します。</p> <p>【3-3】多様なものの見方や考え方を尊重する姿勢を有している。 成績評価方法:ディスカッションにやプレゼンテーションで評価します。</p> <p>【3-4】人々と協働・協調して学修を進める力を有している。 成績評価方法:グループワークでの積極性や協働性で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 各授業の教員により、使用する場合があります。</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 各教員が指示します。</p>	



授業科目名 (副題)	経営会計実務処理		
担当者	都築 洋一郎		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  この講義では企業の成績表とよばれている財務諸表(貸借対照表や損益計算書など)の作成過程について学びます。具体的には、企業はどのような経済活動を行っているのか、それをどのように記録するのかについて学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]  到達目標は日商簿記初級レベルの基礎知識を理解できるようになることです。具体的な目標は以下の通りです。  ①企業の経済活動を理解できるようになること。  ②企業の経済活動を、簿記のルールにしたがって、帳簿記入できるようになること。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  必ず予習および復習をするようにしてください。理解度確認テストを行う予定です。(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  理解度確認テスト(60%)、提出物(40%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  理解度確認テストを採点し、返却します。また解答の解説をします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  電卓を持参するようにしてください。</p>			

授業科目名 (副題)	経営会計実務処理
担当者	都築 洋一郎
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 簿記の基礎(企業の簿記と簿記の要素)</li> <li>2. 簿記の基礎(仕訳の基本)</li> <li>3. 商品売買の記帳</li> <li>4. 現金・預金、手形と電子記録債権の記帳</li> <li>5. 貸付金・借入金、その他の債権債務の記帳</li> <li>6. 固定資産の記帳</li> <li>7. 租税公課と消費税、資本金の記帳</li> <li>8. 帳簿への記入</li> <li>9. 試算表</li> <li>10. 伝票と仕訳日計表</li> <li>11. 総合問題の練習</li> <li>12. ネット試験の模擬体験</li> <li>13. 日商簿記初級をネット試験にて受講してもらう予定</li> </ol> <p>※毎回、練習問題を解いてもらう予定です。また毎回、前回の授業内容について理解度確認テストを行う予定です。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法:理解度確認テスト(60%)、提出物(40%)で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『スッキリわかる日商簿記初級』(最新版のもの) 著者名:滝澤ななみ 出版社:TAC出版 (978-4-8132-8736-0)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>適宜指示します。</p>	

授業科目名 (副題)	健康管理概論		
担当者	服部 伸一		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	シャトルカードを用いて理解度の確認を行い、学生の質問に答えます。		
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他	シャトルカードを用いて理解度の確認を行い、学生の質問に答えます。		
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          本授業では、健康の概念、健康の阻害要因、健康増進の方法(運動、栄養、休養)、健康をめぐる社会問題等について、基礎的な事項を中心に理解を深めていきます。</p> <p>[ 到達目標 ]          健康管理の意義と方法に関する基礎知識を習得することができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          前時の授業の配布資料をよく読んでおくようにしてください。          各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          レポート(20%)、中間テスト(20%)、確認テスト(60%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          理解度確認テストを実施の後、回答の解説を行います。レポートは添削後、返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          受講態度の良くない学生は、退席してもらうことがあります。</p>			

授業科目名 (副題)	健康管理概論
担当者	服部 伸一
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代人の生活と健康</li> <li>2. 生活習慣について考える</li> <li>3. 睡眠と健康</li> <li>4. 運動と健康</li> <li>5. 食生活と健康</li> <li>6. 危険行動と健康</li> <li>7. 肥満・やせと健康</li> <li>8. ストレスと健康</li> <li>9. 性行動と性感染症</li> <li>10. 生涯にわたる女性の健康課題と対応</li> <li>11. 健康をめぐる社会問題(2)性の多様性</li> <li>12. 健康をめぐる社会問題(3)がんの予防</li> <li>13. 健康管理概論に関する理解度の確認</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: レポート(20%)、中間テスト(20%)、確認テスト(60%)で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] なし</p>	

授業科目名 (副題)	建築CAD演習		
担当者	青山 有希		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	一級建築士である教員が、実務で設計やプレゼンテーションに実際に使用しているCADについて、及び、空間デザインについて指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>建築やインテリア図面の基本となる平面図作成からはじめ、さらにすすめて、コンセプトに基づいて家具を設計し、3次元の家具図面をCADを使って作成します。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①2D CADソフトの基本的な操作を理解し、作図ができる。          ②2D CADソフトを用いて、平面図、立面図、断面図、屋根伏図などの建築図面の作図ができる。          ③3D CADソフトの基本的な操作を理解し、作図ができる。          ④コンセプトを作成し、2D・3DCADソフトを用いて、コンセプトを具現化し、図面化ができる。          ⑤自分の作品をプレゼンテーションできる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>毎回授業で学習内容に沿った課題を作図して提出します。授業中に完成しない場合は、復習として、完成させて提出してください。毎回の課題は、前回の課題とつながっているため、前回分が完成していないと、次の課題に取り組むことができません。必ず、欠席者も、前回の課題を完成させて提出してください。また、授業内に目標に到達した場合、予習にとり組んでください。</p> <p>予習は、前半のテキストに沿った課題の場合は、次回以降の作図を行ってください。また、後半では、予習として、コンセプトや設計案をじっくり検討するようにしてください。(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>Manabaに提出した課題とプレゼンについてmanabaで採点します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題1: Jw_cadによる簡単な図形の作成・・・小計6点</li> <li>・課題2: Jw_cadによる木造住宅の建築図面作成・・・小計30点</li> <li>・課題3: 簡単な3D図形の作成・・・小計12点</li> <li>・課題4: 家具設計のコンセプト作成、2D・3D作図、プレゼンテーション・・・小計52点</li> </ul> <p>※課題は、課題1～4すべてについて、提出要件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出することを合格基準とします。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・manabaに提出された課題に対して、コメントをmanabaで送ります。</li> <li>・発表作品は、プレゼンテーション時に講評します。</li> </ul> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>毎回課題を作図し、最後には、作品としてまとめますので、欠席回数が多いと期間内での課題提出が難しくなる事を認識しておいてください。第一回、第二回には基礎的かつ必要不可欠な内容を学習しますので履修希望者は必ず出席してください。</p> <p>1年前期「住居デザイン基礎実習」の単位取得後に履修してください。</p> <p>履修人数の上限を18名とします。</p> <p>遠隔授業に備えて、自分のPCを使用するための設定を行う場合があります。</p>			

授業科目名 (副題)	建築CAD演習
担当者	青山 有希
<p>[ 授業計画 ]</p> <p>1.「オリエンテーション、基本的な作図練習(1)」 講義の概要説明、Jw_cadについて、作業フォルダの作成、基本的な作図練習(1) (教科書pp.13～52)、(状況に応じて自分のPCの設定) (課題1-1)</p> <p>2.「基本的な作図の練習(2)」 文字、寸法(資料配布、教科書pp.53～72)、(状況に応じて自分のPCの設定、OneDriveの説明と設定) (課題1-2)</p> <p>3.「製図の準備、配置図兼平面図の作図(1)」 製図の準備-図面枠、レイヤについて(教科書pp.79～96) 配置図兼平面図の作図(1)-基準線、柱(教科書pp.97～105) (課題2-1)</p> <p>4.「配置図兼平面図の作図(2)」 開口部、壁、姿線(教科書pp.106～131) (課題2-2)</p> <p>5.「配置図兼平面図の作図(3)」 文字、敷地、寸法、記号(教科書pp.132～154) (課題2-3)</p> <p>6.「屋根伏図の作図、断面図の作図(1)」 屋根伏図(教科書pp.154～174) 断面図-準備、基準線、記号(教科書pp.175～185) (課題2-4)</p> <p>7.「家具の基礎知識、テーブル例の3面図の作成」 家具について及びレポート課題の説明 (課題4-1、課題4-2) テーブル例の3面図 (課題4-3)</p> <p>8.「断面図の作図(2)、簡単な家具の設計(1)」 断面図-断面線、外形線、姿線(教科書pp.186～203) (課題2-5) (余力のある人はプラス課題として、教科書p.234までできるだけ進める) (プラス課題) 簡単な家具の設計-設計した家具の3面図の作成(Jw_cad) (課題4-4途中)</p> <p>9.「簡単な家具の設計(2)、SketchUpについて」 簡単な家具の設計-設計した家具の3面図の完成(Jw_cad) (課題4-4) 基本的な3D図形の作成練習(課題3-1) テーブル例の3D図形の作成練習(課題3-2)</p> <p>10.「テーブル例の図面の完成、簡単な家具の設計(3)」 テーブル例の図面の完成(課題3-3) 設計した家具の3D図形の作成(SketchUp) (課題4-5)</p> <p>11.「簡単な家具の設計(4)」 設計した家具の3D図形の完成(SketchUp) (課題4-5)</p> <p>12.「設計した家具のプレゼンテーション図面の作成」 3面図、3D、タイトル、コンセプト等をプレゼンシートとしてまとめる (課題4-6) :</p> <p>13.「図面のPDF化、プレゼンテーション」 自分の作品をPDF化する 自分の作品をプレゼンテーションする (課題4-7)</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 課題1～3での基本的なCAD操作・図面の書き方を着実に習得し、課題4で習得した技術を活かして、自分でコンセプトを作成し、それを設計として具現化する力を評価します。</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法: 課題4で評価します。</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: プロジェクト作成のスケジュール把握し、完成できることを、課題4のコンセプト作成、案作成、作図、プレゼンまでを通して評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 『高校生から始めるJw_cad建築製図入門』 著者名: 櫻井良明 出版社: 株式会社エクスナレッジ (978-4-7678-2423-9)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] なし</p>	

授業科目名 (副題)	子ども心理学		
担当者	松岡 恵		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ] 乳幼児期や就学前期の発達を中心に、みなさん自身の年代や子どもの保護者の年代も視野に入れた人生全体の発達の流れについて学びます。そのなかで、将来、自分が親になった時をイメージしながら必要な知識を学習します。</p> <p>[ 到達目標 ] ①子どもの心身の発達や、人生全体の発達の流れにおける前後のつながりを理解できるようになる。 ②現代社会における子どもの生活現象の諸問題についての具体をイメージできるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 次の授業で取り上げるテーマに沿ってテキストの指定箇所を読んで予習をしてください。また、授業後は、復習として指定箇所の解説文を読み、学習したことを自分なりにノートにまとめてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ] 小テスト(20%)、レポート(20%)、発表(20%)、レポート以外の提出物(40%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 学習成果について個別にコメントします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ] 授業を通して子どもとの触れ合いや子どもへの関心を高められる人を歓迎します。</p>			

授業科目名 (副題)	子ども心理学
担当者	松岡 恵
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 子どもを知る</li> <li>3. 命のはじまり:胎児期</li> <li>4. 命のリレー:妊娠と出産</li> <li>5. 良い目を育てる:感覚の世界</li> <li>6. 心の絆:愛着</li> <li>7. 性格の形成:気質</li> <li>8. 発達の仕組み:遺伝と環境</li> <li>9. 子どもの想像力:物語の世界から</li> <li>10. 社会性の育ち:子ども同士の遊び</li> <li>11. 子どもとの関わり(実践)保育の観察</li> <li>12. 子どもの障がいへの理解</li> <li>13. 子育て支援の実際</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法:小テスト(20%)、レポート(20%)、発表(20%)、レポート以外の提出物(40%)</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『エピソードで学ぶ赤ちゃんの発達と子育て いのちのリレーの心理学』 著者名:菅野幸恵・塚田みちる・岡本依子 出版社:新曜社 (978-4-7885-1215-3)</p> <p>『じぶんでつくる6さいまでのアルバム』 著者名:やまわきゆりこ 出版社:福音館書店 (4-8340-1722-2)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>なし</p>	



授業科目名 (副題)	コンピュータと情報発信		
担当者	浅木森 和夫		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	○
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          情報社会は、コンピュータとネットの繋がりがからなっています。インターネットで利用されているウェブページは、情報社会ではキーとなる技術です。授業では、ウェブページを用いた情報発信を学びます。ウェブページで利用可能な多くのメディアを工夫して使用することにより、幅広い多様な情報発信を実現することができます。</p> <p>[ 到達目標 ]          授業を通して、次のことを目標とします。          ① ウェブページの作成、保守管理ができる          ② ウェブページのデザインができる          ③ 多様なメディアの特徴を理解し、適切なメディアを利用した情報発信ができる</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          授業では、LMS [<a href="http://cosmos.kwjc.kobe-wu.ac.jp/">http://cosmos.kwjc.kobe-wu.ac.jp/</a>](学習管理システム)を利用します。LMSを用いて学習の振り返りや、学習成果の定着を確認するため小テストを実施します。そのため、授業時間以外でもオンラインで予習や復習に努めることが求められます。          各回の講義についての2時間程度予習や復習を行うこと。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          授業への積極的な参加・学習への意欲、フォーラムへの投稿、振り返り(20%)、小テスト、授業中の課題(40%)、理解度確認テスト(40%)をもとに成績を評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          振り返りには、毎回、授業のはじめにディスプレイに表示して解説します。課題は、締め切り後解答について解説します。テストは、終了後解答を公開します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          授業では LMSを利用します。LMSの利用方法、ファイルシステム、コンピュータに必要な論理的思考などについて、先行知識を有していることが望まれます。なお、コンピュータグラフィックスや画像処理に関係する科目の履修は、この授業で大変役に立ちます。コンピュータを学ぶには根気と毎日の積み重ねが必要です。ゆっくり、じっくり学習を進める強い意志を期待しています。</p>			

授業科目名 (副題)	コンピュータと情報発信
担当者	浅木森 和夫
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. インターネットとウェブページ</li> <li>3. WWWの仕組み</li> <li>4. ウェブページの構成</li> <li>5. HTML言語、HTML 要素と基本タグ</li> <li>6. テキストの構造(見出し・段落・箇条書き)</li> <li>7. 表の作成(Table)</li> <li>8. リンクとアンカー</li> <li>9. イメージデータの作成と編集</li> <li>10. スタイルシート</li> <li>11. ページのレイアウト</li> <li>12. リンクの活用</li> <li>13. ウェブページに関する理解度確認・解説</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 課題、試験</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] なし</p>	

授業科目名 (副題)	CG演習 I (グラフィック)		
担当者	尼子 実沙		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	グラフィックデザイナーの経験を有する教員がAdobePhotoshopを使いビジネスに必要な画像処理を指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]            演習ではAdobe Photoshopを用いて画像処理の方法を学びます。これからの生活の中でD.T.P.(デスク・トップ・パブリッシング=コンピュータ・システムを用いたコンパクトな編集、レイアウト作業)はますます日常的なものになってきています。画像処理の技術を身に付けることによって表現の幅がひろがり、より相手に説得力のある作品ができ上がります。これらの技術を分かりやすく説明していきます。</p> <p>[ 到達目標 ]            複数の画像処理を学ぶことによって、相手に自分のイメージするデザインを正確に伝えることができるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]            前回は学習した成果を次回の授業で確認するので、復習をしておいてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]            作品の完成度(70%)と勉学態度(30%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]            学内共用フォルダを使って添削、評価をします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]            毎回授業の最初にその日の重要な事項を説明します。遅刻はできるだけしないよう出席してください。コンピュータの台数が限られていますので、受講者の上限25名とします。多数の場合はくじ引きとします。</p>			

授業科目名 (副題)	CG演習 I (グラフィック)
担当者	尼子 実沙
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション Adobe Photoshopの基本知識と基本操作</li> <li>2. 写真の取り込みと選択範囲の作り方</li> <li>3. レイヤーの基本知識と使い方</li> <li>4. 写真の色補正① 調整レイヤーと選択ツールの習得</li> <li>5. 写真の色補正② 色調補正と色の仕組みの習得</li> <li>6. 写真のレタッチの習得</li> <li>7. デジタル作画:彩色方法とフィルターの理解</li> <li>8. 文字や図形の活用</li> <li>9. Adobe Illustratorとの互換性① 配置とトリミング</li> <li>10. Adobe Illustratorとの互換性① 文字とレイアウト</li> <li>11. 作品制作</li> <li>12. 作品制作</li> <li>13. 作品の出力 画像処理に関する理解度の確認</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法:アプリケーションの使い方を理解し、伝えたい内容に適した表現の選択、制作ができたかで評価します。</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びをとおして、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法:文書の視覚的効果を理解し、人に優しいデザインが習得できたかで評価します。</p> <p>【2-1】客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力を有している。 成績評価方法:伝えたい情報に対して、相手の理解度が高まる方法を考察し、具現化できたかで評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 必要に応じてプリントを配布します。</p>	

授業科目名 (副題)	CG演習Ⅱ(ビジネス文書)		
担当者	尼子 実沙		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	グラフィックデザイナーの経験を有する教員がAdobe Illustratorを使った文書を指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>演習ではAdobe IllustratorとAdobe Photoshopを用いて文書作成の技術を習得します。CG演習Ⅰでも述べましたが、これからの生活の中でD.T.P.(デスク・トップ・パブリッシング=コンピュータ・システムを用いたコンパクトな編集、レイアウト作業)はますます日常的なものになってきています。このことは一般の企業においても同じです。相手にわかりやすく内容を伝えることができれば、デザインの基本である「やさしさ」につながります。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>グラフィックソフトを用いてどのような文書がよりわかりやすいのか、理解力と実践力を身に付けることができるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>前日に学習した成果を次回の授業で確認するために復習をしておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>作品の完成度(70%)と勉学態度(30%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>学内共用フォルダを使って添削、評価をします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>毎回授業の最初にその日の重要な事項を説明します。遅刻はできるだけしないよう出席してください。 コンピュータの台数が限られていますので、受講者の上限25名とします。多数の場合はくじ引きとします。</p>			

授業科目名 (副題)	CG演習Ⅱ(ビジネス文書)
担当者	尼子 実沙
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 読む人にやさしいビジネスの文書とは何か Adobe Illustratorの基礎知識と基本操作</li> <li>2. 文字の使い方① フォントの理解</li> <li>3. 文字の使い方② 文字と段落の理解</li> <li>4. 視覚効果の高い文書の作成① 情報の整理とレイアウト</li> <li>5. 視覚効果の高い文書の作成② 画面の余白</li> <li>6. オブジェクトの制作:線と図形</li> <li>7. オブジェクトの変形・加工:ペンツール</li> <li>8. 演習:名刺を作ってみよう</li> <li>9. イラスト、写真、グラフを導入</li> <li>10. レイヤーの概念と使い方</li> <li>11. Adobe Photoshopとの関連性:写真の配置とトリミング</li> <li>12. 作品制作</li> <li>13. Adobe Illustratorを用いた文書作成についての理解度の確認</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法:文書の視覚的効果を理解し、人に優しいデザインが習得できたかで評価します。</p> <p>【2-1】客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力を有している。 成績評価方法:どのようにすれば見る人にとって理解度が高まるか、ということ、様々な事例を習得し、具現化できるかで評価します。</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法:アプリケーションの使い方を理解し、人に伝わる文書の作成ができているかで評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 必要に応じてプリントを配布します。</p>	

授業科目名 (副題)	色彩学	
担当者	辻田 美和	
実務経験のある教員による授業		
実務経験内容		
[アクティブラーニング授業]		
PBL(課題解決型)		反転授業
ディスカッション・ディベート		グループワーク
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク
その他	配色カードを用いた課題演習に取り組みます。	
[ICTの活用]		
manaba	○	Moodle
その他		
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>ふだん何気なく感じていた色の世界に目を向けてみると、それはひとつの分野では語ることでできない広い領域であることに気がつきます。色の知覚から表現までの過程がかかわる領域の広さを考えてみると、色彩学は科学と芸術を両極にもつ総合の学であります。</p> <p>授業では色彩に関する基礎的な知識を身に付け、理解を深めるために配色カードを用いた演習に取り組みます。自分自身で配色を考える中から学び、色彩への興味をひろげて日常生活の中に活かしていくことをめざします。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①色彩検定3級程度の基礎的知識を身に付けることができる。          ②配色について学び、実践的に取り組むことができる。          ③色彩の多様な世界に触れ、日常生活の中に活かしていくことができるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>日常生活の中で出会う色彩について関心を持ち、前回の授業で学んだ内容を復習しておいてください。授業内に課題作品が仕上がらなかった場合は、仕上げて再提出してください。各回の講義についての予習・復習を行う(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>小テスト①②(50%)、テキスト・課題演習の提出物(ワークシート)(40%)、受講態度(10%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>授業にて取り組んだワークシート、テキストは提出後に返却し、振り返りを行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>授業では配色カードを使用した課題演習に取り組みますので、各自、はさみ・のりを持参してください。詳しくは授業にて説明します。</p>		

授業科目名 (副題)	色彩学
担当者	辻田 美和
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション、色の世界の広がり</li> <li>2.光と色 色が見える仕組み</li> <li>3.色の分類と三属性・混色</li> <li>4.色の分類と色名</li> <li>5.色彩心理(1)色もたらす心理的効果①色の連想と象徴、小テスト①</li> <li>6.色彩心理(2)カラーヒストリー</li> <li>7.色彩心理(3)色もたらす心理的効果②色の視覚効果</li> <li>8.色彩調和 配色(1)色相から考える</li> <li>9.色彩調和 配色(2)トーンから考える</li> <li>10.日本の伝統配色</li> <li>11.色彩調和 配色(3)ユニフォームの配色、小テスト②</li> <li>12.色彩心理(4)色彩と映像</li> <li>13.色彩と生活</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 小テスト①②、課題演習(ワークシート、テキスト)で評価します。</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法: 課題演習(ワークシート、テキスト)で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『色彩検定公式テキスト3級編』 著者名:文部科学省認可A. F. T 出版社:A.F.T (978-4-901257-18-3) 新配色カード199a</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] なし</p>	



授業科目名 (副題)	実践資格英語 I		
担当者	谷山 澤子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	○		
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>&lt;TOEIC Training初級&gt;          グローバルに活躍するためには、英語能力は不可欠です。TOEICのスコアを伸ばすことは、就職や将来の可能性を広げる助けになるといえるでしょう。          授業ではTOEICテストの得点400～500点程度の獲得をめざし、TOEICテストの出題形式に慣れ、リスニング能力を伸ばし、英文の読解力を付けることを中心に、ビジネスの多様な場面における問題をユニットごとに練習します。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①Listening能力を向上させるために、英語表現を聞いて意味がわかるようになる。          ②Readingの能力を伸ばすために、英文を多読し意味が即時にわかるようになる。          ③英語の語彙を増やし、場面に合った文法が使えるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>読解力を付けるための課題を出しますので、必ず課題をやってください。リスニングで聞き取れなかった言葉や苦手な音の強化をするために、音声と意味が同時に理解できるまで聞いてください。          各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>理解度確認テスト(50%)、リーディングとリスニングのまとめのテスト(50%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>理解度確認テスト及びリーディングとリスニングのまとめのテストは、解答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>英語能力のなかで、自分の苦手なところを見つけ強化するために努力をしてください。</p>			

授業科目名 (副題)	実践資格英語 I
担当者	谷山 澤子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to TOEIC Listening and Reading Test、出題形式および傾向と対策</li> <li>2. Chapters 1 &amp; 2</li> <li>3. Chapters 3 &amp; 4</li> <li>4. Chapters 5 &amp; 6</li> <li>5. Chapters 7 &amp; 8</li> <li>6. Chapters 9 &amp; 10</li> <li>7. Chapters 11 &amp; 12</li> <li>8. Chapters 13 &amp; 14</li> <li>9. Chapters 15 &amp; 16</li> <li>10. Chapters 17 &amp; 18</li> <li>11. Chapters 19 &amp; 20</li> <li>12. Listening まとめのテスト</li> <li>13. Reading まとめのテスト</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法:理解度確認テスト(50%)、リーディングとリスニングのまとめのテスト(50%)で評価します。</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法:理解度確認テスト(50%)、リーディングとリスニングのまとめのテスト(50%)で評価します。</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法:理解度確認テスト(50%)、リーディングとリスニングのまとめのテスト(50%)で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『Beat Your Best Score on the TOEIC L&amp;R Test』 著者名:Noboru Matsuoka他著 出版社:松柏社 (略号=745)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>なし</p>	

授業科目名 (副題)	実践資格英語Ⅱ		
担当者	谷山 澤子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	○		
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          &lt;TOEIC Training中級&gt;          グローバルに活躍するためには、英語能力は不可欠です。TOEICのスコアを伸ばすことは、就職や将来の可能性を広げる助けになるといえるでしょう。          授業では中級レベルの学習者を対象にTOEICテストの得点500～700点程度の獲得をめざし、TOEICテストの出題形式に慣れ、リスニング能力を伸ばし、英文の読解力を向上することを中心に、旅行、娯楽、芸術、不動産、雇用、苦情処理、講演、発表、契約、ビジネスなどに関する問題を練習します。速読や文法を強化し、英文内容把握のコツをつかみ、実際のTOEICテスト問題に慣れるように練習します。</p> <p>[ 到達目標 ]          ①Listening能力を向上させるために、英語表現を聞いて意味がわかるようになる。          ②Readingの能力を伸ばすために、英文を多読し意味が即時にわかるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          予習として、読解力を付けるための課題を出しますので、必ず課題をやってください。復習として、リスニングで聞き取れなかった言葉や苦手な音の強化をするために、音声を何度も聞いて音に慣れてください。また、毎回の授業で知らなかった語彙を復習し覚えてください。          各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          理解度確認テスト(50%)、リーディングとリスニングのまとめのテスト(50%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          理解度確認テスト及びリーディングとリスニングのまとめのテストは、解答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          英語能力のなかで、自分の苦手なところを見つけ強化するために努力をしてください。</p>			

授業科目名 (副題)	実践資格英語Ⅱ
担当者	谷山 澤子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to this class and the TOEIC Listening and Reading Test</li> <li>2. Unit 1 Food &amp; Restaurant</li> <li>3. Unit 2 Entertainment</li> <li>4. Unit 3 Travel</li> <li>5. Unit 4 Sports \$ Health</li> <li>6. Unit 5 Purchasing</li> <li>7. Unit 6 Housing &amp; Accommodations</li> <li>8. Units 7 &amp; 8 Office Work (1) &amp; (2)</li> <li>9. Unit 9 Employment</li> <li>10. Unit 10 Lectures &amp; Presentations</li> <li>11. Units 11 &amp; 12 Business Affairs (1) &amp; (2)</li> <li>12. Listening まとめのテスト</li> <li>13. Reading まとめのテスト</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 理解度確認テスト(50%)、リーディングとリスニングのまとめのテスト(50%)で評価します。</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法: 理解度確認テスト(50%)、リーディングとリスニングのまとめのテスト(50%)で評価します。</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 理解度確認テスト(50%)、リーディングとリスニングのまとめのテスト(50%)で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『Fast Pass for the TOEIC L&amp;R Test』 著者名: 上仲律子他著 出版社: センゲージラーニング株式会社 (978-4-86312-350-2)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>なし</p>	

授業科目名 (副題)	社会調査論		
担当者	山野 恵美		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	社会医学を専門とする教員が、社会の課題を検討し、質問紙を用いた調査する方法を指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p><b>【メディア授業】</b>  社会調査の現状、方法論、統計、バイアスなど社会調査の基礎知識を身に付けます。授業では実際に多くの具体的事例を用いてわかりやすく説明します。</p> <p>[ 到達目標 ]  社会調査の意義、手法、サンプリング、データの読み込み方を理解のうえ、まとめのプレゼンテーションができるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  (1)新聞・雑誌・インターネットその他のメディアに掲載されている社会調査の事例に目を通してください。  (2)社会調査実施計画書の小レポートを作成し、授業で指定した期日までに必ず提出してください。  各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  ・実習で作成したプレゼンテーションファイル提出 (50%)  ・調査実施計画書提出 (30%)  ・講義態度 (20%)・・・講義中に指定したファイルの提出状況、授業への参加状況</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  調査テーマを決定し、調査実施、結果をまとめる過程において、適宜、理解を深めるように指導を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  私語厳禁です。積極的な講義への取り組みを期待します。  受講人数は、30名までとします。</p>			

授業科目名 (副題)	社会調査論
担当者	山野 恵美
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会調査を知っていますか？</li> <li>2. 社会調査の概要</li> <li>3. 社会調査の手法</li> <li>4. 社会調査の進め方・倫理的側面</li> <li>5. 社会調査の具体例を読み解く</li> <li>6. 質的調査・量的調査の手法</li> <li>7. 社会調査と統計</li> <li>8. 社会調査におけるプレゼンテーション</li> <li>9. 社会調査実習1(質問票の作成方法)</li> <li>10. 社会調査実習2(エクセル統計の使い方)</li> <li>11. 社会調査実習3(プレゼンテーションの作成方法)</li> <li>12. 社会調査実習4(パワーポイントを用いた調査内容まとめ、発表)</li> <li>13. 社会調査実習5(パワーポイントを用いた調査内容まとめ、発表、完成版ファイルを提出)</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。  成績評価方法：・実習で作成したプレゼンテーションファイル ・ 提出(50%) ・ 調査実施計画書提出(30%) ・ 講義態度(20%)・・・講義中に指定した ・ ファイルの提出状況、授業への参加状況</p> <p>【2-1】客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力を有している。  成績評価方法：・実習で作成したプレゼンテーションファイル ・ 提出(50%) ・ 調査実施計画書提出(30%) ・ 講義態度(20%)・・・講義中に指定した ・ ファイルの提出状況、授業への参加状況</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『新・社会調査へのアプローチ 論理と方法』 著者名:大谷信介他 出版社:ミネルヴァ書房 (ISBN-978-4623066544)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>適宜資料配布します。</p>	

授業科目名 (副題)	社会福祉概論		
担当者	出口 博久		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	高齢者福祉施設での実務経験を活かして、介護保険制度の理解や今日的課題(老老介護・認知症の理解・福祉現場の実態など)を具体的な例を示しながら学習を進めます。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  社会福祉の思想・理念、歴史、制度と援助方法、及び社会問題、人権問題、人間理解における基本的な知識や考え方について概説します。</p> <p>[ 到達目標 ]  ①社会福祉の意義と必要性について理解できるようになる。  ②社会福祉の思想・理念、基本原理について理解できるようになる。  ③社会福祉法制、社会福祉サービス体系について理解できるようになる。  ④社会福祉の援助対象と援助の視点について理解できるようになる。  ⑤社会福祉と人権・差別問題との関連について理解できるようになる。  ⑥社会福祉に関する専門職の概要と役割について理解できるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  社会福祉制度は、年金制度や健康保険(医療保険)制度、介護保険制度に代表されるように、現状の課題に対応して常に改変を繰り返しています。  また、社会福祉が取り扱う領域は、子どもからお年寄りまで、あるいは家族や身近な地域の社会問題から国際問題までの広範囲です。そのため、社会的背景を理解するためには、幅広い知識や情報が必要となります。  以上のようなことに対応するためには、社会の出来事についてメディア情報やインターネットなどから、社会情勢に関心を持つことで学習内容の理解が深まります。情報を収集して学習に備えてください。</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  中間で行うミニレポート(20%) 理解度確認小テスト(80%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  ミニレポート等の返却時に総評や解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  社会福祉は、現実の社会や人間に関する問題を取り扱います。そのため講義の中では、正解が一つではない場合があったり、正解を導き出すことが困難なケースもあります。基本的な知識は理解して身に付ける必要がありますが、課題となる社会問題や人権問題などは客観的な視点で向き合うことが大切です。安易に正解を求めるだけでなく、自身の課題として捉えて様々な角度から自分なりの答えを見つけてください。</p>			

授業科目名 (副題)	社会福祉概論
担当者	出口 博久
<p>[ 授業計画 ]</p> <p>【対面授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の概念</li> <li>2. 社会福祉を取り巻く状況</li> <li>3. 社会福祉の歴史の変遷</li> <li>4. 社会福祉制度と実施体制</li> <li>5. 福祉専門職の役割と利用者保護</li> <li>6. 社会保障制度のしくみと公的扶助</li> <li>7. 子ども家庭福祉の概念</li> <li>8. 障高齢者福祉の概念と実態</li> <li>9. 高齢者福祉の概念と介護保険制度</li> <li>10. 地域福祉の重要性(支え合う社会づくり)</li> <li>11. 医療福祉と人権問題(虐待防止法と実態)</li> <li>12. 社会福祉の相談援助の方法</li> <li>13. 社会福祉の課題と関わり方</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 定期試験 70% 授業の取組・発表 15% ・ ミニレポート 15%</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法: 定期試験 70% 授業の取組・発表 15% ・ ミニレポート 15%</p> <p>【3-2】 】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法: 定期試験 70% 授業の取組・発表 15% ・ ミニレポート 15%</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] プリント、資料を配付します。</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 講義の中で紹介します。</p>	



授業科目名 (副題)	住居学		
担当者	本保 弘子		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	一級建築士として住宅設計の実務経験を有する教員が、間取りや住宅の選択、住環境の安全など住生活の課題について解説します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>自分自身の経験のなかだけで住居・住環境を考えるのではなく、最近の社会情勢もふまえた広い視野で、そして住居学の最新の研究成果も理解したうえで、これからの住居・住環境のあり方を考えてみましょう。</p> <p>「子どもの自立の意識を育てる子ども部屋とは」、「幼児が主体的に活動できる安全な遊び場とは」、「持家か賃貸住宅か」、「一戸建かマンションか」、「共働きに便利な住まいとは」、「安定した住生活の経営とは」、「老後もできるだけ自立できる住まいとは」など様々な現代の住生活の課題について、わかりやすく解説します。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>様々な住居・住環境の課題に対して、自分自身で考える力を身に付けることができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>授業の前にテキストの指定箇所を読んできてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>受講態度(20%)、1回目～12回目小テスト(30%)、理解度確認テスト(50%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>1回目～12 回目の小テストの解説は、次回授業の始めに行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>授業中のスマホ、私語や居眠りなど授業に参加しない学生は欠席扱いとします。 当日の講義内容について、授業時間の最後の10分を使って小テスト(教科書・ノートは見てもよい)がありますので、授業中に内容を理解し、わかりにくいところは質問してください。</p>			

授業科目名 (副題)	住居学
担当者	本保 弘子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の住まいの特徴</li> <li>2. 先史・古代の住まい</li> <li>3. 中世・近世の住まい</li> <li>4. 近代の住まい、間取り</li> <li>5. リビングルーム</li> <li>6. L/D/Kのつながり</li> <li>7. キッチン、インテリア</li> <li>8. 夫婦の部屋</li> <li>9. 子どもと住まい</li> <li>10. 高齢者の住まい</li> <li>11. 住宅の選択、高層居住</li> <li>12. 超高齢社会の住政策</li> <li>13. 現代の住生活に関する課題解説と理解度の確認</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 小テスト、確認テスト</p> <p>【2-1】客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力を有している。 成績評価方法: 小テスト、確認テスト</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法: 小テスト、確認テスト</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 『住居学入門』 著者名: 湯川聰子 井上洋子著 出版社: 学芸出版社 (ISBN4-7615-2237-2)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] なし</p>	

授業科目名 (副題)	住居計画学		
担当者	山口 尚之		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	一級建築士として設計監理の仕事に従事する者が、その経験を活かして、住居計画学に関わる事柄について指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          住まいは、だれにとっても身近な空間で生活に密着しています。住まい方も多様です。授業では、数々の具体的実例を示しながら、住宅の可能性について講義します。</p> <p>[ 到達目標 ]          住宅の可能性について主体的に考えることができるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          シラバスの授業計画や、授業中に予告した内容を参考に、住宅雑誌等を読んで関心を高めてきてください。          各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          授業態度(15%)、小レポート(30%)、テスト(55%)で評価します。          授業態度は授業への参加状況等で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          提出した小レポートは、いくつかをピックアップし、次回以降の講義内にて解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          遅刻、欠席をすると授業についていけなくなるので注意して下さい。</p>			

授業科目名 (副題)	住居計画学
担当者	山口 尚之
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ガイダンス(住居計画学とは)</li> <li>2.住居と風土</li> <li>3.日本の住まいの変遷(先史から近世までの住まい)</li> <li>4.日本の近代の住まい</li> <li>5.西欧の住まい</li> <li>6.集まって住む空間</li> <li>7.住まいの単位とモジュール</li> <li>8.住まいとインテリア／中間まとめ</li> <li>9.住空間の計画～近代・現代の住まいを通じて～① (住まいの多角的な意味、住空間の構成)</li> <li>10.住空間の計画～近代・現代の住まいを通じて～② (中間領域、各室の計画)</li> <li>11.住まいのサステナビリティ ①(SDGs、ユニバーサルデザイン)</li> <li>12.住まいのサステナビリティ ②(リノベーション・コンバージョン、サステナブルな住環境)</li> <li>13.講義内容全般についての理解度の確認／最終まとめ</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法:授業態度(15%)、小レポート(30%)、テスト(55%)です。授業態度は授業への参加状況等で評価します。</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法:授業態度(15%)、小レポート・小テスト(30%)、テスト(55%)です。授業態度は授業への参加状況等で評価します。</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって主体的に学修を深め、資格取得に資する力を有している。 成績評価方法:授業態度(15%)、小レポート・小テスト(30%)、テスト(55%)です。授業態度は授業への参加状況等で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] プリント配布</p>	

授業科目名 (副題)	住居デザイン基礎実習		
担当者	本保 弘子		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	一級建築士として住宅設計の実務経験を有する教員が、住宅設計とインテリア設計に関する基礎的な図面表現の技術を指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>製図台、製図道具を使って、図面表現の基本を学びます。まず、平面図、断面図や立体的に表現するアクソメ図などを作成します。</p> <p>設計製図以外の実習では、住宅各室の配置や窓の計画、照明計画を理解するために、屋内照度を測定します。</p> <p>これからのインテリア・住居・住環境のデザインにおいて、単に青年期や壮年期の身軽な健常者のみを前提とすることはできません。そこで、生涯の生活のなかで多くの人が体験するであろう育児期や高齢期、不意のけがや病気という障害期における住居・住環境とのかかわりについても車椅子やベビーカーを使って体験的に学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>① 基礎的な図面表現の技術が修得できる。</p> <p>② 設計に必要な室内照度環境とバリアフリーデザインの基礎知識が修得できる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>住宅デザインのための資料を収集してください。例えば家具や家電のパンフレット、マンションや一戸建住宅の広告、家具や部屋の各部分の測定などが参考になります。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>受講態度(20%)、提出図面(60%)、レポート(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>図面提出時には毎回、確認と講評を行います。レポートは内容により、提出の次の授業時に書き直しを指導します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>授業中のスマホ、私語や居眠りなど授業に参加しない学生は欠席扱いとします。欠席、遅刻のために授業の進度に遅れることのないようにしてください。</p>			

授業科目名 (副題)	住居デザイン基礎実習
担当者	本保 弘子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平面図等の図面記号(壁・窓・ドア・戸など)</li> <li>2. マンションの間取り、家具配置</li> <li>3. 設計製図のための線の練習 平面図のかき方 「住居デザイン基礎実習」のレポートの書き方</li> <li>4. 車椅子に対応した戸建住宅の平面図Ⅰ(壁中心線) 車椅子で構内のバリアフリーデザインを検討する。</li> <li>5. 車椅子に対応した戸建住宅の平面図Ⅱ(壁厚の線、建具、階段) ベビーカーで住環境デザインを評価する。</li> <li>6. 車椅子に対応した戸建住宅の平面図Ⅲ(造り付け収納、設備)</li> <li>7. 車椅子に対応した戸建住宅の平面図Ⅳ(家具配置、仕上げ)</li> <li>8. 単身者用マンションのインテリア計画Ⅰ(平面図)</li> <li>9. 単身者用マンションのインテリア計画Ⅱ(アクソメ図)</li> <li>10. 単身者用マンションのインテリア計画Ⅲ(カラーコーディネート)</li> <li>11. 屋内照度分布図</li> <li>12. 断面図、家具の三面図(テーブル・机)</li> <li>13. 住宅外観パース、椅子の三面図</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法：図面提出とレポート提出</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法：図面提出とレポート提出</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法：図面提出とレポート提出</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] なし</p>	

授業科目名 (副題)	住居デザイン基礎実習		
担当者	本保 弘子		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	一級建築士として住宅設計の実務経験を有する教員が、住宅設計とインテリア設計に関する基礎的な図面表現の技術を指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>製図台、製図道具を使って、図面表現の基本を学びます。まず、平面図、断面図や立体的に表現するアクソメ図などを作成します。</p> <p>設計製図以外の実習では、住宅各室の配置や窓の計画、照明計画を理解するために、屋内照度を測定します。</p> <p>これからのインテリア・住居・住環境のデザインにおいて、単に青年期や壮年期の身軽な健常者のみを前提とすることはできません。そこで、生涯の生活のなかで多くの人が体験するであろう育児期や高齢期、不意のけがや病気という障害期における住居・住環境とのかかわりについても車椅子やベビーカーを使って体験的に学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>① 基礎的な図面表現の技術が修得できる。</p> <p>② 設計に必要な室内照度環境とバリアフリーデザインの基礎知識が修得できる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>住宅デザインのための資料を収集してください。例えば家具や家電のパンフレット、マンションや一戸建住宅の広告、家具や部屋の各部分の測定などが参考になります。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>受講態度(20%)、提出図面(60%)、レポート(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>図面提出時には毎回、確認と講評を行います。レポートは内容により、提出の次の授業時に書き直しを指導します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>授業中のスマホ、私語や居眠りなど授業に参加しない学生は欠席扱いとします。欠席、遅刻のために授業の進度に遅れることのないようにしてください。</p>			

授業科目名 (副題)	住居デザイン基礎実習
担当者	本保 弘子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平面図等の図面記号(壁・窓・ドア・戸など)</li> <li>2. マンションの間取り、家具配置</li> <li>3. 設計製図のための線の練習 平面図のかき方 「住居デザイン基礎実習」のレポートの書き方</li> <li>4. 車椅子に対応した戸建住宅の平面図Ⅰ(壁中心線) 車椅子で構内のバリアフリーデザインを検討する。</li> <li>5. 車椅子に対応した戸建住宅の平面図Ⅱ(壁厚の線、建具、階段) ベビーカーで住環境デザインを評価する。</li> <li>6. 車椅子に対応した戸建住宅の平面図Ⅲ(造り付け収納、設備)</li> <li>7. 車椅子に対応した戸建住宅の平面図Ⅳ(家具配置、仕上げ)</li> <li>8. 単身者用マンションのインテリア計画Ⅰ(平面図)</li> <li>9. 単身者用マンションのインテリア計画Ⅱ(アクソメ図)</li> <li>10. 単身者用マンションのインテリア計画Ⅲ(カラーコーディネート)</li> <li>11. 屋内照度分布図</li> <li>12. 断面図、家具の三面図(テーブル・机)</li> <li>13. 住宅外観パース、椅子の三面図</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 図面提出とレポート提出</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 図面提出とレポート提出</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 図面提出とレポート提出</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] なし</p>	



授業科目名 (副題)	住宅デザイン実習 I		
担当者	本保 弘子		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	一級建築士として住宅設計の実務経験を有する教員が、住宅設計製図の基本を指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>1回目～9回目の授業では、住宅設計製図の基本を学びます。木造住宅、鉄筋コンクリート壁式構造の住宅、鉄筋コンクリートラーメン構造の住宅について、平面図、配置図、断面図、立面図、詳細図を作成します。設計に必要となる各種住宅構造の基礎的事項についての解説もあります。</p> <p>10回目～13回目の授業では、住宅設計の課題に挑戦します。基本計画を練り、エスキスチェックを受けます。その後、平面図 断面図、立面図を作成し、住宅設計製図を完成させます。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>木造住宅と鉄筋コンクリート住宅の設計製図の基礎的技法が修得できる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>1年の住居・インテリア関連の実習と同様に住宅設計資料の収集を求めます。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>受講態度(20%)と提出図面(80%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>図面提出時には毎回、確認と講評を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>「住居デザイン基礎実習」の単位修得後に履修してください。</p> <p>授業中のスマホ、私語や居眠りなど授業に参加しない学生は欠席扱いとします。製図の前に、必ずエスキスチェックを受けてください。遅刻、欠席のために授業の進度に遅れることのないように気をつけてください。</p>			

授業科目名 (副題)	住宅デザイン実習 I
担当者	本保 弘子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. (1) 製図の基本             <ul style="list-style-type: none"> <li>和室と洋室の平面詳細図</li> </ul> </li> <li>2. 木造住宅配置図兼1階平面図 階段詳細図</li> <li>3. 木造住宅2階平面図</li> <li>4. 木造住宅 断面図、立面図</li> <li>5. RC壁式構造の住宅 配置図兼1階平面図</li> <li>6. RC壁式構造の住宅 2階平面図</li> <li>7. RC壁式構造の住宅 断面図、立面図</li> <li>8. RCラーメン構造の建築 配置図兼1階平面図</li> <li>9. RCラーメン構造の建築 2階平面図、断面図、立面図</li> <li>10. (2) 住宅設計製図             <ul style="list-style-type: none"> <li>設計手法の説明 基本計画</li> </ul> </li> <li>11. 住宅設計製図 平面図</li> <li>12. 住宅設計製図 断面図、立面図</li> <li>13. 住宅設計製図仕上げ、作品講評</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 提出図面</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 提出図面</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法: 提出図面</p> <p>【2-4】持続可能な社会のために、未来を切り開く創造力を有している。 成績評価方法: 提出図面</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 提出図面</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] なし</p>	

授業科目名 (副題)	住宅デザイン実習Ⅱ		
担当者	本保 弘子		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	一級建築士として住宅設計の実務経験を有する教員が、木造住宅と鉄筋コンクリート住宅の設計製図を指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  住宅設計の前に身近な課題として、短大構内の学生憩いの場をデザインし、スケッチパースを作成します。  課題となる住宅の設計条件としては、敷地、構造、規模、所要室、建築設備、入居者の家族構成、駐車スペース、遊びスペース、植栽などです。配置図兼平面図、断面図、立面図、面積表を作成します。木造、鉄筋コンクリート壁式構造、鉄筋コンクリートラーメン構造の住宅設計製図課題があります。</p> <p>[ 到達目標 ]  木造住宅、鉄筋コンクリート住宅の設計を理解し、平面図、配置図、断面図、立面図をかけるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  2年前期までの住居・インテリア関連の実習科目と同様に住宅設計資料の収集を求めます。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  受講態度(20%)と提出図面(80%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  図面提出時には毎回、確認と講評を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  「住宅デザイン実習Ⅰ」の単位修得後に履修してください。  授業中のスマホ、私語や居眠りなど授業に参加しない学生は欠席扱いとします。  製図の前に、必ずエスキスチェックを受けてください。遅刻、欠席のために授業の進度に遅れることのないように気をつけてください。</p>			

授業科目名 (副題)	住宅デザイン実習Ⅱ
担当者	本保 弘子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. キャンパス内学生憩いの場スケッチパースⅠ 外観パース</li> <li>2. キャンパス内学生憩いの場スケッチパースⅡ インテリアパース</li> <li>3. 木造住宅の設計手法説明、基本計画</li> <li>4. 木造住宅 下図</li> <li>5. 木造住宅 1階配置図兼平面図 製図</li> <li>6. 木造住宅 2階平面図 製図</li> <li>7. 木造住宅 断面図、立面図 製図</li> <li>8. 鉄筋コンクリート壁式構造の住宅 設計手法説明 基本計画 下図</li> <li>9. 鉄筋コンクリート壁式構造の住宅 配置図兼1階平面図 製図</li> <li>10. 鉄筋コンクリート壁式構造の住宅 2階平面図、断面図、立面図 製図</li> <li>11. 鉄筋コンクリートラーメン構造の住宅 設計手法説明 基本計画 下図</li> <li>12. 鉄筋コンクリートラーメン構造の住宅 配置図兼1階平面図 製図</li> <li>13. 鉄筋コンクリートラーメン構造の住宅 製図 断面図、立面図 製図、作品講評</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 提出図面</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 提出図面</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法: 提出図面</p> <p>【2-4】持続可能な社会のために、未来を切り開く創造力を有している。 成績評価方法: 提出図面</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 提出図面</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] なし</p>	

授業科目名 (副題)	消費生活論		
担当者	神澤 佳子		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	消費生活センターでの実務経験にもとづき、消費者トラブルの事例と対応方法を解説し、今、消費者として身に付けておきたい知識と技能について指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>国際化、情報化、産業の高度化などによって、複雑・多様化した現代社会において、消費生活をとりまく環境は日々変化し、消費者問題は絶えることはありません。そのような中で、消費者には、自ら情報を収集し、自主的で合理的な意思決定や選択を行っていく能力が求められています。この授業では、消費生活の諸問題(契約、広告表示、インターネット、製品の安全性、家計、クレジットカード、環境問題など)と、その解決方法について学び、自立した消費者として行動できることをめざします。同時に、持続可能で公正な消費社会の一員として何ができるかを考えます。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①消費者問題が発生する背景や実態を理解することができる。          ②自立した消費者になるために必要な知識を習得し、情報の収集と選択ができる。          ③消費者として様々な問題についての的確に考え、周囲や次世代のことも考えた行動がとれる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>日頃、新聞等で報道される悪質商法や製品事故などの消費者問題とそれに対する国や企業の対応について情報収集してください。          各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>授業時のレポート(30%)、授業時の小テスト(30%)、理解度確認テスト(40%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>授業中に出す課題については、次の授業で正解の解説や、代表的な意見を紹介し、コメントをします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>消費生活についてより広く、深く考える授業です。日ごろから新聞やニュースで消費生活に関するできごとに関心を持つようにしてください。自分自身の消費生活をより良くしていきたいと思う人は、ぜひ受講してください。授業では、意見発表やレポートの報告などがありますので、積極的に参加してください。学生の興味関心によって、授業計画の内容を多少変更することがあります。</p>			

授業科目名 (副題)	消費生活論
担当者	神澤 佳子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>消費、消費生活、消費社会とは 消費の意味、消費者と事業者の関係、私たちの暮らす社会の特性を知る</li> <li>消費者問題とは何か 消費者問題の現状、問題発生要因、消費者問題の変遷・歴史を知る</li> <li>最近の消費者問題(トラブル)若者編 若者を中心に発生している問題の現状と背景、対応方法を学ぶ</li> <li>最近の消費者問題(トラブル)高齢者編 高齢者を中心に発生している問題の現状と背景、被害防止の方法について学ぶ</li> <li>インターネット・スマートフォンと消費者問題 IT化の進展に伴い発生する問題と対応方法について学ぶ</li> <li>消費生活と法律、契約の基礎知識 消費生活に関連する契約の基礎知識、消費者関連法について学ぶ</li> <li>消費者問題(トラブル)を防止するには(グループディスカッション) これまでで学んだ内容をもとに、消費者問題を防止するために、消費者、行政、企業にはどのような取り組みが必要か考える</li> <li>消費者行政と消費者教育、企業の取り組み 消費者問題を防止するための行政・企業の取組みと消費者教育について学ぶ</li> <li>製品・食品の安全性と暮らしの中のリスク 暮らしの中で発生する製品事故や食の安全を巡る問題の現状を知り、法規制と未然防止の方法を学ぶ</li> <li>表示・広告をめぐる諸問題と情報リテラシー 誇大な広告や不当表示の現状、表示広告に関する規制について知る。問題だと思う広告表示を見つけレポートにまとめ、情報との付き合い方の基本を学ぶ。</li> <li>クレジットカードと金銭管理 キャッシュレス化の進展に伴う問題を把握し、クレジットカードの仕組みと利用方法、金銭管理について学ぶ</li> <li>消費者市民社会を創るには 持続可能な社会を創るために、エシカル消費やSDGsについて学び、自分にできることを考える</li> <li>まとめ～多様化する消費者問題の課題と対応策～ これまでの内容をふまえ、より良い消費生活のために何が必要か、どのように行動したらよいか考えをまとめる。</li> </ol> <p>理解度確認テスト</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 授業時の小テスト・理解度確認テスト</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法: 授業時のレポート</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『暮らしの豆知識 2022年版』 著者名: 国民生活センター 出版社: 国民生活センター (9.78E+12)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>授業中に提示します 著者名: × 出版社: × (×)</p>	

授業科目名 (副題)	情報科学		
担当者	堀 桂太郎		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          コンピュータをより効果的に活用できるようになるために、コンピュータの構成や動作原理の基礎、周辺機器の特徴などについて学びます。また、プログラミング言語を用いる演習などを通して、基礎的なプログラミングの方法や考え方が理解できるようになることを目標にします。さらに、現代社会に不可欠なデータサイエンスの基礎として、ビッグデータや人工知能(AI)などの用語に関する説明やデータの統計処理方法について解説します。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① コンピュータにおけるデータの表現が理解できる。</li> <li>② コンピュータの構成と基本動作を説明できる。</li> <li>③ プログラミング言語を用いた基本的なプログラムを作成できる。</li> <li>④ コンピュータを用いた基本的な統計処理やデータ分析ができる。</li> </ol> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          各回の講義についての予習・復習、課題への取り組みを行ってください(各回、合わせて1 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          演習を含む授業に対して熱心に取り組む、授業中に課した課題を提出しかつ、レポートを提出することが必要です。成績評価は、授業態度(30%)、課題(50%)、レポート(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          課題やレポートは、添削して返却します。また、必要に応じて個別に問題点等を指摘し、改善を求めます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          この授業は、「情報リテラシー」や「情報基礎演習」などを受講し、パソコンの基本操作やWindows OSの基礎知識、文字データの入力方法等が身に付いているものとして進めます。表計算ソフトウェアを用いたデータの統計処理方法についても扱います。プログラミング演習などは、慣れるまでは努力が必要となるでしょう。自主的かつ、積極的に学習に取り組んでくれることを期待します。          ※コンピュータの台数が限られていますので、受講人数を制限することがあります。</p>			

授業科目名 (副題)	情報科学
担当者	堀 桂太郎
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス、コンピュータの概要</li> <li>2. データの表現、基数変換の基礎</li> <li>3. コンピュータの構成と動作</li> <li>4. コンピュータの論理回路</li> <li>5. コンピュータの周辺装置</li> <li>6. プログラミング言語の基礎</li> <li>7. アルゴリズムの基礎</li> <li>8. プログラミング演習1(順次処理)</li> <li>9. プログラミング演習2(選択処理)</li> <li>10. プログラミング演習3(繰り返し処理)</li> <li>11. プログラミング演習4(応用)</li> <li>12. データサイエンスの基礎</li> <li>13. データサイエンスの演習</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を身に付ける。 成績評価方法: 課題、レポート</p> <p>【2-1】客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力を身に付ける。 成績評価方法: 課題、レポート</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 配布資料などを用意します。</p>	



授業科目名 (副題)	情報基礎演習		
担当者	堀 桂太郎		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          表計算ソフトウェアのエクセルを用いたデータ入力、データ演算、グラフ作成、データベースの利用などについて学びます。また、プレゼンテーションソフトウェアのパワーポイントを用いたプレゼンテーションデータの作成方法などについても学びます。さらに、あるソフトウェアで作成したデータを他のソフトウェアで利用する方法についても学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]          ①エクセルによる基本的な計算処理ができる。          ②エクセルによる基本的なグラフ作成ができる。          ③エクセルによる基本的なデータベース処理ができる。          ④パワーポイントを用いたプレゼンテーションデータの作成ができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          各回の講義についての予習・復習、課題への取り組みを行ってください(各回、合わせて1 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          演習を含む授業に対して熱心に取り組み、授業中に課した課題を提出しかつ、レポートを提出することが必要です。成績評価は、授業態度(30%)、課題(50%)、レポート(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          課題やレポートは、添削して返却します。また、必要に応じて個別に問題点等を指摘し、改善を求めます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          この授業は、前期「情報リテラシー」を受講し、パソコンの基本操作やWindows10の基礎知識、文字データの入力方法等が身に付いているものとして進めます。表計算ソフトウェアを活用して各種のデータ処理ができるようになれば、多くの仕事が効率的にこなせるようになるでしょう。また、プレゼンテーションソフトウェアを活用して準備をすれば、伝えたいことが上手く伝わるわかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができるようになるでしょう。受講生のみなさんは、実践的な場面を想定して、効果的に問題解決ができるようなパソコンの利用技術を身に付けられるように自主的に学習に取り組んでください。          ※コンピュータの台数が限られていますので、受講人数を制限することがあります。</p>			

授業科目名 (副題)	情報基礎演習
担当者	堀 桂太郎
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス、表計算ソフトウェアの概要</li> <li>2. ワークシートの基礎</li> <li>3. データ入力</li> <li>4. 表の作成</li> <li>5. 関数と数式の基礎</li> <li>6. 相対参照と絶対参照</li> <li>7. グラフの基礎</li> <li>8. グラフの応用</li> <li>9. データの並べ替え、抽出</li> <li>10. 図・グラフ・表の挿入と編集</li> <li>11. プレゼンテーションソフトウェアの概要</li> <li>12. プレゼンテーションデータの作成演習(基礎)</li> <li>13. プレゼンテーションデータの作成演習(応用)</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を身に付ける。 成績評価方法: 授業態度、課題、レポート</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を身に付ける。 成績評価方法: 授業態度、課題、レポート</p> <p>【2-1】客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力を身に付ける。 成績評価方法: 授業態度、課題、レポート</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を身に付ける。 成績評価方法: 授業態度、課題、レポート</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 30時間アカデミックOffice2019 著者名: 杉本くみ子 大澤栄子 出版社: 実教出版 (978-4-407-34833-0)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] なし</p>	

授業科目名 (副題)	情報社会論		
担当者	浅木森 和夫		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	○
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>人類誕生から情報社会へ、歴史や文化の面から学びます。情報社会を支える情報通信技術 (ICT) について、長所や短所について学びを深めます。明日に向かってICTがどのように人の心に影響を与えるか、社会の姿を変えてしまう可能性をはらんだ人工知能などについても学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>授業を通して、次のことを目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 情報社会の基盤を構成する要素の理解ができる</li> <li>② デジタル情報の本質が理解できる</li> <li>③ 情報システムが生活に及ぼす影響について理解できる</li> <li>④ 情報倫理やマナーについて理解、実践できる</li> <li>⑤ 明日を生きる情報社会人になることができる</li> </ol> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>授業では、LMS(<a href="http://cosmos.kwjic.kobe-wu.ac.jp/">http://cosmos.kwjic.kobe-wu.ac.jp/</a>)(学習管理システム)を利用します。LMSで配信する資料や指示された資料は必ず予習をしてください。また、LMSのフォーラムを使ってディスカッションを行ってまいります。ディスカッションに必要な事項について事前に調べておきましょう。各回の講義についての2時間程度予習や復習を行うこと。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>授業への積極的な参加・学習への意欲、振り返り、フォーラムへの投稿・ディスカッション(30%)、授業中のレポート(30%)、理解度確認テスト(40%)をもとに成績の評価をします。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>振り返り、フォーラムへの投稿、ディスカッションについては、その都度ポイントを解説します。授業中の課題については、評価の後講評します。テストについては終了後解答を公開します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>情報社会は、とても変化の激しい複雑な社会です。毎日、身の回りで起こる事柄に関心を持つとともに、生活の中でどこに情報社会の特徴が現れているか自覚しながら、時間を過ごすとその授業の意味もよく理解できるでしょう。まずは、積極的に情報社会を見つめ関わろうとする意欲が大切です。</p>			

授業科目名 (副題)	情報社会論
担当者	浅木森 和夫
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス(目標、進め方、成績評価)</li> <li>2. 人の進化と情報社会</li> <li>3. デジタルコンピュータの誕生</li> <li>4. デジタルデータの特徴</li> <li>5. デジタル通信技術の発展</li> <li>6. コンピュータと通信の融合(データ通信)</li> <li>7. 情報通信技術とコミュニケーションの変化</li> <li>8. SNSと人間</li> <li>9. 情報技術で変わる生活</li> <li>10. 襲ってくる脅威 どのように守るか</li> <li>11. 明日の社会と人工知能</li> <li>12. 未来の私たち</li> <li>13. 情報社会に関する理解度確認と解説</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法: ディスカッション、課題、試験</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] なし</p>	

授業科目名 (副題)	食生活論		
担当者	安原 美帆		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ] 身近な事柄をとりあげながら、食生活の人文・社会科学的側面を中心に学んでいきます。</p> <p>[ 到達目標 ] 食生活を楽しむための知識を身に付けることができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 毎回の授業内容をよく理解しておいてください。特に、新しく学んだ用語や名称は、プリントやノートで再確認し、整理しておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ] 小テスト(50%)、レポート(20%)、課題発表(30%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 小テストは回収後、manabaに模範解答を掲載します。 レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ] 日常の身の回りの「食」に興味をもち、授業に積極的に参加してください。</p>			

授業科目名 (副題)	食生活論
担当者	安原 美帆
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食生活と生活文化</li> <li>2. 食生活の変遷(1) 古代・中世・近世・近現代</li> <li>3. 食生活の変遷(2) 日本の食材・食品</li> <li>4. 日本と世界の食生活(1) 和食</li> <li>5. 日本と世界の食生活(2) 世界の料理の主食類型</li> <li>6. 日本と世界の食生活(3) 世界の料理の特徴</li> <li>7. 食生活の道具 調理道具・食器・食具</li> <li>8. 食物と食べ方のタブー</li> <li>9. 日本と世界の食の楽しみ(1) 嗜好品</li> <li>10. 日本と世界の食の楽しみ(2) 嗜好飲料</li> <li>11. 食生活の楽しみと「もてなし」(1) 日本の行事食</li> <li>12. 食生活の楽しみと「もてなし」(2) 世界の行事食</li> <li>13. 食生活の楽しみと「もてなし」(3) 日本の郷土料理</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって主体的に学修を深め、資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 小テスト、レポート、課題発表</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法: 小テスト、レポート</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: レポート、課題発表</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] プリントを配布</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>『オールガイド食品成分表(2016年度版以降のもの)』 出版社: 実教出版株式会社</p> <p>『改定 食生活論』 著者名: 川端晶子他 出版社: 建帛社</p> <p>『秘められた和食史』 著者名: カタジーナ・チフィエルトカ、安原美帆 出版社: 新泉社 (978-4-7877-1601-1)</p> <p>『Branding Japanese Food: From Meibutsu to Washoku (Food in Asia and the Pacific)』 著者名: Katarzyna J. Cwiertka with Yasuhara Miho 出版社: University of Hawaii Press (978-0824881221)</p>	

授業科目名 (副題)	食品衛生学		
担当者	中村 智英子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>近年、食品の多様化、流通の国際化など食品をめぐる環境が著しく変化し、私たちの食生活の内容も大きく変わってきています。それに伴い大規模食中毒、残留農薬、食品添加物、異物の混入、遺伝子組み換え食品、牛海綿状脳症、水質汚染、有害物質による食品の汚染など多くの食に関係する問題点が提起されています。この授業ではこれらの問題点を通して食の安全について学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①「食の安全」がいかに重要かを認識できるようになる。          ②学んだ知識を日常に活かすことができるようになる。          ③フードコーディネーターや消費者の立場で適切な食品衛生管理方法を理解・習得できる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>テキストを読み、毎回予習と復習をしてください。          新聞などで常に、食の安全や食中毒について、また授業内容に関連した情報を収集してください。          事後学習として、毎回ノートまとめや配布資料等の整理を授業時間外に行ってください。          各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>理解度確認テスト(40%)、受講態度(30%)、提出物(30%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>日頃から食の安全について興味を持って、積極的に授業に参加してください。遅刻、欠席をすると後で理解ができない点が出てきますので注意してください。</p>			

授業科目名 (副題)	食品衛生学
担当者	中村 智英子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食品衛生の概要</li> <li>2. 食品の変質</li> <li>3. 食品と微生物</li> <li>4. 食中毒について(1) 食中毒の分類と発生状況</li> <li>5. 食中毒について(2) 食中毒病因物質</li> <li>6. 食中毒について(3) 寄生虫</li> <li>7. 食品中の汚染物質</li> <li>8. 食品添加物</li> <li>9. 器具および容器包装</li> <li>10. 食品衛生管理</li> <li>11. 食品の安全性</li> <li>12. 食品表示制度</li> <li>13. 食品衛生に関する理解度確認テスト・解説</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 理解度確認テスト、提出物</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 理解度確認テスト、提出物</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>栄養科学 イラストレイテッド 食品衛生学 著者名:編/田崎達明 出版社:羊土社 (978-4-7581-1359-5C3047)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>配付資料</p>	



授業科目名 (副題)	食品学		
担当者	細見 和子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  食品について詳しく理解します。栄養成分、嗜好成分、機能成分、また、遺伝子組換え食品や新しい加工技術による食品、さらに、表示の見方や安全性についての理解を深めます。食品の新しい情報を加えて、食品への興味が深まるよう講義を進めます。</p> <p>[ 到達目標 ]  ①食品と健康の関係を基本に、食品を構成する成分や特性について理解できるようになる。  ②食品に関する多くの情報から正しい選択ができる能力を身に付けることができるようになる。”</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  授業内容をよく理解するために、食品に興味を持ち、テキストを読んで予習・復習をしておいてください。(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  講義中の課題(テスト含む)(50%)、レポート(50%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポート等は、回収後に解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  いろいろな食品に興味を持ち、生活の中にある食品全般の知識を増やしていくために、専門書など図書館で調べて知識を広げてください。</p>			

授業科目名 (副題)	食品学
担当者	細見 和子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食品学について</li> <li>2. 食と科学Ⅰ 栄養学分野 水分 炭水化物 タンパク質 脂質</li> <li>3. 食と科学Ⅰ 栄養学分野 ビタミン 無機質</li> <li>4. 食と科学Ⅱ 食品学分野 穀類 いも類 豆類</li> <li>5. 食と科学Ⅱ 食品学分野 肉類 乳類 卵類</li> <li>6. 食と科学Ⅱ 食品学分野 野菜類 果実類</li> <li>7. 食と科学Ⅱ 食品学分野 種実類 きのこと類 藻類</li> <li>8. 食と科学Ⅱ 食品学分野 油脂 調味料 香辛料 嗜好飲料</li> <li>9. 食と健康Ⅰ 食と食欲 食と疾患</li> <li>10. 食と文化Ⅰ 食品の歴史と食文化論 食の発見とこれからの食</li> <li>11. 食と生活Ⅰ 食卓のコーディネート</li> <li>12. 食と生活Ⅱ 衣食住の中の食</li> <li>13. 食と生活の解説、まとめ</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を身に付ける。 成績評価方法:テスト</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を身に付ける。 成績評価方法:レポート</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を身に付ける。 成績評価方法:テスト、レポート</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を身に付ける。 成績評価方法:レポート</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『食の科学と生活』 著者名:瀬口正晴 出版社:建帛社 (978-4-7679-0447-4)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>『食品学各論』 著者名:瀬口正晴 出版社:化学同人</p>	

授業科目名 (副題)	食品学演習		
担当者	細見 和子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  食品成分と品質のかかわりを学び、それを基に化学的方法を用いた品質検査法や、人間の五感の能力を利用した検査法、食感として知覚されるテクスチャーについて学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]  ①食品の正しい知識と扱い方を習得することができる。  ②食品の基本的な品質評価や鑑別方法について理解できるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  毎回の宿題・レポートは授業時間外に仕上げてください。  各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  実験の成果(20%)、レポート(40%)、発表(40%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポート回収後に、解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  食品学を受講し、食品について理解しておいてください。  食品の品質評価を実験的に理解できるように積極的に受講してください。  実習着など衛生面に注意が必要です。</p>			

授業科目名 (副題)	食品学演習
担当者	細見 和子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 個別食品の鑑別(果実の品質評価、判定、討議)</li> <li>3. 個別食品の鑑別(酸化酵素による褐変)</li> <li>4. 個別食品の鑑別(酸化酵素による褐変反応判定発表・討議)</li> <li>5. 個別食品の鑑別(小麦粉の定量)</li> <li>6. 個別食品の鑑別(小麦粉の種類による定性)(小麦粉の食塩による定性)</li> <li>7. 個別食品の鑑別(小麦粉の品質判定発表・討議)</li> <li>8. 個別食品の鑑別(食品の水分活性測定)</li> <li>9. 個別食品の鑑別(食品の水分活性測定結果発表・討議)</li> <li>10. 個別食品の鑑別(卵の鮮度判定)</li> <li>11. 個別食品の鑑別(卵の鮮度判定発表・討議)</li> <li>12. 個別食品の鑑別(官能評価)</li> <li>13. 個別食品の鑑別(官能評価発表・討議)</li> </ol> <p>(開講順に変更があります)</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を身に付ける。 成績評価方法: レポート</p> <p>【2-1】客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力を身に付ける。 成績評価方法: レポート</p> <p>【3-3】多様なものの見方や考え方を尊重する姿勢を身に付ける。 成績評価方法: 実験の成果、発表</p> <p>【3-4】人々と協働・協調して学修を進める力を身に付ける。 成績評価方法: 実習の成果、発表</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 『食品の官能評価・鑑別演習』 著者名: 青柳康雄他 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0-06-8) 資料としてプリントを配布します。</p>	

授業科目名 (副題)	食品加工学		
担当者	細見 和子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          食品の特性から食品を加工する目的を理解しながら、加工食品に対する認識を深め、正しい選択や利用ができるように、DVD・パワーポイント等から解説していきます。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①食品加工技術の進歩に伴う食品の特性や機能が理解できるようになる。          ②加工食品の正しい選択や利用方法を習得することができる。          ③健康で安全な食生活が実践できるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          授業内で挙げられた諸問題について情報収集を行い、授業内容をまとめるようにしてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          課題レポート(50%)、小テスト(50%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          レポート・テスト後に、解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          フードスペシャリスト受験に必修です。授業内容を十分に理解して下さい。</p>			

授業科目名 (副題)	食品加工学
担当者	細見 和子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食品の加工について</li> <li>2. 穀類、いも及びでんぷん類</li> <li>3. 豆類、油脂類</li> <li>4. 野菜類及び果実類</li> <li>5. 牛乳及び乳製品、卵</li> <li>6. 食肉類及び水産品</li> <li>7. 嗜好飲料、インスタント食品</li> <li>8. 食品の規格と表示</li> <li>9. 食品の貯蔵について</li> <li>10. 乾燥、脱水法、塩蔵、糖蔵法</li> <li>11. 冷蔵、冷凍、くん煙、ガス貯蔵、放射線処理</li> <li>12. 缶、びん詰め、レトルト食品</li> <li>13. 加工食品の復習</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 小テスト</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を身に付ける。 成績評価方法: レポート</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を身に付ける。 成績評価方法: 小テスト、レポート</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を身に付ける。 成績評価方法: 小テスト、レポート</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『レクチャー食品加工学』 著者名: 黒川守浩編者、和田博・筒井和己・細見和子・藤野博史・松本憲一・石井裕子著 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0240-1)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>『図解食品加工学』 著者名: 遠藤金次・梶田武俊・木咲強・谷喜夫・細見和子・松本博(近末貢編) 出版社: 医歯薬出版 (978-4-7679-0240-1) 資料としてプリントを配布します。</p>	

授業科目名 (副題)	食品加工学実習		
担当者	細見 和子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  食品の正しい知識を学ぶために、食品を食品群別に分類し、食品の加工特性について加工の原理や目的を理解しながら加工工程を学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]  ①食品の加工方法を身に付けることができる。  ②食品加工の原理を理解し、豊かな食生活を実践できる応用力が身に付くようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  実習内容を理解するためにも、加工方法の原理や工程を予習しておいてください。  毎回のレポートは、復習しながら授業時間外に仕上げてください。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  実習成果(40%)、レポート(40%)、小テスト(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  毎回のレポートは、次週に返却します。  小テスト回収後に、解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  実習着など衛生面に注意が必要です。  材料代が必要となります。</p>			

授業科目名 (副題)	食品加工学実習
担当者	細見 和子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・食品加工の原理について</li> <li>2. 穀類の加工について(パン)</li> <li>3. 穀物の加工について(うどん)</li> <li>4. 豆の加工について(豆腐)</li> <li>5. いもの加工について(こんにやく)</li> <li>6. 野菜の加工について(ふくしんづけ)</li> <li>7. 果物の加工について(りんごジャム)</li> <li>8. 畜肉の加工について(ウインナーソーセージ)</li> <li>9. 乳類の加工について(キャラメル)</li> <li>10. 官能評価</li> <li>11. 缶詰検査</li> <li>12. レトルト食品</li> <li>13. 食品加工方法についてのまとめ</li> </ol> <p>順序等は変更する場合があります。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を身に付ける。 成績評価方法: 小テスト</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を身に付ける。 成績評価方法: レポート、小テスト</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を身に付ける。 成績評価方法: 実習成果</p> <p>【3-3】多様なものの見方や考え方を尊重する姿勢を身に付ける。 成績評価方法: レポート</p> <p>【3-4】人々と協働・協調して学修を進める力を身に付ける。 成績評価方法: 実習成果</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 資料としてプリントを配布します。</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 『食品加工学実験書』 著者名: 森孝夫編著者、於勢貴美子・小関佐貴代・楠瀬千春・瀬口正晴・園田充子・林真千子・細見和子・松井徳光著 出版社: 化学同人出版 (978-4-7598-0929-9) 『レクチャー食品加工学』 著者名: 黒川守浩編著者、和田博・筒井和己・細見和子・藤野博史・松本憲一・石井裕子著 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0240-1)</p>	



授業科目名 (副題)	住まいの構造		
担当者	田邊 太一		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	総合建設会社設計部(構造担当)勤務の経験と一級建築士としての知識を生かし、理論のみに留まらず、実務に有用な知識の習得と住まいの構造に関わる基礎的な事柄について指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他	各回、mamabaによる小レポートの提出を課す。		
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>講義前半は、建築構造・材料の立場から、建物を構成する各部位の名称・役割、建物に作用する外力の種類を学びます。</p> <p>講義後半は、建築構造を考えるうえで最も基本となる”力”の概念、および基本となる構造部材である”梁”に各種の力が作用したときに生じる部材応力について学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①建物を支える構造に関する各種の基本的知識を習得し、活用することができる。</p> <p>②住まいの構造を考える上で必要となる構造力学の基本的知識を習得し、活用することができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>授業で学んだ知識を確実なものとするため、必ず復習しておいてください。特に、構造の力学に関しては前回の授業の理解が不十分な場合は、次の授業の理解が困難となるので注意が必要です。</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>小レポート(40%)、理解度確認試験(30%)、授業態度(30%)で評価します。</p> <p>授業態度は授業への参加状況で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>小レポートは、次回講義時に評価と解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>遅刻、欠席をすると授業についていけなくなるので注意してください。</p> <p>「住居デザイン基礎学習」を履修した者を対象とします。</p>			

授業科目名 (副題)	住まいの構造
担当者	田邊 太一
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建築構造の発展の歴史</li> <li>2. 木造建築の材料の特性</li> <li>3. 木造建築の構成と特徴</li> <li>4. 鋼構造建築の材料の特性と特徴</li> <li>5. 鉄筋コンクリート構造建築の材料の特性と特徴</li> <li>6. 基礎構造と地盤</li> <li>7. 建築構造力学に使う計算と力とは何か</li> <li>8. 力のつりあい</li> <li>9. 反力を求める</li> <li>10. 部材に生じる力</li> <li>11. 部材断面に関する数値</li> <li>12. 梁の応力を求める</li> <li>13. 理解度確認試験</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって主体的に学修を深め、資格取得に資する力を有している。</p> <p>成績評価方法: 小レポート(40%)、理解度確認試験(30%)、授業態度(30%)で評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業態度は授業への参加状況で評価します。</li> </ul> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>図説 やさしい構造力学 著者名: 浅野清昭 出版社: 学芸出版社 (978-4-7615-2655-9)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>プリント配布</p>	

授業科目名 (副題)	住まいの構法		
担当者	本保 弘子		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	一級建築士として木造住宅設計の実務経験を有する教員が、木造軸組構法の骨組みと構成部材について解説します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  日本の伝統的な一戸建住宅の構法である木造在来構法について、教科書の図面、写真を参考資料としてわかりやすく解説します。木造軸組構法の骨組み、構成部材についての解説とあわせて、骨組模型をできるだけ施工順序にそって組み立てます。基礎伏図、1階床伏図、2階床伏図、軸組図、小屋組図といった木造住宅図面も理解できるように解説します。  このような授業の進め方によって基礎から小屋組みまでの構成と部材名称を学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]  在来構法 木造一戸建住宅の主要な骨組を理解できるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  4回の小テストに合格するためには十分な復習が必要です。  各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  小テスト(50%)、骨組み模型の組み立て(30%)、受講態度(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  4回の小テストは、次回授業で返却して解答を解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  「住居デザイン基礎実習」の単位修得後に履修してください。  授業中のスマホ、私語や居眠りなど授業に参加しない学生は欠席扱いとします。  遅刻、欠席のために授業の進度に遅れることのないように気をつけてください。</p>			

授業科目名 (副題)	住まいの構法
担当者	本保 弘子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 木造住宅の骨組の概要</li> <li>2. 基礎伏図、床伏図、屋根伏図、軸組図の読み方</li> <li>3. 基礎、床束、土台</li> <li>4. 1階床</li> <li>5. 建て方1(柱)</li> <li>6. 建て方2(はり)</li> <li>7. 建て方3(2階床)</li> <li>8. 建て方4(2階柱)</li> <li>9. 建て方5(小屋ばり)</li> <li>10. 小屋組</li> <li>11. 垂木</li> <li>12. まぐさ・窓台</li> <li>13. 筋かい、間柱</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法:小テスト、骨組み模型の組み立て</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法:小テスト、骨組み模型の組み立て</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法:小テスト、骨組み模型の組み立て</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『模型で学ぶ 建築構法入門 在来木造編[改訂版]』 著者名:森永智年・京牟禮実 著 出版社:井上書院 (978-4753016181)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>なし</p>	

授業科目名 (副題)	住まいの材料		
担当者	堀川 真也		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	建築やインテリア設計の実務家でもある教員が、建物やインテリアに使われる様々な材料について講義します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>床・壁・天井に使われる基本的な材料や、日本の伝統的な材料・最新の材料について紹介します。さらに家具やその他のインテリアエレメントの材料についても紹介します。またそれらと人間の心理作用について解説していきます。</p> <p>中間に小テストを実施し、理解を深めます。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>自分の身の回りを含めて、今まで何気なく見ていた材料にそこに使われている必然性があることを知り、インテリアの知識を深めるとともに、その場所に応じた適切なインテリア材料の選択方法が理解できるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>次回に行われる講義の内容については、教科書を読んで事前に把握しておいてください。</p> <p>講義で習った材料だけでなく、自宅からお気に入りのお店など、身近な所に使われている材料にも興味を持って観察してみてください。</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>小テスト50% レポート50%で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>小テストを回収後、解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>身近なもの=材料の話ですので、自分なりのイメージや感覚を持って受講して下さい。</p> <p>興味を持った材料を、実際に見たり、触れたりする機会をもつことも大切です。</p>			

授業科目名 (副題)	住まいの材料
担当者	堀川 真也
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 建築材料の概要および構造材料</li> <li>3. 仕上材料1(木・竹製品)</li> <li>4. 仕上材料2(セメント・コンクリート・せっこう製品)</li> <li>5. 仕上材料3(金属製品)</li> <li>6. 仕上材料4(タイル・れんが・衛生陶器)</li> <li>7. 仕上材料5(ガラス・石材)</li> <li>8. 仕上材料6(左官・仕上塗材・畳・繊維製品)</li> <li>9. 仕上材料7(プラスチック材料・塗料)</li> <li>10. その他の材料(防水・防火・耐火・断熱・防音材料)</li> <li>11. その他のインテリアエレメント(家具・カーテン)</li> <li>12. 部屋の用途と材料の機能</li> <li>13. 住まいの材料全般の復習と確認</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって主体的に学修を深め、資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 小テスト50% レポート50%で評価します。</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法: 小テスト50% レポート50%で評価します。</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 小テスト50% レポート50%で評価します。</p> <p>【2-4】持続可能な社会のために、未来を切り開く創造力を有している。 成績評価方法: 小テスト50% レポート50%で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『初めての建築材料』改訂版 著者名:(建築のテキスト)編集委員会編 出版社:学芸出版社 (978-4-7615-2563-7)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>なし</p>	

授業科目名 (副題)	住まいの施工		
担当者	堀川 真也		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	建築やインテリア設計の実務家でもある教員が、建物の工法や建てるプロセスについて講義します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]            建築やインテリアをつくるプロセスとそれに必要な知識を住宅を中心にして順を追って解説していきます。また、それに関わる専門の職業についても紹介します。</p> <p>[ 到達目標 ]            住まいに関する施工をとおして、建物をつくるとはどういう事かを「人」「もの」「経済」「環境」といった視点で理解ができるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]            次回に行われる講義の内容については、教科書を読んで事前に把握しておいてください。まちで見かける工事現場を観察することも大切な復習につながります。まちを歩くときも意識してみてください。            各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて2時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]            小テスト(50%)、レポート(50%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]            小テスト、レポートを回収後、解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]            授業参加状況も重視します。</p>			

授業科目名 (副題)	住まいの施工
担当者	堀川 真也
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 建築の仕事と施工</li> <li>3. 木造による住宅の施工.1(在来軸組工法)</li> <li>4. 木造による住宅の施工.2(枠組壁工法)</li> <li>5. その他の工法による施工.1(鉄筋コンクリート造)</li> <li>6. その他の工法による施工.2(鉄骨造)</li> <li>7. 住まいに関する施工全般の復習と確認</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって主体的に学修を深め、資格取得に資する力を有している。 成績評価方法:小テスト(50%)、レポート(50%)で評価します。</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法:小テスト(50%)、レポート(50%)で評価します。</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法:小テスト(50%)、レポート(50%)で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『はじめての建築施工』(建築のテキスト) 著者名:編集委員会著 出版社:学芸出版社 (978-4-7615-3091-4)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>なし</p>	



授業科目名 (副題)	住まいの法規		
担当者	堀川 真也		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	建築やインテリア設計の実務家でもある教員が、建物を建てる際に必要な法律関係について講義します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          住まいに関する法律について、建築基準法を中心に、毎回、具体的な例をあげて、解説していきます。</p> <p>[ 到達目標 ]          住まいに関する法律が、わたしたちの身近な住環境や社会環境に、いかに関わっているかを理解することができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          次回に行われる講義の内容については、配布する資料を読み事前に把握しておいてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて2時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          小テスト(50%)、レポート(50%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          小テスト、レポートを回収後、解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          毎回の講義内容をその場で理解することを大切に授業にのぞんでください。</p>			

授業科目名 (副題)	住まいの法規
担当者	堀川 真也
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス 授業の進め方 法令の種類と構成、目的</li> <li>2. 法の用語の定義</li> <li>3. 室内環境と設備に関する法規</li> <li>4. 構造に関する法規、防火規定に関する法規</li> <li>5. 避難設備に関する法規</li> <li>6. 地域の中の建築物の規定</li> <li>7. 住まいに関する法律全般の復習と確認</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって主体的に学修を深め、資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 小テスト(50%)、レポート(50%)で評価します。</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法: 小テスト(50%)、レポート(50%)で評価します。</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 小テスト(50%)、レポート(50%)で評価します。</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法: 小テスト(50%)、レポート(50%)で評価します。</p> <p>【2-4】持続可能な社会のために、未来を切り開く創造力を有している。 成績評価方法: 小テスト(50%)、レポート(50%)で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 資料としてプリントを配布します。</p>	

授業科目名 (副題)	生活経営	
担当者	神澤 佳子	
実務経験のある教員による授業	○	
実務経験内容	消費生活センターでの実務経験にもとづき、消費者トラブル、クレジットカード、ローンなどの様々な生活上の問題について解説しながら、生活を経営していくために必要な知識と技能について指導します。	
[アクティブラーニング授業]		
PBL(課題解決型)		反転授業
ディスカッション・ディベート		グループワーク
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク
その他		
[ICTの活用]		
manaba	○	Moodle
その他		
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]            国際化、情報化、産業の高度化によって、私たちを取り巻く社会は激しく変化し複雑化しています。このような社会において、主体的に生活を経営していくためには、個人の生活と社会の関係を理解し、現状と将来をみすえて意志決定する力が求められます。本授業では、生活の実態と諸問題、生活の変化とその要因について学び、自分の生活をどのように経営していくかについて考えます。学びを自分の「よりよい生活」の実現に結び付け、さらに社会の一員としての役割を意識し行動する力を養うことを目標とします。</p> <p>[ 到達目標 ]            ①生活を巡る諸問題について客観的に理解し、自分の生活と関連づけて考えることができる。            ②経済循環の中の家計の役割を理解し、適切な家計運営の方法を知り実行できる。            ③消費者問題の現状と発生要因を理解し、適切な対応をすることができる。            ④女性の生き方の現状と変化を知り、自分のライフプランを考えることができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]            生活経済、消費生活、ライフプランに関するさまざまな事例を扱います。そのため、ニュースや話題になっている商品・サービス、経済社会における出来事に日ごろから関心を持ち、情報収集を心がけてください。関心のある内容についてはメモをしたり、情報を整理するなどしてください。            各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)</p> <p>[ 成績評価方法 ]            授業時の小テスト(30%)、レポート(40%)、理解度確認テスト(30%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]            質問や授業中の課題、レポートについては、次の授業時間に解答解説を行い、代表的な意見を紹介し、コメントします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]            私たちの生活を、身近な問題から世界の問題まで広い視野でとらえ、これからの自分の生活をしっかりつけていきたいと思う人は、ぜひ受講してください。            授業では、自分の意見発表や質疑応答の時間を設けますので、積極的に参加してください。</p>		

授業科目名 (副題)	生活経営
担当者	神澤 佳子
<p>[ 授業計画 ]</p> <p>【遠隔授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.イントロダクション:「生活経営」とはなにか? 生活経営で何を学ぶか全体像を把握する 生活とは何か考える</li> <li>2.経済循環の中の家計 私たちの消費・労働と経済の関係を理解し、個人消費の役割を知る</li> <li>3.家計の構造 家計の収入と支出はどのようにになっているか、統計資料から現状を知る</li> <li>4.消費構造の変化とくらし 統計資料から消費支出の時代による変化を読み取り、現代及びこれからの生活について考える</li> <li>5.ライフステージ別の家計と家計管理 ライフステージごとの家計収支の変化を知り、将来をみすえた家計管理の方法を考える</li> <li>6.キャッシュレス社会の現状と利用上の注意点 クレジットカード、電子マネーなどの仕組みと利用上の注意点について知る</li> <li>7.生活時間の構造変化と生活の質 生活を時間軸からとらえ、その変遷と実態について知り、自分の時間の使い方を考える</li> <li>8.消費者問題の発生要因、現状と変遷 消費者問題とは何か、発生要因、歴史的変化、現状を把握する</li> <li>9.消費者問題を防止するためには 消費者として身に着けておきたい知識やスキル、消費者行政の役割と消費者教育について学ぶ</li> <li>10.消費者市民社会の形成と私たちの行動 消費者市民社会について理解し、消費者として何ができるかを考える</li> <li>11.女性のライフコースとライフプラン 女性のライフコースの時代による変化を把握し、自分自身のライフプランを考える</li> <li>12.社会保険と民間保険 ライフプランを考える基礎知識として、保険の仕組み、社会保険と民間保険について知る</li> <li>13.まとめ～自分の生活経営を考える～ これまでに学んだことをふり振り返り自分の生活経営について考える 理解度確認テスト</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法:理解度確認テスト・授業時の小テスト</p> <p>【2-1】客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成力を有している。 成績評価方法:レポート</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法:レポート</p> <p>【2-4】持続可能な社会のために、未来を切り開く創造力を有している。 成績評価方法:レポート</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 使用しない。授業中に資料を配付します。</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 授業中に指示します 著者名:× 出版社:× (×)</p>	

授業科目名 (副題)	製パン・製菓実習		
担当者	細見 和子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  パンの焼成についての特性や特徴を体得し、洋菓子の繊細なテクニックを磨き、季節感を盛り込んだ和菓子づくりの手法を学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]  ①製パン・製菓の理論が理解できるようになる。  ②さまざまな手法を習得することができるようになる。”</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  授業内容を十分に理解するために、レポートを作成し、次回に提出してください。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  実習成果(30%)、実習レポート(40%)、課題レポートの発表(30%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  毎回のレポートは、次週に返却します。  返却時に、解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  授業開始時間を厳守し、清潔な服装(実習着、帽子)を整え、衛生面に注意して授業に臨んでください。  1クラス16名まで、2クラス開講します。  フードコーディネーター3級資格取得希望者を優先します。  2クラスの人数調整をお願いすることがあります。  材料代が必要となります。</p>			

授業科目名 (副題)	製パン・製菓実習
担当者	細見 和子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. パン(パンの工程について)</li> <li>3. パン(ピザ)</li> <li>4. パン(ウインナーパン)</li> <li>5. パン(コーンパン)</li> <li>6. パン(三色パン)</li> <li>7. パン(バターロール)</li> <li>8. パン(ジャガイモパン)</li> <li>9. 洋菓子(バターケーキ)</li> <li>10. 洋菓子(スポンジケーキの工程について)</li> <li>11. 和菓子(和菓子の種類について)</li> <li>12. 和菓子(鮎)</li> <li>13. 和菓子(練りきり)</li> </ol> <p>(開講順に変更があります)</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を身に付ける。 成績評価方法: レポート</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を身に付ける。 成績評価方法: レポート、発表</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を身に付ける。 成績評価方法: 実習成果、課題レポート</p> <p>【3-3】多様なものの見方や考え方を尊重する姿勢を身に付ける。 成績評価方法: 実習成果</p> <p>【3-4】人々と協働・協調して学修を進める力を身に付ける。 成績評価方法: 実習成果</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 資料としてプリントを配付します。</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 随時、紹介します</p>	

授業科目名 (副題)	製パン・製菓実習		
担当者	細見 和子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  パンの焼成についての特性や特徴を体得し、洋菓子の繊細なテクニックを磨き、季節感を盛り込んだ和菓子づくりの手法を学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]  ①製パン・製菓の理論が理解できるようになる。  ②さまざまな手法を習得することができるようになる。”</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  授業内容を十分に理解するために、レポートを作成し、次回に提出してください。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  実習成果(30%)、実習レポート(40%)、課題レポートの発表(30%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  毎回のレポートは、次週に返却します。  返却時に、解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  授業開始時間を厳守し、清潔な服装(実習着、帽子)を整え、衛生面に注意して授業に臨んでください。  1クラス16名まで、2クラス開講します。  フードコーディネーター3級資格取得希望者を優先します。  2クラスの人数調整をお願いすることがあります。  材料代が必要となります。</p>			

授業科目名 (副題)	製パン・製菓実習
担当者	細見 和子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. パン(パンの工程について)</li> <li>3. パン(ピザ)</li> <li>4. パン(ウインナーパン)</li> <li>5. パン(コーンパン)</li> <li>6. パン(三色パン)</li> <li>7. パン(バターロール)</li> <li>8. パン(ジャガイモパン)</li> <li>9. 洋菓子(バターケーキ)</li> <li>10. 洋菓子(スポンジケーキの工程について)</li> <li>11. 和菓子(和菓子の種類について)</li> <li>12. 和菓子(鮎)</li> <li>13. 和菓子(練りきり)</li> </ol> <p>(開講順に変更があります)</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: レポート</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を身に付ける。 成績評価方法: レポート、発表</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を身に付ける。 成績評価方法: 実習の成果、課題レポート</p> <p>【3-3】多様なものの見方や考え方を尊重する姿勢を身に付ける。 成績評価方法: 実習の成果</p> <p>【3-4】人々と協働・協調して学修を進める力を身に付ける。 成績評価方法: 実習の成果</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 資料としてプリントを配付します。</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 随時、紹介します</p>	



授業科目名 (副題)	繊維学実験法		
担当者	古田 貴美子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>被服材料(布)の多くは糸から、糸は繊維から作られています。被服の構成や着用に必要な布の基本的性質には、繊維の性質がそのまま布に反映される特性と繊維自体の性質よりも布の構造や方向の影響が大きい特性とがあります。布・糸・繊維それぞれに関する実験法を学び、結果のまとめ方と考察の仕方を理解します。実験ノートおよび実験報告書(レポート)を作成し注意点を確認します。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①織物、糸、繊維の実験法を理解することができる。</li> <li>②試料作りの大切さを理解することができる。</li> <li>③実験結果を図表にまとめ、考察することができる。</li> <li>④実験レポートを作成することができる。</li> </ol> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>実験手引書をよく読んでください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>授業態度(30%)、レポート(30%)、実験ノート(40%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>実験結果について解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>授業態度と実験記録を重視します。実験手引書をよく読み、説明をよく聞き、理解を深めてください。</p>			

授業科目名 (副題)	繊維学実験法
担当者	古田 貴美子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実験に関する注意事項、試料の作成方法、結果と考察の仕方</li> <li>2. 織物 : 構造(厚さ・密度)</li> <li>3. 構造(重さ・織縮み率)</li> <li>4. 強伸度・引き裂き強度</li> <li>5. 剛軟度(曲げかたさ)</li> <li>6. 防しわ性</li> <li>7. 吸水性</li> <li>8. 収縮性</li> <li>9. 糸 : 太さと撚り</li> <li>10. 繊維: 顕微鏡観察</li> <li>11. 燃焼性</li> <li>12. 耐熱性</li> <li>13. 熱可塑性</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 実験ノート、レポート</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 実験ノート、レポート</p> <p>【2-1】客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力を有している。 成績評価方法: レポート、実験ノート</p> <p>【3-4】人々と協働・協調して学修を進める力を有している。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] プリント(実験手引書)を配布します。</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 『生活のための衣服簡易実験法』 著者名: 日下部信幸 出版社: 家政教育社 (4-7606-0305-X)</p>	

授業科目名 (副題)	染色学		
担当者	古田 貴美子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他	図書館活用		
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>ファッションにおいて美しい色の製品は価値が高く、最初の色合いが着用中の汗や摩擦、洗濯のくり返しによっても変わらず維持されることが望ましいです。繊維製品に求められるのは、染色が容易なことと染料が安全で堅ろうなことです。染色方法や染料の種類と特徴を理解し、身の回りの自然素材を使った染色についても理解を深めます。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①繊維によって用いられる染料が異なることを理解することができる。          ②自然の草木が染料になることを理解することができる。          ③身近な素材を使って染色することができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>染色と繊維に関する文献を読んでください。          各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>授業態度(20%)、小テスト(20%)、レポート(60%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>小テストとレポートを返却後、解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>積極的に授業に取り組むことを望みます。</p>			

授業科目名 (副題)	染色学
担当者	古田 貴美子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 染色とファッション</li> <li>2. 染色の歴史</li> <li>3. 染色の方法、染色理論</li> <li>4. 染料の種類、漂白剤による色抜き</li> <li>5. 合成染料による染色①(直接染料、酸性染料)</li> <li>6. 合成染料による染色②(分散染料、混合染料)</li> <li>7. 合成染料による染色③(繊維鑑別用染料試薬)</li> <li>8. 天然染料と媒染剤の作用</li> <li>9. 天然染料による染色</li> <li>10. 染色技法</li> <li>11. 染色の実際(絞り染め)</li> <li>12. 染色の実際(草木染め)</li> <li>13. 染色加工と問題点</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: レポート、小テスト</p> <p>【2-4】持続可能な社会のために、未来を切り開く創造力を有している。 成績評価方法: レポート</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法: レポート、授業態度</p> <p>【3-4】人々と協働・協調して学修を進める力を有している。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 『やさしい繊維の基礎知識』 著者名: 繊維学会編 出版社: 日刊工業新聞社 (978-4-526-052897) 『染色概説 新版』 著者名: 矢部章彦、林雅子著 出版社: 光生館 『ファッション&amp;ビューティの色彩』 著者名: 大関 徹・田原二美・高田葉子 共著 出版社: 財団法人日本色彩研究所 (978-4-901355-28-5)</p>	

授業科目名 (副題)	総合生活演習		
担当者	杉田 米行		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>ディズニーランド、USJ、マクドナルド、KFCなど身近なものをてがかりにしてアメリカ、世界を知ろう！各受講生の興味と関心にしたがって、いろいろ調べるために、調べ方、まとめ方を一緒に勉強しましょう。そして、その調べた内容を他のゼミ生にも知らせるために、効率的なプレゼンテーションができるようになります。また、人のプレゼンテーションを聞いて、効果的な質問をできるようになります。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①身近なものとアメリカ、世界を結びつける能力を身につけることができる。</li> <li>②効果的な資料収集方法、分析方法を身につけることができる。</li> <li>③効率的なプレゼンテーションをする能力を身につけることができる。</li> <li>④人のプレゼンテーションに対して適切な質問をする能力を身につけることができる。</li> <li>⑤人の質問に対して適切な応答をする能力を身につけることができる。</li> <li>⑥英検2級合格以上の英語力をつけることができる。</li> </ol> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の定めたテーマに関して調べておいてください。</li> <li>・新聞を毎日読んでください。</li> <li>・各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</li> </ul> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>授業でのディスカッションへの参加、授業態度(50%)、プレゼンテーションと質疑応答の内容(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>原則として、試験の次の授業内でフィードバックをします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>今回授業でまだ良く分からないかもしれないことはどんどん質問してください。疑問点を解決することが大切です。また、もっとこの点を説明して欲しかった等のコメントも聞かせてください。</p>			

授業科目名 (副題)	総合生活演習
担当者	杉田 米行
<p>[ 授業計画 ]</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to this class (Welcomeテスト、授業の進め方、予習・復習の仕方、成績評価方法、自己紹介等)</li> <li>2. 新聞記事に関するディスカッション#1; テーマ選定に関するディスカッション; 受講生基礎プレゼンテーションと質疑応答#1</li> <li>3. 前回の反省; 今週の最新新聞記事に関するディスカッション#2; 受講生基礎プレゼンテーションと質疑応答#2</li> <li>4. 前回の反省; 今週の最新新聞記事に関するディスカッション#3; 受講生基礎プレゼンテーションと質疑応答#3</li> <li>5. 前回の反省; 今週の最新新聞記事に関するディスカッション#4; 受講生基礎プレゼンテーションと質疑応答#4</li> <li>6. 前回の反省; 今週のメディアレポートに関するディスカッション#1; 受講生初級プレゼンテーションと質疑応答#1</li> <li>7. 前回の反省; 今週のメディアレポートに関するディスカッション#2; 受講生初級プレゼンテーションと質疑応答#2</li> <li>8. 前回の反省; 今週のメディアレポートに関するディスカッション#3; 受講生初級プレゼンテーションと質疑応答#3</li> <li>9. 前回の反省; 今週のメディアレポートに関するディスカッション#4; 受講生初級プレゼンテーションと質疑応答#4</li> <li>10. 前回の反省; 今週のSNSレポートに関するディスカッション#1; 受講生中級プレゼンテーションと質疑応答#1</li> <li>11. 前回の反省; 今週のSNSレポートに関するディスカッション#2; 受講生中級プレゼンテーションと質疑応答#2</li> <li>12. 前回の反省; 今週のSNSレポートに関するディスカッション#3; 受講生中級プレゼンテーションと質疑応答#3</li> <li>13. 前回の反省; 今週のSNSレポートに関するディスカッション#4; 受講生中級プレゼンテーションと質疑応答#4; 中間まとめ</li> </ol> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to this class (Welcomeテスト、授業の進め方、予習・復習の仕方、成績評価方法、自己紹介等)</li> <li>2. 共通レポートに関するディスカッション#1; 受講生上級プレゼンテーションと質疑応答#1</li> <li>3. 前回の反省; 今週の新聞記事を題材とした共通レポートに関するディスカッション#2; 受講生上級プレゼンテーションと質疑応答#2</li> <li>4. 前回の反省; 今週の新聞記事を題材とした共通レポートに関するディスカッション#3; 受講生上級プレゼンテーションと質疑応答#3</li> <li>5. 前回の反省; 今週の新聞記事を題材とした共通レポートに関するディスカッション#4; 受講生上級プレゼンテーションと質疑応答#4</li> <li>6. 前回の反省; 今週の新聞記事を題材とした共通テーマに関するディスカッション#1; 受講生応用プレゼンテーションと質疑応答#1</li> <li>7. 前回の反省; 今週の新聞記事を題材とした共通テーマに関するディスカッション#2; 受講生応用プレゼンテーションと質疑応答#2</li> <li>8. 前回の反省; 今週の新聞記事を題材とした共通テーマに関するディスカッション#3; 受講生応用プレゼンテーションと質疑応答#3</li> <li>9. 前回の反省; 今週の新聞記事を題材とした共通テーマに関するディスカッション#4; 受講生応用プレゼンテーションと質疑応答#4</li> <li>10. 前回の反省; 今週の時事問題に関するディスカッション#1; 受講生5分間プレゼンテーションと質疑応答</li> <li>11. 前回の反省; 今週の時事問題に関するディスカッション#2; 受講生3分間プレゼンテーションと質疑応答</li> <li>12. 前回の反省; 今週の時事問題に関するディスカッション#3; 受講生1分間プレゼンテーションと質疑応答</li> <li>13. 前回の反省; 今週の時事問題に関するディスカッション#4; 受講生一言プレゼンテーションと質疑応答; まとめ</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法: レポートとディスカッションの内容によって評価。</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法: レポートとディスカッションの内容によって評価。</p> <p>[ テキスト (ISBN) ]</p> <p>* 『P. English』電子本 (大学教育出版、2022) <a href="https://www.kyoiku.co.jp/">https://www.kyoiku.co.jp/</a></p> <p>* PDF等で追加資料配布 著者名: P. English作成チーム 出版社: 大学教育出版 (未定)</p> <p>[ 参考文献 (ISBN) ]</p> <p>授業内で適宜ハンドアウトを配布します。</p>	

授業科目名 (副題)	総合生活演習		
担当者	谷山 澤子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>異文化を理解することは、世界で人々と仕事や交流をするうえで重要な力になります。このゼミでは英語圏の文化について知識や理解を深め、文化の研究手法、研究成果のまとめ、及び発表方法を修得します。具体的には、英語圏の中で興味や関心のある地域と研究テーマを決め、テーマに関する資料を分析し、調査研究をした結果をまとめ、研究成果を授業で発表し、ディスカッションを行います。ゼミのまとめとして、テーマについて研究したレポートまたは論文を後期の最終授業で提出します。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①文化研究の基礎概念を理解できる。</li> <li>②研究したいテーマに関する資料の収集及び分析ができる。</li> <li>③研究成果をレポートまたは論文として作成することができる。</li> <li>④研究成果を口頭で発表することができる。</li> <li>⑤研究内容に関するディスカッションをとおして、コミュニケーションや創造的に思考することができる。</li> </ol> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>授業の予習として、毎週テーマに関する文献を読み、調べたことをまとめてください。復習として、授業時のディスカッションにおける質問事項や調査が必要な事項について、さらに調べてまとめてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>レポート・論文(50%)、研究発表(50%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>レポートや論文は、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>英語圏文化を研究することにより、グローバルな視野を養い、友好的なコミュニケーションに役立ててください。</p>			

授業科目名 (副題)	総合生活演習
担当者	谷山 澤子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語圏の文化研究方法: テーマと資料検索</li> <li>2. 英語圏の文化研究: レポートや論文の書き方</li> <li>3. 英語圏の文化研究: 発表とディスカッション</li> <li>4. 英語圏の文化研究: 発表とディスカッション</li> <li>5. 英語圏の文化研究: 発表とディスカッション</li> <li>6. 英語圏の文化研究: 発表とディスカッション</li> <li>7. 英語圏の文化研究: 発表とディスカッション</li> <li>8. 英語圏の文化研究: 発表とディスカッション</li> <li>9. 英語圏の文化研究: 発表とディスカッション</li> <li>10. 英語圏の文化研究: 発表とディスカッション</li> <li>11. 英語圏の文化研究: 発表とディスカッション</li> <li>12. 英語圏の文化研究: 発表とディスカッション</li> <li>13. 英語圏の文化研究: 発表とディスカッション</li> <li>14. 英語圏の文化研究: 発表とディスカッション</li> <li>15. 英語圏の文化研究: 発表とディスカッション</li> <li>16. 英語圏の文化研究: 発表とディスカッション</li> <li>17. 英語圏の文化研究: 発表とディスカッション</li> <li>18. 英語圏の文化研究: 発表とディスカッション</li> <li>19. 英語圏の文化研究: 発表とディスカッション</li> <li>20. 英語圏の文化研究: 発表とディスカッション</li> <li>21. 英語圏の文化研究: 発表とディスカッション</li> <li>22. 英語圏の文化研究: 発表とディスカッション</li> <li>23. 英語圏の文化研究: 発表とディスカッション</li> <li>24. 英語圏の文化研究: 発表とディスカッション</li> <li>25. 英語圏の文化研究: 発表と課題提出</li> <li>26. 英語圏の文化研究: 発表と課題提出</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: レポート・論文 (50%)、研究発表 (50%) で評価します。</p> <p>【2-1】客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力を有している。 成績評価方法: レポート・論文 (50%)、研究発表 (50%) で評価します。</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法: レポート・論文 (50%)、研究発表 (50%) で評価します。</p> <p>【3-3】多様なものの見方や考え方を尊重する姿勢を有している。 成績評価方法: ディスカッションで評価します。</p> <p>[ テキスト (ISBN) ] 授業で指導します。</p> <p>[ 参考文献 (ISBN) ] 授業で指導します。</p>	



授業科目名 (副題)	総合生活演習		
担当者	堀 桂太郎		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>現代の情報化社会において業務を遂行する場合、ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションなどのビジネス用ソフトウェアの活用スキルは必須になっています。また、ウェブページは必要不可欠な情報源になっています。この授業では、ビジネス用ソフトウェアの活用スキルを向上させ、関係する検定試験に合格できる能力の習得を目指します。基本的には、ワードプロセッサ、表計算ソフトウェアに関する検定試験MOS(マイクロソフトオフィシャルエキスパート)を対象にしますが、目標は各自の力量に応じて設定します。また、ウェブページ制作の基礎についても学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①ビジネス用ソフトウェアの基本操作ができる。          ②ビジネス用ソフトウェアを活用した作業ができる。          ③ウェブページの基本を理解することができる。          ④簡単なウェブページを制作することができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>ビジネス用ソフトウェアに関する検定試験に合格する能力を習得できるよう準備学修してください。ウェブページの基礎を理解し、制作できるように準備学修してください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>授業態度(30%)、課題(20%)、検定試験等の成績(30%)、制作したウェブページ(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>課題や制作したウェブページについては個別に指導を通してフィードバックします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>コンピュータやインターネットに興味があることが前提になります。ビジネス用ソフトウェアやウェブページ制作に関する基本事項を習得するには、積み重ねが大切です。個々の例題や演習を理解していくことを楽しみながら学習を継続しましょう。また、検定受験には、テキスト購入や受験の費用が必要になります。</p>			

授業科目名 (副題)	総合生活演習
担当者	堀 桂太郎
<p>[ 授業計画 ]</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス、目標検定の検討</li> <li>2. ビジネス用ソフトウェアの基礎</li> <li>3. ワードプロセッサの操作演習(基礎)</li> <li>4. ワードプロセッサの操作演習(応用)</li> <li>5. ワードプロセッサの操作演習(発展)</li> <li>6. ワードプロセッサ検定試験の分析</li> <li>7. ワードプロセッサ検定試験の受験準備</li> <li>8. ワードプロセッサ検定試験対応の演習(基礎)</li> <li>9. ワードプロセッサ検定試験対応の演習(応用)</li> <li>10. ワードプロセッサ検定試験対応の演習(発展)</li> <li>11. ワードプロセッサ検定試験対応の演習(弱点把握)</li> <li>12. ワードプロセッサ検定試験対応の演習(予想問題1)</li> <li>13. ワードプロセッサ検定試験対応の演習(予想問題2)</li> </ol> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 表計算ソフトウェアの操作演習(基礎)</li> <li>2. 表計算ソフトウェアの操作演習(応用)</li> <li>3. 表計算ソフトウェアの操作演習(発展)</li> <li>4. 表計算ソフトウェア検定試験の分析</li> <li>5. 表計算ソフトウェア検定試験対応の演習(基礎)</li> <li>6. 表計算ソフトウェア検定試験対応の演習(応用)</li> <li>7. 表計算ソフトウェア検定試験対応の演習(発展)</li> <li>8. 表計算ソフトウェア検定試験対応の演習(弱点把握)</li> <li>9. 表計算ソフトウェア検定試験対応の演習(予想問題1)</li> <li>10. 表計算ソフトウェア検定試験対応の演習(予想問題2)</li> <li>11. ウェブページの基礎</li> <li>12. ウェブページ制作演習</li> <li>13. ウェブページで動作するJavaScriptの基礎</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を身に付ける。 成績評価方法: 授業態度、課題、検定試験等の成績、制作したウェブページ</p> <p>【2-4】持続可能な社会のために、未来を切り開く創造力を身に付ける。 成績評価方法: 検定試験等の成績、制作したウェブページ</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 別途指導します</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] なし</p>	

授業科目名 (副題)	総合生活演習		
担当者	古田 貴美子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>被服製作</p> <p>1. ウエディングドレス</p> <p>2. その他の被服</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①フォーマルなドレスの型紙を作成することができる。</p> <p>②デザインに合った布地・糸・付属品を選択することができる。</p> <p>③丁寧に縫製し、美しく仕上げることができる。</p> <p>④装飾の工夫をすることができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>製作手順の確認をし、直ちに実習に取りかかれるように準備をしてください。</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>授業態度(20%)、作品(60%)、レポート(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>作品に対する講評を返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>布地などの材料費は自己負担です。</p> <p>「被服構成基礎実習」を履修していることが受講条件です。また、「洋裁基礎演習」「被服材料学」「繊維学実験法」「被服構成実習」などをできるだけ受講して下さい。</p> <p>学園祭でドレス展示やドレスショーをするので、目標に向けて努力して下さい。</p>			

授業科目名 (副題)	総合生活演習
担当者	古田 貴美子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デザイン構想、ドレス素材の選び方</li> <li>2. デザイン決定、原型製図</li> <li>3. 型紙作成(身頃)</li> <li>4. 型紙作成(スカート)</li> <li>5. 型紙作成(スカート)</li> <li>6. 型紙作成(パニエ)</li> <li>7. 仮縫い用布地裁断(シーチング)</li> <li>8. 仮縫い(シーチング)</li> <li>9. 仮縫い(シーチング)</li> <li>10. 仮縫い・試着</li> <li>11. 型紙修正・パニエ製作</li> <li>12. パニエ製作(スカート)</li> <li>13. パニエ製作(チュール)</li> <li>14. パニエ製作(チュール付け)</li> <li>15. 裁断・しるしつけ</li> <li>16. 仮縫い(身頃)</li> <li>17. 試着補正・裏布裁断</li> <li>18. 本縫い(身頃)</li> <li>19. 本縫い(縫いしろ始末・身頃)</li> <li>20. 本縫い(スカート)</li> <li>21. 本縫い(身頃とスカート)</li> <li>22. 本縫い(ファスナー付け・あきの始末)</li> <li>23. 本縫い・装飾</li> <li>24. 装飾</li> <li>25. 仕上げ</li> <li>26. ファッションショー</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 作品、レポート</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 作品、レポート</p> <p>【2-4】持続可能な社会のために、未来を切り開く創造力を有している。 成績評価方法: レポート、授業態度</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 適宜プリントを配布する</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 文化女子大学講座『服装造形学 技術編Ⅲ〔フォーマル編〕』 著者名:文化女子大学 出版社: 文化出版局 (978-4-579-10861-9)</p>	

授業科目名 (副題)	総合生活演習		
担当者	細見 和子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  パンや和菓子の歴史を研究し、基本的なパンや和菓子作りを習得します。  実習は、全員が自主的に協力してすすめていきます。</p> <p>[ 到達目標 ]  ①実習の手順が理解できるようになる。  ②情報収集の方法を習得できるようになる。  ③実習の計画に基づいて実践できるようになる。  ④研究成果を口頭で発表することができるようになる。  ⑤ディスカッションを通して、コミュニケーション能力を身に付けることができるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  授業終了後に内容をまとめておき、次週までにレポート等を仕上げてください。  授業内容の予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  授業成果(30%)、レポート(30%)、発表(40%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  毎週提出したレポートの解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  目標に向かって、積極的に研究を進めていきます。  実習は、衛生面に留意して、時間に余裕をもって出席してください。  エプロン(割烹着・実習着)・帽子を準備し、爪は切っておく。</p> <p>材料代が必要となります。</p>			

授業科目名 (副題)	総合生活演習
担当者	細見 和子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 研究についての討議(テーマについて)</li> <li>3. 情報収集</li> <li>4. 情報収集</li> <li>5. 研究計画</li> <li>6. 研究計画</li> <li>7. 研究</li> <li>8. 研究</li> <li>9. 研究</li> <li>10. 研究</li> <li>11. 研究</li> <li>12. 研究</li> <li>13. 研究のまとめ</li> <li>14. 研究テーマ発表</li> <li>15. 研究テーマ発表</li> <li>16. 研究計画</li> <li>17. 研究とディスカッション</li> <li>18. 研究とディスカッション</li> <li>19. 研究とディスカッション</li> <li>20. 研究とディスカッション</li> <li>21. 研究とディスカッション</li> <li>22. 研究とディスカッション</li> <li>23. 研究のまとめ</li> <li>24. 研究のまとめ</li> <li>25. 研究発表(前半グループ)</li> <li>26. 研究発表(後半グループ)</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: レポート</p> <p>【2-1】客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力を有している。 成績評価方法: レポート</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法: 発表</p> <p>【3-3】多様なものの見方や考え方を尊重する姿勢を身に付ける。 成績評価方法: 授業成果、発表</p> <p>【3-4】人々と協働・協調して学修を進める力を身に付ける。 成績評価方法: 授業成果</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 適宜紹介します。</p>	

授業科目名 (副題)	総合生活演習		
担当者	本保 弘子		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	一級建築士として住宅設計の実務経験を有する教員が、住宅模型制作を指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]            先ず、住宅模型制作の練習として、一戸建小住宅の模型を制作します。次に、住みたい家を設計して住宅模型を制作します。住宅設計では各自のテーマを決めてください。例えば助け合いの二世帯住宅、長く住めるバリアフリー住宅、ピアノ演奏室のある家などです。            1年次に図面表現の基礎として学んだ、平面図、立面図、家具の三面図などを模型制作の型紙とします。            住宅模型作品の中間発表の場として、学園祭で展示します。展示にはゼミ生全員の当番があります。授業最終回は作品発表会とします。</p> <p>[ 到達目標 ]            住宅設計を立体的に検討する手段として、また他者に住宅設計を説明する手段として有効に使える住宅模型を制作できるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]            住居インテリア関連の他の実習・演習科目と同様に住宅設計資料の収集を求めます。            各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]            受講態度(30%)、提出作品(60%)、作品説明のレポート(10%)で評価します。            受講態度には、作品展示の準備や展示当番で役割をはたすことを含みます。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]            作品発表会の時に各作品を講評します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]            「住居デザイン基礎実習」の単位修得済または2年前期で履修することを申込の条件とします。            授業中のスマホ、私語や居眠りなど授業に参加しない学生は欠席扱いとします。住宅模型制作では、部分的な造り直しは必ずあります。住宅設計、インテリアデザインに興味・関心のある人、根気のある人が受講してください。</p>			

授業科目名 (副題)	総合生活演習
担当者	本保 弘子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前年度作品解説</li> <li>2. 小住宅の模型制作準備 (製図)</li> <li>3. 小住宅の模型制作 I (床、壁)</li> <li>4. 小住宅の模型制作 II (家具)</li> <li>5. 各自のテーマを決める</li> <li>6. イメージスケッチ</li> <li>7. 平面図 1階</li> <li>8. 平面図 2階</li> <li>9. 構造的な検討</li> <li>10. 立面図、展開図</li> <li>11. 模型制作 1階 床</li> <li>12. 模型制作 1階 外壁、窓</li> <li>13. 模型制作 1階 主要間仕切壁</li> <li>14. 模型制作 1階 間仕切り壁</li> <li>15. 模型制作 1階 階段</li> <li>16. 模型制作 1階 設備</li> <li>17. 模型制作 1階 大型家具</li> <li>18. 模型制作 1階 家具</li> <li>19. 模型制作 1階 玄関まわり</li> <li>20. 展示準備</li> <li>21. 模型制作 2階 床、外壁、窓</li> <li>22. 模型制作 2階 間仕切壁</li> <li>23. 模型制作 2階 設備、バルコニー</li> <li>24. 模型制作 2階 家具</li> <li>25. 模型制作 屋根</li> <li>26. 作品発表会</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 提出作品</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 提出作品</p> <p>【2-1】客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力を有している。 成績評価方法: 提出作品、レポート</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法: 提出作品</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 提出作品、レポート</p> <p>[ テキスト (ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考文献 (ISBN) ] なし</p>	



授業科目名 (副題)	総合生活演習		
担当者	西 奈保		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>「洋菓子」に関する研究を行います。基本的な資料検索の方法やレシピの作成について学び、洋菓子に関する食文化や調理方法について研究し、まとめます。また、前期は基礎的な洋菓子の実習を行い、デコレーションについて検討し、試食、ディスカッションを行います。</p> <p>後期は各自テーマを決めて、資料・レシピ検索、実習計画の作成、洋菓子の実習・研究を行い、レシピの作成と研究発表を行います。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①資料検索の方法を習得し、自ら情報収集ができるようになる。          ②実習を計画的に実践できるようになる。          ③レシピの作成方法を習得し、レシピ作成ができるようになる。          ④研究の成果をまとめ、研究発表をすることができるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>毎回、授業終了後に内容をまとめておき、指定の期限までに課題等を仕上げてください。          各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>授業態度(40%)、レシピと研究発表(60%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>レポートやレシピは、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>「食」に興味があり、積極的に取り組める方、衛生面の自己管理ができる方を希望します。          できれば調理基礎実習か調理学実習Ⅰを履修しておいてください。          実習着と材料費が必要となります。</p>			

授業科目名 (副題)	総合生活演習
担当者	西 奈保
<p>[ 授業計画 ]</p> <p>&lt;前期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 課題についての説明と資料検索</li> <li>3. 資料・レシピ検索と課題作成</li> <li>4. 課題発表</li> <li>5. 実習計画の立案とレシピの作成について</li> <li>6. 調理実習</li> <li>7. 調理実習</li> <li>8. 調理実習</li> <li>9. 調理実習</li> <li>10. 調理実習</li> <li>11. 調理実習</li> <li>12. レシピの作成</li> <li>13. レシピ発表と提出</li> </ol> <p>&lt;後期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>14. オリエンテーション(情報収集と研究テーマの決定)</li> <li>15. レシピ・資料検索と実習計画の立案</li> <li>16. レシピ・資料検索と実習計画の検討</li> <li>17. 調理実習</li> <li>18. 調理実習</li> <li>19. 調理実習</li> <li>20. 調理実習</li> <li>21. 調理実習</li> <li>22. 調理実習</li> <li>23. レシピと研究発表資料の作成</li> <li>24. レシピと研究発表資料の作成</li> <li>25. レシピと研究発表資料の作成</li> <li>26. レシピの提出と研究発表、評価</li> </ol> <p>授業の順序等は状況により変更になる場合があります。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: レシピと研究発表</p> <p>【2-1】客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力を有している。 成績評価方法: レシピと研究発表</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>【3-4】人々と協働・協調して学修を進める力を有している。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 適宜紹介します</p>	

授業科目名 (副題)	総合生活演習		
担当者	福井 愛美		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	放送局などマスコミでのインタビューやレポーター、MCなどの幅広い実務経験を活かして、取材活動や企業とのかかわり、接遇に関連する内容を指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>前期の前半は、6月に実施される「サービス接遇検定」2級及び準1級を受験するための準備として、相手に満足を提供する接遇について学びます。後半以降は「聞く力」「伝える力」などの研究を通して、表現力、交渉力、取材力、認識力を鍛え、実践レポートの卒業制作をめざします。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「サービス接遇検定」2級及び準1級を取得することができる。</li> <li>② 依頼状を作成して、取材先へアポイントメントを取ることができる。</li> <li>③ 目的にそった取材ができる。</li> <li>④ 取材活動をまとめたレポートを完成させることができる。</li> </ol> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>検定試験に向けて自主学習を望みます。また卒業制作に向けての活動の一部は、各グループで主体的に行ってください。</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>1年を通じたの積極的な学習態度と目標達成度(50%)、レポート制作とプレゼンテーション(50%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>問題集や課題は提出後、解答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>自らの到達目標を描き、それに向かって時間管理をしながら努力を惜しまない学習態度を求めます。</p> <p>なお、取材活動はグループで行いますので、情報を共有しチームで協力して実施してください。</p>			

授業科目名 (副題)	総合生活演習
担当者	福井 愛美
<p>[ 授業計画 ]</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(研究テーマ・ゼミ内容について)</li> <li>2. サービス接客検定2級及び準1級試験の概要</li> <li>3. サービススタッフの資質と専門知識</li> <li>4. サービス業務に対する心構えと一般知識</li> <li>5. 対人技能について</li> <li>6. 実務技能について</li> <li>7. 過去問題演習1(理論)</li> <li>8. 過去問題演習2(実務)</li> <li>9. 2級検定試験対策→2級受験</li> <li>10. 準1級面接ロールプレイング→準1級受験</li> <li>11. 後期に向けて、魅力的なりポートテーマについての検討</li> <li>12. 情報収集と予備調査1(事前インタビュー)</li> <li>13. 情報収集と予備調査2(事前インタビューのまとめ)</li> </ol> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>14. オリエンテーション(卒業レポート・今後の取り組みについて)</li> <li>15. (テーマ)についてのグループディスカッション</li> <li>16. (テーマ)についての調査と取材先決定</li> <li>17. 取材プラン作成</li> <li>18. 取材先への依頼状作成と送付</li> <li>19. 取材の日程調整</li> <li>20. 取材活動(訪問・実施)</li> <li>21. 取材活動(テープ起し)</li> <li>22. 取材活動(原稿作成)</li> <li>23. 取材活動(校正フィードバック)</li> <li>24. 取材内容の最終報告(原稿完成・報告書作成)</li> <li>25. 卒業レポート制作(視覚資料完成)</li> <li>26. レポート発表と振り返り</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法: 到達目標の達成度合いで評価します。</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を身に付ける。 成績評価方法: 到達目標の達成度合いで評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『サービス接客検定実問題集1-2級 第47回～51回』 著者名: 公益財団法人実務技能検定協会 出版社: 早稲田教育出版 (978-4-7766-1295-7)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>『サービス接客検定受験ガイド2級 改訂版』 著者名: 公益財団法人実務技能検定協会 出版社: 早稲田教育出版 (978-4-7766-1302-2) その他テーマによって適宜紹介します。</p>	

授業科目名 (副題)	総合生活論		
担当者	谷山 澤子、本保 弘子、細見 和子、古田 貴美子、西 奈保、福井 愛美、杉田 米行、堀 桂太郎		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	一級建築士として住宅設計の実務経験のある教員が、インテリアデザインの学び方について指導します。放送局などマスコミでのインタビューやレポーター、MCなどの幅広い実務経験のある教員がビジネスコミュニケーションの指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>授業は、第1回～3回まで、総合生活学科での基礎的な学習方法を身に付けるために、授業の進め方や学び方を理解し、図書館の利用方法やレポートの書き方を学びます。第4回の授業からは、生活全般に関する分野を総合的に、また学際的に学ぶ導入教育として、各分野の教員が講義を行います。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①「総合生活論」の理解を深めることができる</li> <li>②図書館の利用方法やレポートの書き方が理解できる。</li> <li>③目標達成のためのキャリアプランを描くことができる</li> <li>④生活全般に関わる諸問題の基本的な解決方法が理解できる。</li> <li>⑤ 総合生活学科の各科目の学び方が理解できる</li> </ol> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>2年間の学習を有意義なものにするために、授業前には各教員が担当する他の授業のシラバスもよく読み、質問などを考えておいてください。また、この授業で示唆された学習を自主的に進めて、後に続く学習の予習としてください。</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>各回の担当者が課題で評価した評価点(100点満点)を平均した点数を、最終の評価とします。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>提出物は後日添削をして返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>総合生活学科での学びをよく理解するために、各回の授業を欠席することなく受講してください。聞きたいことがあれば、率直に質問してください。</p>			

授業科目名 (副題)	総合生活論
担当者	谷山 澤子、本保 弘子、細見 和子、古田 貴美子、西 奈保、福井 愛美、杉田 米行、堀 桂太郎
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 総合生活学科の授業の進め方、学び方、科目群、資格、検定試験等の説明(全員)</li> <li>2. 図書館の活用法 図書館ツアー、読書マラソン紹介(1年次生学年主任)</li> <li>3. レポートの書き方(杉田)</li> <li>4. インテリアデザインの学び方(本保)</li> <li>5. 生活と衣服(古田)</li> <li>6. 食のコーディネートを学ぶ(細見)</li> <li>7. 生活の中での食を学ぶ(西)</li> <li>8. 情報系の資格(堀)</li> <li>9. 時事問題(杉田)</li> <li>10. ビジネスコミュニケーション(福井)</li> <li>11. 異文化コミュニケーション(谷山)</li> <li>12. 生活の課題と実践(古田)</li> <li>13. 総合生活学科での学習方法-「基礎ゼミ」の履修について-(全員)</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 各回の授業担当者が課題で評価します。</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法: 各回の授業担当者が課題で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 特になし</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 必要に応じて各回で提示 (各回で提示)</p>	

授業科目名 (副題)	宅地建物と法	
担当者	本保 弘子	
実務経験のある教員による授業	○	
実務経験内容	一級建築士として建築基準法などの建築法規を理解し、住宅設計の実務経験を有する教員が、宅地建物に関する法律を解説します。	
[アクティブラーニング授業]		
PBL(課題解決型)		反転授業
ディスカッション・ディベート		グループワーク
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク
その他		
[ICTの活用]		
manaba	○	Moodle
その他		
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  宅地建物取引士資格試験の試験範囲である宅建業法、法令上の制限、権利関係、公示価格、税法、住宅金融支援機構などについてわかりやすく解説します。  1回目から12回目まで毎回、宿題があります。7回目と13回目に理解度確認テストがあります。</p> <p>[ 到達目標 ]  宅地建物に関連する法令の基礎知識を修得できる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  10月の国家試験合格を目指して今日から毎日、学ぶ習慣をつけてください。テキストは4分冊になっていますのでそのうちの1冊を常に持ち歩きます。通学の電車のなかや待ち時間など、これまでボーっとしていた時間、暇だから何となくスマホをさわっていた時間を自分の明日のために使ってください。  毎回、十分な復習が必要です。合格するためには、夏休みも計画的な勉強が必要です。宅建試験を受ける人は、夏休み勉強会、カレッジアワー勉強会に参加してください。合格実績があります。  各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  受講態度(10%)、宿題(30%)、理解度確認テスト2回 (60%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  小テストは、次回授業で返却して解答を解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  宅建合格を目指す学生は受講してください。  授業中のスマホ、私語や居眠りなど授業に参加しない学生は欠席扱いとします。</p>		

授業科目名 (副題)	宅地建物と法
担当者	本保 弘子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宅地建物と法の学び方 宅建業法Ⅰ(宅建業とは、宅建業免許、宅建士、営業保証金)</li> <li>2. 宅建業法Ⅱ(保証協会、業務上の規制、重要受講説明、37条書面)</li> <li>3. 宅建業法Ⅲ(自ら売主8種制限、監督処分と罰則、住宅瑕疵担保履行法)</li> <li>4. 法令上の制限Ⅰ(都市計画法)</li> <li>5. 法令上の制限Ⅱ(建築基準法 国土利用計画法)</li> <li>6. 法令上の制限Ⅲ(農地法、土地区画整理法、その他の法律)</li> <li>7. 理解度確認テスト1、権利関係Ⅰ(制限行為能力者、意思表示、代理)</li> <li>8. 権利関係Ⅱ(時効、物権、抵当権)</li> <li>9. 権利関係Ⅲ(売買契約、賃貸借契約・借地借家法)</li> <li>10. 権利関係Ⅳ(債権譲渡、連帯債務・保証債務、不法行為)</li> <li>11. 権利関係Ⅴ(相続、区分所有法)</li> <li>12. 権利関係Ⅵ(不動産登記)、地価公示</li> <li>13. 理解度確認テスト2、不動産実務、土地建物、税法</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 理解度確認テスト</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法: 理解度確認テスト</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 理解度確認テスト</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『2022年度版 スッキリわかる宅建士』 著者名: 中村 喜久夫 出版社: TAC出版 (978-4813299448)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>合格しようぜ! 宅建士2022 音声付き過去15年問題集 著者名: 大澤 茂雄 出版社: インプレス (978-4295005261)</p>	



授業科目名 (副題)	中国語コミュニケーション I		
担当者	李 力		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>中国語は漢字のみに関わると思われがちですが、初級レベルにおいて最も重要な訓練の一つは中国語の発音記号であるピンイン(概ねローマ字)の学習です。ピンインは中国語を話す・読む・書くなどすべての面において欠かせないものであり、この授業ではピンインを正しく発音する練習から始めます。次に、重要な文法事項を確認しながら会話の練習を行い、中国語コミュニケーションに役立つ表現を身に付けていきます。なお、中国語コミュニケーションに役立つ中国文化についての情報も、随時紹介する予定です。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①中国語を正しく発音する、聞き取ることができるようになる。          ②基本的な文法規則と語彙を用いた応答表現ができるようになる。          ③中国語の構造や言語的特徴を理解できるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>毎回授業で先週の学習内容について質問をしますので、教科書に紹介されている例文などを活用して、しっかり復習してください。          各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>小テスト(50%)、授業態度や課題など(50%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>小テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>中国語への学習意欲・関心のある未習者、一度勉強したことはあるが基礎が身に付いていないと感じている人の参加を歓迎します。間違いを恐れず、積極的に授業に参加することが上達の早道です。なお受講者のレベルに応じて、授業の進度を調整します。</p>			

授業科目名 (副題)	中国語コミュニケーション I
担当者	李 力
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、中国語の紹介、ピンインの学習</li> <li>2. ピンインの学習(単母音、複母音、鼻母音、声調)</li> <li>3. ピンインの学習(母音、子音、軽声、声調変化)</li> <li>4. ピンインの学習まとめ(聞き取り練習)、あいさつ言葉</li> <li>5. “是”動詞文、名前の訪ね方と答え方など</li> <li>6. 動詞述語文、選択疑問文など</li> <li>7. 復習、練習問題など</li> <li>8. 練習問題、指示代詞、“的”の使い方など</li> <li>9. 疑問詞疑問文、助動詞など</li> <li>10. 復習、練習問題など</li> <li>11. 形容詞述語文、反復疑問文など</li> <li>12. 動詞“有”、量詞など</li> <li>13. 総合復習、ピンイン、語彙、文法に関する理解度の確認</li> </ol> <p>*上記以外に不定期に小テストを行います。 *クラスの学習状況によって、授業計画に変更を加えることがあります</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ] 【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法:小テスト(50%)、授業態度や課題など(50%)で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 『大学生のための初級中国語24回』 著者名:杉野元子・黄漢青 出版社:白帝社 (9784863980686 )</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 開講時に指示します。</p>	

授業科目名 (副題)	中国語コミュニケーションⅡ		
担当者	李 力		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  前期の学習内容に続き、中国語の発音、語彙、文法の学習をさらに深めていきます。教科書の文法事項や例文を確認しながら会話の練習を行い、中国語コミュニケーションに役立つ表現を身に付けていきます。なお、中国語コミュニケーションに役立つ中国文化についての情報も、随時紹介する予定です。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①中国語を正しく発音する、聞き取ることができるようになる。</li> <li>②基本的な文法規則と語彙を用いた応答表現ができるようになる。</li> <li>③中国語の構造や言語的特徴を理解できるようになる。</li> </ol> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  毎回授業で先週の学習内容について質問をしますので、教科書に紹介されている例文などを活用して、しっかり復習してください。  各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  小テスト(50%)、授業態度や課題など(50%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  小テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  中国語への学習意欲・関心のある未習者、一度勉強したことはあるが基礎が身に付いていないと感じている人の参加を歓迎します。間違いを恐れず、積極的に授業に参加することが上達の早道です。なお受講者のレベルに応じて、授業の進度を調整します。</p>			

授業科目名 (副題)	中国語コミュニケーションⅡ
担当者	李 力
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、前期授業の復習</li> <li>2. 時刻の言い方、前置詞“在”など</li> <li>3. 年月日・曜日の言い方、連動文など</li> <li>5. 授業の復習、練習問題など</li> <li>6. 指示代詞(2)、方位詞など</li> <li>7. 動詞の重ね型、前置詞“给”など</li> <li>8. 授業の復習、練習問題など</li> <li>10. 動作量補語、前置詞“跟”など</li> <li>11. 時間量補語、前置詞“从、到、离”など</li> <li>13. 総合復習、ピンイン、語彙、文法に関する理解度の確認</li> </ol> <p>*上記以外に不定期に小テストを行います。 *クラスの学習状況によって、授業計画に変更を加えることがあります。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法: 小テスト(50%)、授業態度や課題など(50%)で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『大学生のための初級中国語24回』 著者名: 杉野元子・黄漢青 出版社: 白帝社 (9784863980686)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>開講時に指示します。</p>	

授業科目名 (副題)	調理学		
担当者	竹内 美貴		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          実際の調理操作中に生じる様々な現象と調理理論を結び付けながら、各食品の調理性について分かりやすく解説します。</p> <p>[ 到達目標 ]          ①調理操作や食品の特性を理解し、理論に基づいた調理ができるようになる。          ②健康を考えたおいしい食事作りが実践できる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          事前準備として、シラバスの「授業計画」を確認し、テキストを読んでおいてください。事後学習として毎回ノートまとめを授業時間外に行ってください。          各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          理解度確認テスト(90%)、授業態度(10%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          後日、解答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          積極的な受講態度を望みます。授業でのマナーを守ってください。</p>			

授業科目名 (副題)	調理学
担当者	竹内 美貴
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 調理の意義</li> <li>2. 食物のおいしさ</li> <li>3. 調理操作、調理機器</li> <li>4. 食品の成分と調理(穀類)</li> <li>5. 食品の成分と調理(いも、豆)</li> <li>6. 食品の成分と調理(野菜、きのこ、海草)</li> <li>7. 食品の成分と調理(肉類)</li> <li>8. 食品の成分と調理(魚介類)</li> <li>9. 食品の成分と調理(卵類)</li> <li>10. 食品の成分と調理(乳・乳製品)</li> <li>11. 食品の成分と調理(成分抽出素材)</li> <li>12. 食事計画、調理と安全</li> <li>13. 食品の成分と調理に関する理解度確認テスト</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 理解度確認テスト、授業態度</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 理解度確認テスト、授業態度</p> <p>【3-2】主体的に学習を深める力を有している。 成績評価方法: 理解度確認テスト、授業態度</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『エスカペーシック 食べ物と健康－調理学－』 著者名: 渋川祥子編著 出版社: 同文書院 (978-4-8103-1359-8)</p> <p>『オールガイド食品成分表 2022』 著者名: 実教出版株式会社 出版社: 実教出版株式会社 (978-4-407-34850-7)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>プリント配布</p>	

授業科目名 (副題)	調理学実習		
担当者	西 奈保		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          日常の食事を基本として、行事食や西洋料理や中国料理など他国の食文化、ライフステージ別の食事についても実習するとともに、食事マナーや配膳を学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]          ①健康や食の安心安全を前提とした食事作りができるようになる。          ②行事食について学び、食文化など多面に渡って食を理解できる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          毎回のレポートは授業時間外に仕上げてください。          「調理基礎実習」を復習しておいてください。          調理技術は反復することで身に付きますので、学んだ料理等も復習しておいてください。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          提出物(50%)、理解度確認テスト(30%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          提出物は後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          授業は班ごとに行うため、チームワークを大切に、積極的な態度で受講してください。          できれば「調理基礎実習」を履修しておいてください。衛生面に充分注意してください。          実習着と実材料費が必要です。</p>			

授業科目名 (副題)	調理学実習
担当者	西 奈保
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業の目的と実習内容、レポートについて</li> <li>(2) 調理における安全面と衛生面について</li> <li>(3) 献立パターンと配膳について</li> <li>(4) 実習室の説明と諸注意、器具、計量、包丁の扱いについて</li> </ol> </li> <li>2. 日本料理: 煮魚、白和え、さつまい</li> <li>3. 日本料理: 天ぷら、茶碗蒸し</li> <li>4. 中国料理: 麻婆豆腐、涼拌三絲、桂花蟹羹</li> <li>5. 西洋料理: ミートソーススパゲティ、ゼリー</li> <li>6. 西洋料理: シチュー、サラダ</li> <li>7. ライフステージ別の食事: 乳児期の食事(離乳食)</li> <li>8. ライフステージ別の食事: 幼児期の食事</li> <li>9. ライフステージ別の食事: 思春期の食事</li> <li>10. ライフステージ別の食事: 成人期・高齢期の食事</li> <li>11. 行事食: クリスマス料理</li> <li>12. 行事食: 正月料理(祝肴、口取り、焼き物、煮物、酢の物、雑煮)</li> <li>13. 食品の扱いと調理方法、献立作成と配膳についての復習</li> </ol> <p>※食材等の状況により、献立内容、順序を変更する場合があります。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びをとおして、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 提出物、理解度確認テスト</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 提出物、理解度確認テスト</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>【3-3】多様なものの見方や考え方を尊重する姿勢を有している。 成績評価方法: 提出物、授業態度</p> <p>【3-4】人々と協働・協調して学修を進める力を有している。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] プリント配布</p>	



授業科目名 (副題)	調理学実習Ⅱ		
担当者	西 奈保		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          ライフステージに適した食品と調理方法について学び、年代に応じた献立を実習します。</p> <p>[ 到達目標 ]          ①基本的な調理技術を基に、応用した調理ができるようになる。          ②年代に合った食事作りが実践できるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          毎回のレポートは、授業時間外に仕上げてください。          学んだ料理等は復習し、次の授業に応用できるよう事後学習を行ってください。          「調理基礎実習」や「調理学実習Ⅰ」の内容を復習し、授業前に調理理論と技術を確認しておいてください。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          提出物(70%)、授業態度(30%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          提出物は後日、添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          授業は班毎の実習のため、チームワークを大切に、積極的な態度で受講してください。          衛生面に充分注意してください。実習着と実材料費が必要です。          できれば「調理基礎実習」を履修しておいてください。</p>			

授業科目名 (副題)	調理学実習Ⅱ
担当者	西 奈保
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 乳児期の食事 離乳食(1) 生後5,6か月頃</li> <li>3. 乳児期の食事 離乳食(2) 生後7,8か月頃、9か月～11か月頃</li> <li>4. 乳児期の食事 離乳食(3) ベビーフードについて知る</li> <li>5. 幼児期の食事</li> <li>6. 幼児期の食事(アレルギー対応)</li> <li>7. 幼児期の間食</li> <li>8. 幼児期の間食(アレルギー対応)</li> <li>9. 思春期の食事(貧血予防)</li> <li>10. 成人期の食事(1) 日本料理</li> <li>11. 成人期の食事(2) 西洋料理</li> <li>12. 成人期・高齢期の食事(3) 疾病予防のための食事</li> <li>13. 年代別の食事についての復習</li> </ol> <p>※食材等の状況により、実習内容を変更する場合があります。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 提出物</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 提出物</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>【3-3】多様なものの見方や考え方を尊重する姿勢を有している。 成績評価方法: 提出物、授業態度</p> <p>【3-4】人々と協働・協調して学修を進める力を有している。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] プリント配付</p>	

授業科目名 (副題)	調理基礎実習		
担当者	西 奈保		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ] 調理を安全に衛生的に行うための基本的な理論を学び、調理器具や包丁の扱い方、計量方法などを学習してから、基礎的な食品の扱い、調理操作へと進めていきます。 日本料理、中国料理、西洋料理を取り入れた日常的な食事作りができるよう展開していきます。</p> <p>[ 到達目標 ] ①基本的な食品の扱いと調理技術を習得することができる。 ②日本料理、中国料理、西洋料理を取り入れた日常的な食事作りができるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 毎回の授業レポートは、授業時間外に仕上げてください。 調理技術は反復することで身に付きます。学んだ料理等は復習し、次の実習に応用できるよう準備しておいてください。</p> <p>[ 成績評価方法 ] 提出物(70%)、授業態度(30%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 提出物は後日、添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ] 授業は班ごとに行うため、チームワークを大切に、積極的な態度で受講してください。 衛生面に充分注意してください。実習着と実材料費が必要です。 調理室の設備の都合上、人数調整を行う場合があります。</p>			

授業科目名 (副題)	調理基礎実習
担当者	西 奈保
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業の目的、実習の進め方レポートについて</li> <li>(2) 調理における安全面と衛生面について</li> <li>(3) 調理室の説明と諸注意</li> <li>(4) 調理の基本操作(器具の扱い、計量)</li> </ol> </li> <li>2. 包丁の扱いと切り方</li> <li>3. 炊飯、だし汁の取り方と調味および官能評価</li> <li>4. 焼き魚、野菜の煮物、みそ汁</li> <li>5. 親子丼、ほうれん草のお浸し</li> <li>6. 炊き込みご飯、酢の物</li> <li>7. 魚のムニエル、サラダ</li> <li>8. ポークソテー、スープ</li> <li>9. 麻婆豆腐、中華スープ</li> <li>10. 乾炸鶏、涼拌蕃茄</li> <li>11. ちらし寿司、清汁</li> <li>12. お菓子</li> <li>13. 食材の扱いと調理方法、配膳についてのまとめと復習</li> </ol> <p>※食材等の状況により、献立内容、順序を変更する場合があります。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 提出物</p> <p>【3-3】多様なものの見方や考え方を尊重する姿勢を有している。 成績評価方法: 提出物、授業態度</p> <p>【3-4】人々と協働・協調して学修を進める力を有している。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 食べ物と健康—調理学— 著者名: 渋川祥子 出版社: 同文書院 (978-4-8103-1359-8)</p>	

授業科目名 (副題)	調理基礎実習		
担当者	西 奈保		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  調理を安全に衛生的に行うための基本的な理論を学び、調理器具や包丁の扱い方、計量方法などを学習してから、基礎的な食品の扱い、調理操作へと進めていきます。  日本料理、中国料理、西洋料理を取り入れた日常的な食事作りができるよう展開していきます。</p> <p>[ 到達目標 ]  ①基本的な食品の扱いと調理技術を習得することができる。  ②日本料理、中国料理、西洋料理を取り入れた日常的な食事作りができるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  毎回の授業レポートは、授業時間外に仕上げてください。  調理技術は反復することで身に付きます。学んだ料理等は復習し、次の実習に応用できるよう準備しておいてください。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  提出物(70%)、授業態度(30%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  提出物は後日、添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  授業は班ごとに行うため、チームワークを大切に、積極的な態度で受講してください。  衛生面に充分注意してください。実習着と実材料費が必要です。  調理室の設備の都合上、人数調整を行う場合があります。</p>			

授業科目名 (副題)	調理基礎実習
担当者	西 奈保
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業の目的、実習の進め方レポートについて</li> <li>(2) 調理における安全面と衛生面について</li> <li>(3) 調理室の説明と諸注意</li> <li>(4) 調理の基本操作(器具の扱い、計量)</li> </ol> </li> <li>2. 包丁の扱いと切り方</li> <li>3. 炊飯、だし汁の取り方と調味および官能評価</li> <li>4. 焼き魚、野菜の煮物、みそ汁</li> <li>5. 親子丼、ほうれん草のお浸し</li> <li>6. 炊き込みご飯、酢の物</li> <li>7. 魚のムニエル、サラダ</li> <li>8. ポークソテー、スープ</li> <li>9. 麻婆豆腐、中華スープ</li> <li>10. 乾炸鶏、涼拌蕃茄</li> <li>11. ちらし寿司、清汁</li> <li>12. お菓子</li> <li>13. 食材の扱いと調理方法、配膳についてのまとめと復習</li> </ol> <p>※食材等の状況により、献立内容、順序を変更する場合があります。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 提出物</p> <p>【3-3】多様なものの見方や考え方を尊重する姿勢を有している。 成績評価方法: 提出物、授業態度</p> <p>【3-4】人々と協働・協調して学修を進める力を有している。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 食べ物と健康—調理学— 著者名: 渋川祥子 出版社: 同文書院 (978-4-8103-1359-8)</p>	

授業科目名 (副題)	デザイン論		
担当者	尼子 実沙		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	グラフィックデザイナーの経験を有する教員が生活全般にかかわる「デザイン」について指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  「デザイン」という行為は、私たちが生活することすべてに関わっています。デザインというものはどういうものか、又、その目的は何なのか、さまざまな例を取り上げながら講義を進めます。</p> <p>[ 到達目標 ]  生活全般にかかわっているデザインに関心・興味を持つことができるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  授業の終わりに、次回のテーマを告知します。そのことについて各自が予備知識を持つように文献等を調べ、より一層関心を持てるよう予習をしておいてください。  各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  勉学態度(30%)と小テスト(70%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  学内共有フォルダにてまとめの解答例などを開示します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  普段の生活の中で何気なく見過ごしがちな身の回りのものたちを、よく目を凝らして見たり、考えたりすると、ものの本質が見えかけてきます。そういう見方、考え方ができるようになると講義が一層意味深いものになると思います。</p>			

授業科目名 (副題)	デザイン論
担当者	尼子 実沙
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「デザイン」とは 「デザイン」の目的と付加価値について</li> <li>2. デザインの職種と機能① グラフィックデザイン領域</li> <li>3. デザインの職種と機能② パッケージデザイン、webデザイン、UI/UXデザイン</li> <li>4. デザインの職種と機能③ ファッション(ジュエリー)デザイン、テキスタイルデザイン</li> <li>5. デザインの職種と機能④ 建築デザイン、インテリアデザイン、ランドスケープデザイン</li> <li>6. デザインの職種と機能⑤ ディスプレイデザイン: 展覧会、博覧会、ショールーム、見本市</li> <li>7. デザインの職種と機能⑥ 映像デザイン</li> <li>8. ブランディングとは</li> <li>9. デザインの歴史① 様式美</li> <li>10. デザインの歴史② 産業革命と近代デザイン</li> <li>11. 美術とデザインについて 世界のデザイン</li> <li>12. これからのデザイン: バリアフリーデザイン、ユニバーサルデザイン、SDGs</li> <li>13. 小テスト 生活とデザインの関わりについての理解度の確認</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 生活の全てにデザインというものが関わっているという認識を持つことができたか、またその目的を理解できたかを評価します。</p> <p>【2-4】持続可能な社会のために、未来を切り開く想像力を有している。 成績評価方法: SDGs社会において、どの分野のデザインをどのように見直し、その結果が現状といかに相違するのか、ということを実現できるかを評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 必要に応じてプリントを配布します。</p>	



授業科目名 (副題)	デッサン演習		
担当者	辻田 美和		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  「描く」という表現方法は、他者と繋がるための大切なコミュニケーションツールです。身の回りの身近なものや植物などの自然物をじっくり観察して見る力を磨き、デッサンという描く演習を通して自分が伝えたいことを表現する力を育みます。</p> <p>[ 到達目標 ]  主題の形や質感を観察し、正確に描くことができるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  身の回りにあるものや自然物を観察することに取り組んでください。授業時間内に作品が仕上がらなかった場合は、次の授業までに完成させておいてください。  各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  提出物(演習作品)(70%)と受講態度(30%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  作品の返却時にフィードバックを行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  描くことが苦手と感じている人でも、楽しく積極的に学んでください。各自で、図画鉛筆(2~3本)を準備して下さい。詳しくは授業にて説明します。</p>			

授業科目名 (副題)	デッサン演習
担当者	辻田 美和
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、描く画材について</li> <li>2. 描画について</li> <li>3. 描いてみよう・クロッキー1形について</li> <li>4. 描いてみよう・クロッキー 2 線について</li> <li>5. 描いてみよう・自然物 1 観察して描く</li> <li>6. 描いてみよう・自然物 2 濃淡をつける</li> <li>7. 描いてみよう・自然物 3 作品の完成</li> <li>8. 物体の構造の理解と描画力</li> <li>9. 描いてみよう・デッサン 1 構想・下描き</li> <li>10. 描いてみよう・デッサン 2 観察・形</li> <li>11. 描いてみよう・デッサン 3 観察・質感</li> <li>12. 描いてみよう・デッサン 4 作品の完成</li> <li>13. 作品の展示と鑑賞、学びの振り返り</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法: 提出物(演習作品)で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] なし</p>	

授業科目名 (副題)	動物心理学		
担当者	石原 孝、宮 豊、濱崎 さやか、小坂 直也、谷口 真理、桑原 岳、中野 あや、水野 光大、東口 信行、安田 ゆみ		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	前半:水族館で働く研究者や飼育者が野外や飼育下の生物を実例としてあげながら行動やその意味について理解を深める講義を行います。後半:獣医師として診療(予防や治療)を行っている者が、実例をあげて理解を深める講義を行います。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>前半は水族館に関わる専門家による講義であり、幅広い動物達の生態や飼育下における行動などから動物の行動を引き起こす仕組みしくみについて考えます。野生下での動物の行動とその意味と要因を考え、飼育下で再現するための考え方や方法、またその意義について講義します。後半の獣医師が担当する講義では動物行動学(心理学)の概説、動物心理学が人の社会でどのように用いられているかを足がかりに、動物の習性と行動をはじめ、子犬を飼い始めるときに知っておくべき犬の習性や、躰の方法、病気の予防方法についても解説します。さらに犬、猫の妊娠、分娩の生理機構および猫の乳児期・社会化期と性格の形成、また身近な動物が人の子供の成育に及ぼす影響について講義します。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①身近にいる動物達を観察し、その動物達の行動や形態から動物達の価値観を理解できるようになる。          ②人間と動物の関係について理解を深め、動物を一時的に可愛がるいわゆるペットではなく、ともに生きる伴侶、コンパニオンアニマルとして捉えられるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>参考図書類で専門用語に慣れておく予習をしてください。また、ノートを読み直して復習をしてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>復習のための提出物や小テスト(前半第1~9回70%、後半第10~13回30%)により評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>質問等を受け付け、それに対して回答します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>特になし</p>			

授業科目名 (副題)	動物心理学
担当者	石原 孝、宮 豊、濱崎 さやか、小坂 直也、谷口 真理、桑原 岳、中野 あや、水野 光大、東口 信行、安田 ゆみ
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行動学と動物飼育1 (石原)</li> <li>2. 行動学と動物飼育2 (石原)</li> <li>3. 野生動物の行動と生態1 (石原)</li> <li>4. 淡水魚の生息環境と飼育の条件 (東口)</li> <li>5. ペットとしてのアカミミガメ(谷口)</li> <li>6. 在来種と外来種 (谷口)</li> <li>7. 魚類の行動学(小坂)</li> <li>8. 水族園の飼育動物と飼育環境(安田)</li> <li>9. 野生動物の行動と生態2 (石原)</li> <li>10. 猫の行動学・ペットの問題行動とアニマルウェルフェア (中野)</li> <li>11. 犬の気持ち (濱崎) <ul style="list-style-type: none"> <li>・より良い伴侶として付き合っていく上で知っておくべき犬の思考</li> <li>・人とのトラブルを回避するために知っておくべき犬の習性</li> </ul> </li> <li>12. 子犬を飼い始めるときに(宮) <ul style="list-style-type: none"> <li>・子犬の習性と社会化の重要性について</li> <li>・躾の方法と病気の予防</li> </ul> </li> <li>13. 犬と猫の出産・動物と子供(桑原) <ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩前後の生理機構と母性について</li> <li>・身近な動物の存在が子供の成育におよぼす影響について</li> </ul> </li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 提出物や小テストにより評価します。</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法: 提出物や小テストにより評価します。</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法: 提出物や小テストにより評価します。</p> <p>【2-4】持続可能な社会のために、未来を切り開く創造力を有している。 成績評価方法: 提出物や小テストにより評価します。</p> <p>[ テキスト (ISBN) ]</p> <p>(第1～9回に関して)スライド投射、板書によって講義を行います。必須テキストはありません。 (第10～13回に関して)スライド投射で講義を行い、必要に応じてプリントを配付します。</p> <p>参考文献6 (第10～13回に関して)(初級編)コンラート・ローレンツ著『人 イヌにあう』 著者名:コンラート・ローレンツ 出版社: 早川書房 (978-4150503550)</p> <p>参考文献7 (第10～13回に関して)『子どもたちの仲間学校犬「バディ」—動物介在教育の試み』 出版社:高文研 (978-4874984277)</p> <p>[ 参考文献 (ISBN) ]</p> <p>(第1～9回に関して)『現代を生きるための生物学の基礎』 著者名:亀崎 直樹 出版社:化学同人 (978-4759810837)</p> <p>(第1～9回に関して)高校程度の生物の教科書 (第10～13回に関して)水越美奈 監修・藤井仁美 著『猫の困った行動 予防&amp;解決ブック』緑書房 著者名:水越美奈 監修・藤井仁美 著 (978-4895315760)</p> <p>(第10～13回に関して)村田香織 著『こころのワクチン 子犬に教える、人と幸せに暮らす方法』パレードブック 著者名:村田香織 著 (978-4434151866)</p> <p>(第10～13回に関して) 菊水健史・永澤美保 著『犬のココロをよむ』 著者名:菊水健史・永澤美保 著 出版社:岩波書店 (978-4000295994)</p>	

授業科目名 (副題)	日本語表現		
担当者	福井 愛美		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	放送局などマスコミやイベント関係でのナレーター・演出など幅広い実務経験を活かして、「話す」「聞く」「書く」「読む」に関する内容の指導を行います。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>日本語の特色を理解し、「話す」「聞く」ことについてのトレーニングを行います。音声表現の基本として発声のメカニズムや日本語特有の表現力を身に付けます。「書く」「読む」では大学での学びに必要なとされるレポートの書き方、アウトライン作成や文章作成など、文章表現を中心に学びます。さらによりよい人間関係を築くための表現として日本社会になくてはならない敬語についても、その種類や基本的な考え方を学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 誠意をもって話を聞き、話を展開させることができる。</li> <li>② 話しの内容を簡潔にまとめてわかりやすく話すことができる。</li> <li>③ 大学生活や社会に対応できる正しい敬語表現ができる。</li> <li>④ 原稿用紙の用法を理解し、テーマに即したレポートを書くことができる。</li> </ol> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>新聞や本を積極的に読んで、話題になっている記事をまとめたり、スピーチ原稿を作成するなど、毎回の課題に合わせて予習、復習をしてください。 ハキハキと話せるよう発声練習をしておくことも大切です。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>授業への取り組みと発表 (20%)、課題の提出物 (20%)、理解度確認テスト (60%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>レポートは後日添削をして返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>自分を磨くための授業です。自分で積極的に取り組み自分を磨いてください。授業でやることはすべて自分のものにするという気持ちで臨んでください。 「秘書士」「プレゼンテーション実務士」資格の選択科目になっています。</p>			

授業科目名 (副題)	日本語表現
担当者	福井 愛美
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語の重要性…さまざまな文章とリーディングの基礎について</li> <li>2. 文学の中の日本語…代表的な文学作品から美しい日本語のリズムを知る</li> <li>3. 音声表現について…発声のメカニズム</li> <li>4. 音声表現について…共通語のアクセントについて</li> <li>5. 話し方の技術…バーバル表現とノンバーバル表現</li> <li>6. 敬語の種類と使い方…敬語の基本と間違いやすい敬語</li> <li>7. 敬語の種類と使い方…ビジネス社会における敬語、電話対応での敬語</li> <li>8. 文章の構成と原稿用紙の用法</li> <li>9. 誤用文・推敲の方法・正しい表記について…副詞の呼応、接続詞、修飾句、主語述語の一致</li> <li>10. 修辞法と慣用句、さまざまな熟語…比喩法、ことわざ、故事成語</li> <li>11. レポート・論文作成の手順…発想～構成</li> <li>12. レポート・小論文の作成…400字、800字の小論文</li> <li>13. 話す・聞く・書くを振り返る…理解度確認テスト</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>【2-1】客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力を有している。 成績評価方法: 課題の提出物や確認テストで評価します。</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組みと発表で評価します。</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 課題の提出物や確認テストで評価します。</p> <p>[ テキスト (ISBN) ]</p> <p>『新版 日本語表現法「書く」「話す」「伝える」ための技法』 著者名: 西尾宣明編著 出版社: 樹村房 (978-4-88367-221-9 )</p> <p>[ 参考文献 (ISBN) ]</p> <p>『ベーシック日本語表現』 著者名: 毛利美穂・中尾瑞樹 出版社: 万葉書房 (978-4-944185-12-2 C3081)</p>	

授業科目名 (副題)	ネイルアート演習 I		
担当者	村治 麻衣		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	美容店ででの在職経験を有した教員が、ネイルの基礎理論、技術、実技を織り交ぜながら、ネイルケアの技術を指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          ネイルの基礎理論を学ぶ講義と技術を学ぶ実技とを織り交ぜながら進めていきます。基礎理論ではテキストに沿ってネイルの歴史や皮膚学、ネイルのための生理解剖学等を学び、実技では受講生同士が互いの爪で練習し合う「相モデル」の形態を取りネイルケアの技術を習得します。</p> <p>[ 到達目標 ]          ①正しいネイルケアの知識と技術を身に付けることができる。          ②社会に通用するネイルデザインやカラーを学ぶと、知的で清潔感のある女性を目指すことができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          実技においては自宅で復習をし、体で覚えることを目的とします。自身で揃えた道具に関しては各自大切に取り扱い、実技授業前までに清潔な状態で準備してください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          授業態度(40%)、レポート(40%)、小テスト(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          理解度の確認テストを回収後、回答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          人数制限1クラス20名まで。          実技授業では受講生同士が互いの爪で練習し合うため、ジェルネイルやスカルプチュア等のイクステンションは全て落とし、何も付いていない地爪の状態です。授業に臨んでください。</p>			

授業科目名 (副題)	ネイルアート演習 I
担当者	村治 麻衣
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス オリエンテーション</li> <li>2. ネイルの歴史と技術形態について</li> <li>3. 爪の形とその整え方</li> <li>4. 甘皮の処理方法とその手順</li> <li>5. キューティクルケア</li> <li>6. バッフィングとその方法</li> <li>7. ハンドマッサージ</li> <li>8. 爪の構造と働き 皮膚学</li> <li>9. 手足の骨格や働きについて</li> <li>10. 手足の神経と血液循環</li> <li>11. カラーリングの方法とその手順</li> <li>12. ケアカラー</li> <li>13. ネイル基礎理論に関する理解度の確認</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって主体的に学修を深め、資格取得に資する力を有している。  成績評価方法: 授業態度(40%)、レポート(40%)、小テスト(20%)で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>JNAテクニカルシステムベーシックに準じたプリントを授業ごとに配布します。</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>なし</p>	



授業科目名 (副題)	ネイルアート演習Ⅱ		
担当者	村治 麻衣		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>前期の「ネイルアート演習Ⅰ」で学習した知識を基に、授業を進めていきます。前期同様、ネイルの基礎理論を学ぶ講義と技術を学ぶ実技とを織り交ぜて進めていきます。基礎理論ではテキストに沿って爪の病気・色彩理論・消毒法等を学び、実技では受講生同士が互いの爪で練習し合う「相モデル」の形態を取り主にネイルアートを中心とした技術を習得します。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①正しいネイルカラーリングの知識と技術を身に付けることができる。 ②ネイルアートの技術を身につけることで自己表現につなげることができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>実技においては自宅で復習をし、体で覚えることを目的とします。自身で揃えた道具に関しては各自大切に取り扱い、実技授業前までに清潔な状態で準備してください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>授業態度(40%)、実技(20%)、小テスト(40%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>理解度確認テストを回収後、回答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>人数制限1クラス20名まで。 実技授業では受講生同士が互いの爪で練習し合うため、ジェルネイルやスカルプチュア等のイクステンションは全て落とし、何も付いていない地爪の状態です。授業に望んでください。</p>			

授業科目名 (副題)	ネイルアート演習Ⅱ
担当者	村治 麻衣
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケアカラートータル復習</li> <li>2. カラーリングやネイルアートの種類</li> <li>3. パール系カラーのカラーリング</li> <li>4. 爪の病気とトラブルについて</li> <li>5. フラワーデザイン</li> <li>6. フレンチデザイン</li> <li>7. 色彩理論・化粧品学について</li> <li>8. タータンチェックアート</li> <li>9. ジェルネイルについて</li> <li>10. 消毒法について</li> <li>11. ケアカラーアートトータル復習</li> <li>12. ケアカラーアートトータル復習</li> <li>13. ネイル基礎理論に関する理解度の確認</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって主体的に学修を深め、資格取得に資する力を有している。</p> <p>成績評価方法: 授業態度(40%)、実技(20%)、小テスト(40%)で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>JNAテクニカルシステムページックに準じたプリントを授業ごとに配布します。</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>なし</p>	

授業科目名 (副題)	犯罪心理学		
担当者	西岡 敏成		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	警察官として犯罪実務の経験を有する教員が、多種多様な事件・事案の体験・経験で得た犯罪心理や危機管理等についての講義を通じて、様々な事態に対応できるように指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ] 治安の実態、犯罪とは、犯罪捜査などの基本を理解し、罪種別犯罪について、その発生要因や犯罪者の心理、抑止対策等について解説します。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① TVや新聞の犯罪報道を正確に理解できるようになる。</li> <li>② 犯罪捜査に関する専門的用語などが理解できるようになる。</li> <li>③ 規範意識・遵法精神が醸成できるようになる。</li> <li>④ 犯罪、災害等に対する危機管理能力を身に付け、有事の際に迅速的確に対応するための生きる力を持てるようになる。</li> </ol> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] シラバスに対応した犯罪に関する報道記事を切り抜くなどして授業に備えるとともに、質問事項は授業中に疑問解消を図ってください。また、事後はノート・資料などを整理してください。(記憶より記録することを重視してください。) 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ] 授業時間内に指摘する重要事件・事案等に関する理解度確認テスト(70%)を最終13回目に、グループ討議(20%)、小テスト(10%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 理解度確認試験テストの回収後、グループ討議後及び小テスト回収後に解答の解説及び質疑応答を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ] 聞き慣れない専門用語が出てくると思いますが、できるだけ平易な言葉に変えて授業を進めますので、しっかり聴いてポイントはメモするよう心がけてください。また、特に事前の授業準備物はありますが、配布する資料を編冊するファイルを用意しておいてください。</p>			

授業科目名 (副題)	犯罪心理学
担当者	西岡 敏成
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 授業の進め方及び受講生から何を学びたいかの要望調査等を行います。さらに、グループ 討議の在り方及びその評価方法を教示します。 (授業冒頭には、教員及び受講生の自己紹介を実施します。)</li> <li>2. 犯罪とは何か。～刑法総論から～ 犯罪の構成要件及び罪刑法定主義についてわかりやすく学ぶとともに、何故人は犯罪を犯すのかなど犯罪を犯す人の心理分析を行うと共に事例を通じて犯罪心理学を学び、規範意識を醸成します。</li> <li>3. 女性が犯しやすい犯罪と心理 女性が犯罪を起こした場合、何故この犯罪なのかを議論し理解することで犯罪の予防を図ります。(グループ討議)</li> <li>4. 何故我が子を虐待するのか、虐待の心理と対策 今なお発生し続ける子どもへの虐待について現状分析とその心境等について討議し虐待の 実態とその予防方策について学びます。(グループ討議)</li> <li>5. いじめ事案対応 刑法の視点で、いじめは遊びか犯罪かを題材に、いじめ事案の徹底分析を通じて国の宝、日本の未来で ある子どもを守るための一翼を担う人材育成を図ります。</li> <li>6. 人は何故人を殺すのか、何故自分を殺すのか 凶悪事件犯人の心理分析と共に事例からその犯人の深層心理を追い求め、人命の尊さを学 ぶとともに、何が自殺に追い込むのか、本当に自殺は止められないのか等、個別事例を分析 検討することにより自殺予防に寄与することを目的とします。</li> <li>7. 民事絡み事案に巻き込まれ泣きを見ないために 交通事故・金銭の貸借(保証人・連帯保証人)などに絡む事案想定を検討し、トラブルから の防御法を学びます。</li> <li>8. 危機管理とは(危機に対してどのように対応するのか) 危機の基本及び様々な危機想定に基づきその対応要領を学ぶとともに、今後の社会生活に生 かせないようにします。</li> <li>9. デートDV・ストーカー・SNSの脅威 女性が被害者になるおそれのあるDV・ST等について、加害者心理・被害者心理及びその要 因・対応策を具体的に説明し、自らの安全を 守ることを学びます。</li> <li>10. 子どもを犯罪から守る街づくり どんな街が犯罪者から狙われ、犯罪者は何を恐れるのかなどを学習し、将来の地域防犯へ の貢献に寄与する知識・能力を学びます。</li> <li>11. 刑事手続きの流れと刑事裁判と民事裁判の相違点 犯罪の発生から裁判判決までの流れと刑事・民事裁判の相違点を学び、日本の裁判制度を 理解するとともに裁判員制度への理解を図ります。</li> <li>12. 災害心理(何故、人は逃げ遅れるのか) 自然災害、人為災害等の種別と災害発生時に人が逃げ遅れる心理を詳細に学び、命を守る 行動がとれるようにします。</li> <li>13. 期末のまとめと理解度確認テスト・解説 授業の理解度を確認するため、授業内で重要と指摘した事件・事案等について論述式及び 空欄補充により理解度を確認します。テスト 後、解説と振り返りを行います。</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法:到達確認試験及び小テスト</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法:グループ討議</p> <p>【2-1】客観的な情報の収集力、分析力。論理的な思考力、的確な判断力及び文書作成能力を有している 成績評価方法:小グループ・ディスカッション及び小論文作成・提出により評価します。</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法:講義時間内において適宜個別指名し、課題等に対する意見・見解発表を通じて評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 授業で使用する関連資料については、授業の都度、印刷物を配付します。 著者名:西岡</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 参考文献等については、使用しないものとします。</p>	

授業科目名 (副題)	ビジネス英語コミュニケーション I		
担当者	杉田 米行		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]            国際的な企業で、ビジネスが実際にどのような流れで行われるのかを把握し、状況に応じた英語でのコミュニケーションの基礎を学びます。職場での自己紹介や自己アピール、電話の受け答えなどの表現法について学びます。ビジネスの場面を想定して実践的な英語を学ぶだけでなく、ビジネスに役に立つ丁寧な文書を作成します。</p> <p>[ 到達目標 ]            ①ビジネスに必要な基礎的な語彙や表現を英語で使うことができるようになる。            ②様々なビジネスの状況に応じた基礎的な英語でのコミュニケーションができるようになる。            ③ビジネスに必要なビジネスレターなどの文書を英語で作成できるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]            基礎的な英語でのビジネスコミュニケーション力を習得するために、必ず予習をして授業に出席してください。ビジネスの基礎的実践に必要な語彙や表現を身に付けるために、授業で学んだ内容を復習してください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]            授業への参加度・授業態度(60%)、理解度確認テスト#1(20%)、理解度確認テスト#2(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]            ・課題及びコミュニケーション力は授業で確認します。            ・理解度確認テストは回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]            英語を必要とする職場で使えるビジネス英語力を着実に身に付けるために、習った表現は母語と同様に使えるように繰り返し復習をしてください。</p>			

授業科目名 (副題)	ビジネス英語コミュニケーション I
担当者	杉田 米行
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to this class (Welcomeテスト、授業の進め方、予習・復習の仕方、成績評価方法、自己紹介等)</li> <li>2. P. English Intermediate I Lesson 1 "The Benefits of Time Management" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; 杉田英語データベースBusiness応用#1; 受講生との個別面談#1</li> <li>3. 前回の復習; P. English Intermediate I Lesson 2 "THE PRESIDENT'S PLAN" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; 杉田英語データベースBusiness応用#2; 受講生との個別面談#2</li> <li>4. 前回の復習; P. English Intermediate I Lesson 3 "Reading to Comprehend Familiar Content" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; 杉田英語データベースBusiness応用#3; 受講生との個別面談#3</li> <li>5. 前回の復習; P. English Intermediate I Lesson 4 "BLACK POLITICAL ACHIEVEMENTS" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; 杉田英語データベースBusiness応用#4; 受講生との個別面談#4</li> <li>6. 前回の復習; P. English Intermediate I Lesson 5 "Reading Primary and Secondary Sources" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; 杉田英語データベースBusiness応用#5; 受講生との個別面談#5</li> <li>7. 前回の復習; P. English Intermediate I Lesson 6 "AMERICANIZATION" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; 杉田英語データベースBusiness応用#6; 受講生との個別面談#6</li> <li>8. 前回の復習; P. English Intermediate I Lesson 7 "Foundations of Memory" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; 杉田英語データベースBusiness応用#7; 受講生との個別面談#7</li> <li>9. 前回の復習; P. English Intermediate I Lesson 8 "The Decline of Labor: The Homestead and Pullman Strikes" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; 杉田英語データベースBusiness応用#8; 受講生との個別面談#8</li> <li>10. 前回の復習; P. English Intermediate I Lesson 9 "Preparing to Study" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; 杉田英語データベースBusiness応用#9; 受講生との個別面談#9</li> <li>11. 前回の復習; P. English Intermediate I Lesson 10 "Education and the Middle Class" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; 理解確認テスト#1</li> <li>12. 前回の復習; P. English Intermediate I Lesson 11 "Understanding Test Anxiety" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; 理解確認テスト#2</li> <li>13. 前回の復習; P. English Intermediate I Lesson 12 "EXPERTISE AND EFFICIENCY" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; まとめ</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 授業内課題と解確認テストで評価。</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法: 授業内課題と解確認テストで評価。</p> <p>[ テキスト (ISBN) ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 『P. English』電子本 (大学教育出版、2022) <a href="https://www.kyoiku.co.jp/">https://www.kyoiku.co.jp/</a></li> <li>* 杉田英語データベースBusinessはワード・PDF等で随時配布</li> </ul> <p>著者名: P. English作成チーム 出版社: 大学教育出版 (未定)</p> <p>[ 参考文献 (ISBN) ] なし</p>	

授業科目名 (副題)	ビジネス英語コミュニケーションⅡ		
担当者	杉田 米行		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]            国際的な企業で、ビジネスが実際にどのような流れで行われるのかを把握し、状況に応じた英語でのコミュニケーションの基礎を学びます。職場での自己紹介や自己アピール、電話の受け答えなどの表現法について学びます。ビジネスの場面を想定して実践的な英語を学ぶだけでなく、ビジネスに役に立つ丁寧な文書を作成します。</p> <p>[ 到達目標 ]            ①ビジネスに必要な語彙や表現を英語で使うことができるようになる。            ②様々なビジネスの状況に対応するための英語のコミュニケーションができるようになる。            ③ビジネスに必要なビジネスレター、注文書、詫状などの文書を英語で作成できるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]            英語でのビジネスコミュニケーション応用力を習得するために、必ず予習をして授業に出席してください。高度なビジネスに必要な語彙や表現を身に付けるために、授業で学んだ内容を復習してください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]            授業への参加度・授業態度(60%)、理解度確認テスト#1(20%)、理解度確認テスト#2(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]            理解度確認テストは回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]            英語を必要とする職場で使えるビジネス英語力を着実に身に付けるために、習った表現は母語と同様にコミュニケーションができるよう復習して下さい。</p>			

授業科目名 (副題)	ビジネス英語コミュニケーションⅡ
担当者	杉田 米行
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to this class (Welcomeテスト、授業の進め方、予習・復習の仕方、成績評価方法、自己紹介等)</li> <li>2. P. English Intermediate II Lesson 1 "Context of Communication" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; 杉田英語データベースBusiness応用#11; 受講生との個別面談#1</li> <li>3. 前回の復習; P. English Intermediate II Lesson 2 "THE 1912 PRESIDENTIAL ELECTION" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; 杉田英語データベースBusiness応用#12; 受講生との個別面談#2</li> <li>4. 前回の復習; P. English Intermediate II Lesson 3 "How Do You Control Your Online Communication Strategies?" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; 杉田英語データベースBusiness応用#13; 受講生との個別面談#3</li> <li>5. 前回の復習; P. English Intermediate II Lesson 4 "WAR: BRIEF AND DECISIVE" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; 杉田英語データベースBusiness応用#14; 受講生との個別面談#4</li> <li>6. 前回の復習; P. English Intermediate II Lesson 5 "Listening Is a Communication Action" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; 杉田英語データベースBusiness応用#15; 受講生との個別面談#5</li> <li>7. 前回の復習; P. English Intermediate II Lesson 6 "WAR ERUPTS IN EUROPE" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; 杉田英語データベースBusiness応用#16; 受講生との個別面談#6</li> <li>8. 前回の復習; P. English Intermediate II Lesson 7 "The Role of Equity and Inclusion" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; 杉田英語データベースBusiness応用#17; 受講生との個別面談#7</li> <li>9. 前回の復習; P. English Intermediate II Lesson 8 "Ratification of the Treaty of Versailles" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; 杉田英語データベースBusiness応用#18; 受講生との個別面談#8</li> <li>10. 前回の復習; P. English Intermediate II Lesson 9 "THE POWER OF RADIO AND THE WORLD OF SPORTS" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; 杉田英語データベースBusiness応用#19; 受講生との個別面談#9</li> <li>11. 前回の復習; P. English Intermediate II Lesson 10 "Be Mindful of Microaggressions" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; 理解確認テスト#1</li> <li>12. 前回の復習; P. English Intermediate II Lesson 11 "THE HARLEM RENAISSANCE AND THE NEW NEGRO" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; 理解確認テスト#2</li> <li>13. 前回の復習; P. English Intermediate II Lesson 12 "Title IX and Higher Education" (リーディング、リスニング、文法・語彙) &amp; まとめ</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 授業内課題と解確認テストで評価。</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法: 授業内課題と解確認テストで評価。</p> <p>[ テキスト (ISBN) ]</p> <p>* 『Power English』電子本 (大学教育出版、2022) <a href="https://www.kyoiku.co.jp/">https://www.kyoiku.co.jp/</a></p> <p>* 杉田英語データベースはワード・PDF等で随時配布 著者名: Power English作成チーム 出版社: 大学教育出版 (未定)</p> <p>[ 参考文献 (ISBN) ]</p> <p>英語ニュースメディア</p>	



授業科目名 (副題)	ビジネスコミュニケーション		
担当者	福井 愛美		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	放送局などマスコミでのインタビューやレポーター、MCなどの幅広い実務経験を活かして、自己表現やビジネス社会のコミュニケーションについて指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          商談や会議などビジネス上の表現力をシミュレーション授業で習得します。また、図表や企画書など資料を作成し、ビジネス場面を想定したロールプレイングを行います。</p> <p>[ 到達目標 ]          ① TPOに合わせたコミュニケーションが取れるようになる。          ② 意見交換や会議での意見集約ができるようになる。          ③ アサーティブな態度で意見を主張することができる。          ④ 効果的な資料作成ができるようになる。          ⑤ 企画・提案のプレゼンテーションができるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          プレゼンテーションの資料作成は、各自が自主的に進めなければ完成できませんので、授業の合間に自主学習として作成してください。          各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          プレゼンテーション(30%)、積極的な授業態度(30%)、課題の提出物(40%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          提出物は後日添削をして返却します。          プレゼンテーション発表は、発表後その都度、講評します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          就職活動等で欠席した日の授業内容や提出物の有無等は、各自が同じ授業を履修している学生とコミュニケーションをとって尋ねておくことが大切です。特に後半はグループで活動をする事も多くなりますので、情報共有をしてチームで抜けたところを埋める努力をしてください。このことは、ビジネスにおいても重要なことです。          「秘書士」「プレゼンテーション実務士」資格の選択科目です。</p>			

授業科目名 (副題)	ビジネスコミュニケーション
担当者	福井 愛美
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネスコミュニケーションの目的と重要性</li> <li>2. ビジネスコミュニケーションの基本要素</li> <li>3. コミュニケーショントレーニング…意思疎通、協調性、意見集約のしかた</li> <li>4. コミュニケーショントレーニング…情報伝達と意見の主張</li> <li>5. コミュニケーショントレーニング…提示資料の機能と種類</li> <li>6. 図表を用いた表現…写真、イラスト、グラフの活用</li> <li>7. 図表を用いた表現…文章をビジュアル化する</li> <li>8. 主体的に働く…ビジネス場面を想定したロールプレイング、電話対応</li> <li>9. 主体的に働く…ビジネス場面を想定したロールプレイング、企画・提案をする</li> <li>10. 主体的に働く…企画書の作成と視覚資料・配布資料の準備</li> <li>11. ビジネスプレゼンテーション…視覚資料を見せながら発表する</li> <li>12. 話し方の実践…ディベートに学ぶ</li> <li>13. 話し方の実践…ディベートの準備と実践</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法: 提出物とプレゼンテーションで評価します。</p> <p>【3-3】多様なものの見方や考え方を尊重する姿勢を有している。□ 成績評価方法: 積極的な授業態度と課題の提出物で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] プリントを配布します。</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 『即戦力になる!! ビジネスコミュニケーション 第2版』 著者名: 箱田忠昭著 出版社: 日経BP社 (978-4-8222-9203-4) 『即戦力になる ビジネス実務とPC活用 社会人基礎編』 著者名: 池内健治 齋藤勇二 出版社: 日経BP社 (978-4-8222-9204-1)</p>	

授業科目名 (副題)	秘書実務 I		
担当者	福井 愛美		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	放送局などマスコミやイベント関係など実社会での実務経験を活かして、秘書実務の基礎を指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]            基本的なビジネス実務能力の中でも一般化されているオフィスワークの基本を習得します。社会の諸組織で働くときに必要とされる協働のための資質を育成します。文書の取り扱い、通信の知識、社内外文書の作成、来客対応や電話対応、会議の知識や時間管理、出張業務、さらにビジネス上の言葉づかいや指示の受け方・報告の仕方など、職場での実務を習得します。秘書実務Ⅱですぐに実践できるようにしていきます。</p> <p>[ 到達目標 ]            ① 組織で働く時の基本的な姿勢を身に付けることができる。            ② オフィスワークの基本業務を身に付けることができる。            ③ 職場でのコミュニケーション能力の基本を身に付けることができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]            毎回授業内容が異なりますので、必ずテキストの予習・復習をしてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]            理解度確認テスト(90%)、提出物(10%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]            提出物は後日添削をして返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]            「秘書士」資格の必修授業です。「秘書実務Ⅱ」も必ず同じ日に続けて履修してください。演習教室のパソコンの台数により、第一希望の曜日に履修できないこともあります。やむを得ず休む場合には、各自で休んだ日の補習をしてください。教科書はⅠとⅡと同じものを使用します。</p>			

授業科目名 (副題)	秘書実務 I
担当者	福井 愛美
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 秘書業務の基本 <ul style="list-style-type: none"> <li>・秘書の役割と仕事、ビジネス環境の変化と秘書ビジネス実務、秘書に求められる能力</li> </ul> </li> <li>2. 言葉づかいと敬語 <ul style="list-style-type: none"> <li>・敬語の5分類、職場のルールとコミュニケーション</li> </ul> </li> <li>3. 指示と報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事を効率的に進めるコミュニケーション、ポイントを絞って話す</li> </ul> </li> <li>4. 社内文書 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス文書の基本、社内文書の基本、文書作成業務</li> </ul> </li> <li>5. 社外文書 <ul style="list-style-type: none"> <li>・社内文書との違い、社外文書で用いる表現、さまざまな社外文書、発送状の読み合わせ</li> </ul> </li> <li>6. 文書管理・図表の作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・文書の流れと管理、グラフの作成について</li> </ul> </li> <li>7. ビジネスの慶弔 <ul style="list-style-type: none"> <li>・慶弔事における秘書業務、贈答のコーディネート</li> </ul> </li> <li>8. 会議の運営 <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の知識、会議における秘書業務、会議議事録について</li> </ul> </li> <li>9. 来客の応対 <ul style="list-style-type: none"> <li>・応対業務の流れ、受付・案内業務のルール</li> </ul> </li> <li>10. 電話の応対 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス電話の受け方、取り次ぎ方、かけ方の基本</li> </ul> </li> <li>11. スケジュールリング <ul style="list-style-type: none"> <li>・スケジュールリングの基本と留意点、アポイントメントの取り方・受け方</li> </ul> </li> <li>12. 出張業務とファイリング <ul style="list-style-type: none"> <li>・出張コーディネートの流れ、出張計画と手配業務、ファイリング</li> </ul> </li> <li>13. 新しい時代の秘書ビジネス実務 <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本業務の確認、これからの秘書に求められる実務能力</li> </ul> </li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 理解度確認テストで評価します。</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 理解度確認テストで評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『新しい時代の秘書ビジネス実務』 著者名: 池内健治他著 出版社: 紀伊國屋書店 (ISBN978-4-314-10182-0 C3000)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>各種秘書技能検定試験2級教本類 著者名: × 出版社: × (×)</p>	

授業科目名 (副題)	秘書実務 I		
担当者	福井 愛美		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	放送局などマスコミやイベント関係など実社会での実務経験を活かして、秘書実務の基礎を指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>基本的なビジネス実務能力の中でも一般化されているオフィスワークの基本を習得します。社会の諸組織で働くときに必要とされる協働のための資質を育成します。文書の取り扱い、通信の知識、社内外文書の作成、来客対応や電話対応、会議の知識や時間管理、出張業務、さらにビジネス上の言葉づかいや指示の受け方・報告の仕方など、職場での実務を習得します。秘書実務Ⅱですぐに実践できるようにしていきます。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>① 組織で働く時の基本的な姿勢を身に付けることができる。          ② オフィスワークの基本業務を身に付けることができる。          ③ 職場でのコミュニケーション能力の基本を身に付けることができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>毎回授業内容が異なりますので、必ずテキストの予習・復習をしてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>理解度確認テスト(90%)、提出物(10%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>提出物は後日添削をして返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>「秘書士」資格の必修授業です。「秘書実務Ⅱ」も必ず同じ日に続けて履修してください。演習教室のパソコンの台数により、第一希望の曜日に履修できないこともあります。やむを得ず休む場合には、各自で休んだ日の補習をしてください。教科書はⅠとⅡと同じものを使用します。</p>			

授業科目名 (副題)	秘書実務 I
担当者	福井 愛美
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 秘書業務の基本 <ul style="list-style-type: none"> <li>・秘書の役割と仕事、ビジネス環境の変化と秘書ビジネス実務、秘書に求められる能力</li> </ul> </li> <li>2. 言葉づかいと敬語 <ul style="list-style-type: none"> <li>・敬語の5分類、職場のルールとコミュニケーション</li> </ul> </li> <li>3. 指示と報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事を効率的に進めるコミュニケーション、ポイントを絞って話す</li> </ul> </li> <li>4. 社内文書 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス文書の基本、社内文書の基本、文書作成業務</li> </ul> </li> <li>5. 社外文書 <ul style="list-style-type: none"> <li>・社内文書との違い、社外文書で用いる表現、さまざまな社外文書、発送状の読み合わせ</li> </ul> </li> <li>6. 文書管理・図表の作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・文書の流れと管理、グラフの作成について</li> </ul> </li> <li>7. ビジネスの慶弔 <ul style="list-style-type: none"> <li>・慶弔事における秘書業務、贈答のコーディネート</li> </ul> </li> <li>8. 会議の運営 <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の知識、会議における秘書業務、会議議事録について</li> </ul> </li> <li>9. 来客の応対 <ul style="list-style-type: none"> <li>・応対業務の流れ、受付・案内業務のルール</li> </ul> </li> <li>10. 電話の応対 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス電話の受け方、取り次ぎ方、かけ方の基本</li> </ul> </li> <li>11. スケジュールリング <ul style="list-style-type: none"> <li>・スケジュールリングの基本と留意点、アポイントメントの取り方・受け方</li> </ul> </li> <li>12. 出張業務とファイリング <ul style="list-style-type: none"> <li>・出張コーディネートの流れ、出張計画と手配業務、ファイリング</li> </ul> </li> <li>13. 新しい時代の秘書ビジネス実務 <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本業務の確認、これからの秘書に求められる実務能力</li> </ul> </li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 理解度確認テストで評価します。</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 理解度確認テストで評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『新しい時代の秘書ビジネス実務』 著者名: 池内健治他著 出版社: 紀伊國屋書店 (ISBN978-4-314-10182-0 C3000)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>各種秘書技能検定試験2級教本類 著者名: × 出版社: × (×)</p>	

授業科目名 (副題)	秘書実務Ⅱ		
担当者	福井 愛美		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	放送局などマスコミやイベント関係など実社会での実務経験を活かして、秘書実務やビジネス関連の内容について指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  「秘書実務Ⅰ」の授業のすぐ後に続く「秘書実務Ⅱ」では、声に出して実際にやってみることにより言葉や表現形式を体得し、職場でのコミュニケーション能力を身に付けます。また、文書実務においては実際に各種文章をパソコンで作成してみることで実務能力を身に付けます。また、来客の対応、電話の対応などの対応業務でも、実際にロールプレイングを行い即戦力を身に付けます。さらに、適宜協働を体験するグループワークも実施します。</p> <p>[ 到達目標 ]  ① 直前の「秘書実務Ⅰ」で学んだ内容をすぐに実行できる。  ② 職場でのコミュニケーション力を身に付けることができる。  ③ 基本的な社内・社外文書をパソコンで作成できる。  ④ ビジネスの慶弔業務、出張業務を身に付けることができる。  ⑤ 来客の対応、電話の対応を身に付けることができる。  ⑥ 社会人としてのマナーを身に付けることができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  秘書実務Ⅱでは、ほとんど毎回提出物があります。授業で指導を受け自主的な点検作業を実施し、必ず完成物を提出してください。また、ロールプレイングの授業でも、必ず振り返りをしてください。  各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  授業での提出物(90%)、取り組む姿勢(10%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  提出物は後日添削をして返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  「秘書士」資格の必修授業です。「秘書実務Ⅰ」も必ず同じ日に履修してください。  教室のパソコンの台数によって、第一希望の曜日に履修できない場合もあります。  教科書は「秘書実務Ⅰ」と同じものを使用します。</p>			

授業科目名 (副題)	秘書実務Ⅱ
担当者	福井 愛美
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オフィスワーカーとしての心構え <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイングによる言葉づかいの練習、「オフィスワーカーの1日(VTR)」による問題演習</li> </ul> </li> <li>2. 敬意表現の用い方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・受付での言葉づかい、伝言を正確に伝える(ロールプレイング)</li> </ul> </li> <li>3. 指示と報告のロールプレイング <ul style="list-style-type: none"> <li>・秘書検定準1級2次試験の「報告」実習</li> </ul> </li> <li>4. 社内文書の作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・社内会議案内状の作成</li> </ul> </li> <li>5. 社外文書・挨拶状の作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・商用文の作成、得意先への案内状作成、母校にはがきを書く</li> </ul> </li> <li>6. 会議資料(図表)の作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットで収集したデータで会議資料を作成する</li> <li>・次回会議の案内状作成</li> </ul> </li> <li>7. 慶弔業務実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・金封上書きの実習、慶弔業務の実際</li> </ul> </li> <li>8. シミュレーション会議 <ul style="list-style-type: none"> <li>・シミュレーション会議実施、決定事項の発表、議事録の作成</li> </ul> </li> <li>9. 来客の対応ロールプレイング <ul style="list-style-type: none"> <li>・受付と案内業務のロールプレイング、茶菓の接待</li> </ul> </li> <li>10. 電話の対応ロールプレイング <ul style="list-style-type: none"> <li>・電話対応の実際、名指し人不在時の伝言の受け方、伝え方(5W1H)</li> </ul> </li> <li>11. スケジュール表の作成と調整 <ul style="list-style-type: none"> <li>・週間スケジュール表の作成、口頭によるスケジュール指示</li> </ul> </li> <li>12. 出張計画の作成・精算業務とファイリングの実際 <ul style="list-style-type: none"> <li>・上司の出張計画、出張旅費の精算、ファイリング作業(グループワーク)</li> </ul> </li> <li>13. これからの秘書に求められる実務 <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロフェッショナルな自己成長</li> </ul> </li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。□ 成績評価方法:各回の提出物で評価します。・</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法:・各回の提出物で評価します。</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法:・各回の提出物で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『新しい時代の秘書ビジネス実務』 著者名:池内健治他著 出版社:紀伊國屋書店 (ISBN978-314-10182-0 C3000)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>各種秘書技能検定試験2級教本類 著者名:× 出版社:× (×)</p>	



授業科目名 (副題)	秘書実務Ⅱ		
担当者	福井 愛美		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	放送局などマスコミやイベント関係など実社会での実務経験を活かして、ビジネス関連の内容について指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  「秘書実務Ⅰ」の授業のすぐ後に続く「秘書実務Ⅱ」では、声に出して実際にやってみることにより言葉や表現形式を体得し、職場でのコミュニケーション能力を身に付けます。また、文書実務においては実際に各種文章をパソコンで作成してみることで実務能力を身に付けます。また、来客の対応、電話の対応などの対応業務でも、実際にロールプレイングを行い即戦力を身に付けます。さらに、適宜協働を体験するグループワークも実施します。</p> <p>[ 到達目標 ]  ① 直前の「秘書実務Ⅰ」で学んだ内容をすぐに実行できる。  ② 職場でのコミュニケーション力を身に付けることができる。  ③ 基本的な社内・社外文書をパソコンで作成できる。  ④ ビジネスの慶弔業務、出張業務を身に付けることができる。  ⑤ 来客の対応、電話の対応を身に付けることができる。  ⑥ 社会人としてのマナーを身に付けることができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  秘書実務Ⅱでは、ほとんど毎回提出物があります。授業で指導を受け自主的な点検作業を実施し、必ず完成物を提出してください。また、ロールプレイングの授業でも、必ず振り返りをしてください。  各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  授業での提出物(90%)、取り組む姿勢(10%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  提出物は後日添削をして返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  「秘書士」資格の必修授業です。「秘書実務Ⅰ」も必ず同じ日に履修してください。  教室のパソコンの台数によって、第一希望の曜日に履修できない場合もあります。  教科書は「秘書実務Ⅰ」と同じものを使用します。</p>			

授業科目名 (副題)	秘書実務Ⅱ
担当者	福井 愛美
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オフィスワーカーとしての心構え <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイングによる言葉づかいの練習、「オフィスワーカーの1日(VTR)」による問題演習</li> </ul> </li> <li>2. 敬意表現の用い方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・受付での言葉づかい、伝言を正確に伝える(ロールプレイング)</li> </ul> </li> <li>3. 指示と報告のロールプレイング <ul style="list-style-type: none"> <li>・秘書検定準1級2次試験の「報告」実習</li> </ul> </li> <li>4. 社内文書の作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・社内会議案内状の作成</li> </ul> </li> <li>5. 社外文書・挨拶状の作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・商用文の作成、得意先への案内状作成、母校にはがきを書く</li> </ul> </li> <li>6. 会議資料(図表)の作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットで収集したデータで会議資料を作成する</li> <li>・次回会議の案内状作成</li> </ul> </li> <li>7. 慶弔業務実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・金封上書きの実習、慶弔業務の実際</li> </ul> </li> <li>8. シミュレーション会議 <ul style="list-style-type: none"> <li>・シミュレーション会議実施、決定事項の発表、議事録の作成</li> </ul> </li> <li>9. 来客の対応ロールプレイング <ul style="list-style-type: none"> <li>・受付と案内業務のロールプレイング、茶菓の接待</li> </ul> </li> <li>10. 電話の対応ロールプレイング <ul style="list-style-type: none"> <li>・電話対応の実際、名指し人不在時の伝言の受け方、伝え方(5W1H)</li> </ul> </li> <li>11. スケジュール表の作成と調整 <ul style="list-style-type: none"> <li>・週間スケジュール表の作成、口頭によるスケジュール指示</li> </ul> </li> <li>12. 出張計画の作成・精算業務とファイリングの実際 <ul style="list-style-type: none"> <li>・上司の出張計画、出張旅費の精算、ファイリング作業(グループワーク)</li> </ul> </li> <li>13. これからの秘書に求められる実務 <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロフェッショナルな自己成長</li> </ul> </li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法:各回の提出物で評価します。・</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法:各回の提出物で評価します。</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法:各回の提出物で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『新しい時代の秘書ビジネス実務』 著者名:池内健治他著 出版社:紀伊國屋書店 (ISBN978-314-10182-0 C3000)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>各種秘書技能検定試験2級教本類 著者名:× 出版社:× (×)</p>	

授業科目名 (副題)	秘書ビジネス論		
担当者	河合 真知		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	金融機関で役員秘書としての実務経験がある者が、その経験を踏まえ、組織の一員として業務を遂行するうえで必要な知識や創意工夫などを講義します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>秘書教育とビジネス実務教育の意味を理解したうえで、働く環境の変化を学び、自らのキャリアプランを考えるきっかけをつかむことから始めます。秘書が上司と社内外のヒューマンネットワークや情報ネットワークのコーディネーターとしての役割を担うことを理解し、基本的な文書業務を身に付けます。現在の企業に関する知識を理解し、入社した新人が組織の一員として機能できるプロセスを学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①新人として働くための心構えと基本的姿勢を身に付けることができる。  ②組織の一員として働く意義を理解できる。  ③文書実務等の基本業務に関する知識を深めることができる。  ④組織コミュニケーションの意味を理解できる。  ⑤ビジネス活動に関する知識を深めることができる。  もって、自己の実現可能なキャリアプランに向かって自ら主体的な取り組みを深める力を高める。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>授業で用いるテキストは、「秘書士」認定機関編集のもので、4年制大学でも用いる内容です。授業前には必ず目を通しておいてください。また、各項目は1回だけの学習のため、忘れないように復習を重ねてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>授業における自立心・対話力(30%)、レポート(20%)、小テスト(50%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>回収したレポートに関して、全体的な講評を行います。  小テストは、回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>「秘書ビジネス論」は「秘書士」資格取得のための必修科目ですが、同資格取得希望者でなくても受講できます。「秘書士」資格取得には、後期「秘書実務Ⅰ・Ⅱ」も必修です。</p>			

授業科目名 (副題)	秘書ビジネス論
担当者	河合 真知
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 秘書教育とキャリアデザイン <ul style="list-style-type: none"> <li>・「秘書」職とは、「組織」とは、働き方の多様化、秘書職の雇用形態</li> </ul> </li> <li>2. 秘書の資質・パーソナリティ <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業人としての心構え、社会性とパーソナリティ</li> </ul> </li> <li>3. 秘書の役割 <ul style="list-style-type: none"> <li>・秘書の機能、秘書職の特徴、「秘書業務入門Ⅰ(映像)」</li> </ul> </li> <li>4. 秘書の業務Ⅰ <ul style="list-style-type: none"> <li>・人的ネットワーク業務、「指示の受け方(映像)」</li> </ul> </li> <li>5. 秘書の業務Ⅱ <ul style="list-style-type: none"> <li>・人的マネジメント、職場の人間関係、「報告の仕方(映像)」</li> </ul> </li> <li>6. 情報ネットワークと秘書 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度情報社会と秘書、情報ネットワークと秘書業務</li> </ul> </li> <li>7. 秘書の文書業務Ⅰ <ul style="list-style-type: none"> <li>・社内文書の基本、機密文書の取り扱い</li> </ul> </li> <li>8. 秘書の文書業務Ⅱ <ul style="list-style-type: none"> <li>・社外文書の基本、文書の基礎用語、往復はがきの返信</li> </ul> </li> <li>9. 秘書とプレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> <li>・敬語・敬意表現、応対業務における表現、マナー・接遇</li> </ul> </li> <li>10. 総務・庶務的業務 <ul style="list-style-type: none"> <li>・印鑑の管理、ビジネスにおける慶弔業務、稟議書と決裁、危機管理、出張業務、会議・会合</li> </ul> </li> <li>11. 秘書とマーケティング、マネジメント <ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティングとは、マーケティング用語の解説、・マネジメントサイクル、マネジメント用語の解説、会計用語の解説「秘書業務入門Ⅱ(映像)」</li> </ul> </li> <li>12. ビジネスの一般知識Ⅰ <ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社の基礎知識、労働に関する法律、著作権に関する知識と用語</li> </ul> </li> <li>13. キャリアデザインと秘書 <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからのビジネス社会と秘書</li> </ul> </li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって主体的に学修を深め、資格取得に資する力を有している。 成績評価方法:レポート及び小テストで評価します。</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法:授業内グループワーク参加姿勢及びレポートで評価します。</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法:小テスト及び授業参加姿勢で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『新しい時代の秘書ビジネス論』 著者名:全国大学実務教育協会編 出版社:紀伊国屋書店 (4-314-10159-8)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>『オフィス・スタディーズ』 著者名:全国大学実務教育協会ビデオシリーズ 出版社:全国大学実務教育協会編</p>	

授業科目名 (副題)	被服学		
担当者	古田 貴美子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>被服と衣服は同じように着るものを表すことばと思われていますが、被服とは人間が身に着けるものすべて(帽子から靴下、靴まで小物も含む)をいい、衣服は被服のうち特に体幹部をおおうものをいいます。被服には生理的な機能、心理的な機能、社会的な機能があり、私たちは状況に応じて身に着ける被服を選びます。美しく装うためには形や素材に関する知識、快適で美しい状態を保つためには着方や洗濯・保管についての知識が必要です。被服学の分野全般、被服の構成・材料・管理などの基本的な内容について講義します。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①被服に関する知識を身に付け、生活に役立てることができる。 ②状況に応じて美しく快適な服装ができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>衣服や繊維製品に関する、新聞・雑誌の記事に興味を持ち、自分の意見や感想をまとめるようにしてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>課題(30%)、小テスト(20%)、理解度確認テスト(50%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト後直ちにまたは返却時に解説します。</li> <li>・課題レポートは後日添削して返却します。</li> </ul> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>身の回りの被服に関する情報はたくさんありますが、新聞や雑誌、美術展なども積極的に見てほしいと思います。</p>			

授業科目名 (副題)	被服学
担当者	古田 貴美子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 衣服の機能</li> <li>2. 衣服の構成(平面構成・立体構成)</li> <li>3. 衣服の構成(体型・JISサイズ)</li> <li>4. 服装の歴史(日本)</li> <li>5. 服装の歴史(世界)</li> <li>6. 衣服の素材(布と糸)</li> <li>7. 衣服の素材(繊維の特徴)</li> <li>8. 衣服の着心地に関する性能</li> <li>9. 被服の管理(洗たくの方法と洗剤)</li> <li>10. 被服の管理(家庭洗たくと手入れ)</li> <li>11. アパレル産業の生産と流通</li> <li>12. ファッションイメージマップの作成、形態観察</li> <li>13. 被服に関する問題点、理解度確認テスト</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法:小テスト、理解度確認テスト</p> <p>【2-2】 【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法:課題、理解度確認テスト</p> <p>【2-4】持続可能な社会のために、未来を切り開く創造力を有している。 成績評価方法:課題</p> <p>【3-3】多様なものの見方や考え方を尊重する姿勢を有している。 成績評価方法:課題</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『衣生活の科学－衣生活論－』 著者名:大野静枝・石井照子編著 出版社:建帛社 (978-4-7679-1045-1)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>『シリーズ(生活科学)衣生活学』 著者名:佐々井啓編著 出版社:朝倉書店 (4-254-60597-8)</p> <p>『新版 衣生活論』 著者名:山口庸子・生野晴美編著 出版社:アイ・ケイ コーポレーション (978-4-87492-4)</p>	

授業科目名 (副題)	被服構成基礎実習		
担当者	古田 貴美子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          被服構成に関する知識と技術の習得を目的としています。          前半は主にミシン縫いの練習として、4枚はぎのスカートを製作します。後半はブラウスを製作し、基礎的な技法を理解します。</p> <p>[ 到達目標 ]          ①スカートやブラウスの構成を理解し、型紙作成ができる。          ②基本的な洋裁道具を使うことができる。          ③速く正確にミシン縫いができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          製作の順序を確認し、実習を直ちに始められるよう準備を整えてください。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          作品(80%)、実習記録(10%)、小テスト(10%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          作品に対する講評を返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          布地などの材料費は自己負担です。          初回に、必要な洋裁用具、材料についての説明を行います。</p>			

授業科目名 (副題)	被服構成基礎実習
担当者	古田 貴美子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、布の選び方、採寸、原型製図 (スカート製作)</li> <li>2. 型紙作成、裁断の方法、道具の使い方</li> <li>3. 裁断、しるしつけ</li> <li>4. 本縫い①スカートはぎ合わせ縫い</li> <li>5. 本縫い②ベルトつけ、すそ縫い (ブラウス製作)</li> <li>6. 型紙作成</li> <li>7. 裁断、しるしつけ</li> <li>8. 本縫い①身頃ダーツ縫い、見返し始末</li> <li>9. 本縫い②肩縫い、衿作り</li> <li>10. 本縫い③衿つけ</li> <li>11. 本縫い④わき縫い、すそ縫い、袖作り</li> <li>12. 本縫い⑤袖つけ</li> <li>13. 本縫い⑥ボタンホール、ボタンつけ、仕上げ</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 作品、小テスト</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 作品、実習記録</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法: 作品、実習記録</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 必要に応じてプリントを配布する</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 『文化学園大学 ファッション造形学講座③ 春夏アイテム I ブラウス/スカート』 著者名: 服装造形学科編 出版社: 文化出版局</p>	



授業科目名 (副題)	被服構成基礎実習		
担当者	古田 貴美子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  被服構成に関する知識と技術の習得を目的としています。  前半は主にミシン縫いの練習として、4枚はぎのスカートを製作します。後半はブラウスを製作し、基礎的な技法を理解します。</p> <p>[ 到達目標 ]  ①スカートやブラウスの構成を理解し、型紙作成ができる。  ②基本的な洋裁道具を使うことができる。  ③速く正確にミシン縫いができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  製作の順序を確認し、実習を直ちに始められるよう準備を整えてください。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  作品(80%)、実習記録(10%)、小テスト(10%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  作品に対する講評を返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  布地などの材料費は自己負担です。  初回に、必要な洋裁用具、材料についての説明を行います。</p>			

授業科目名 (副題)	被服構成基礎実習
担当者	古田 貴美子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、布の選び方、採寸、原型製図 (スカート製作)</li> <li>2. 型紙作成、裁断の方法、道具の使い方</li> <li>3. 裁断、しるしつけ</li> <li>4. 本縫い①スカートはぎ合わせ縫い</li> <li>5. 本縫い②ベルトつけ、すそ縫い (ブラウス製作)</li> <li>6. 型紙作成</li> <li>7. 裁断、しるしつけ</li> <li>8. 本縫い①身頃ダーツ縫い、見返し始末</li> <li>9. 本縫い②肩縫い、衿作り</li> <li>10. 本縫い③衿つけ</li> <li>11. 本縫い④わき縫い、すそ縫い、袖作り</li> <li>12. 本縫い⑤袖つけ</li> <li>13. 本縫い⑥ボタンホール、ボタンつけ、仕上げ</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 作品、小テスト</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 作品、実習記録</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法: 作品、実習記録</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 必要に応じてプリントを配布する</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 『文化学園大学 ファッション造形学講座③ 春夏アイテム I ブラウス/スカート』 著者名: 服装造形学科編 出版社: 文化出版局 (不明)</p>	

授業科目名 (副題)	被服構成実習(和裁)		
担当者	古田 貴美子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          平面構成の衣服の代表的なものに日本の伝統的な着物があります。大裁女物ひとえ長着(ゆかた)の製作を通して、平面構成の形態と特徴を理解し、縫製に関する基礎的な知識と技法を習得します。すべて手縫いで縫い上げます。</p> <p>[ 到達目標 ]          ①平面構成の衣服である着物の特徴を理解することができる。          ②ゆかたの部位に適した縫い方を理解することができる。          ③手縫いでゆかたを縫うことができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          教科書を読んで、縫い方順序を確認しておいてください。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          作品(80%)、実習記録(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          作品に対する講評を返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          初回に必要な用具、材料についての説明を行います。ゆかた地、糸は各自準備します。欠席すると作業が遅れるので、十分注意して下さい。</p>			

授業科目名 (副題)	被服構成実習(和裁)
担当者	古田 貴美子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 着物の構成 採寸、布の見積もり、基礎縫い・運針</li> <li>2. 柄合わせ、裁断</li> <li>3. 袖しるしつけ、袖下中縫い、くけ縫いの練習</li> <li>4. 袖下・袖口下縫い、袖口くけ</li> <li>5. 身頃しるしつけ、背縫い、</li> <li>6. 肩当て作り・つけ、居敷当て作り・つけ</li> <li>7. わき縫い・始末</li> <li>8. 衽しるしつけ、衽下ぐけ</li> <li>9. 衽つけ・始末</li> <li>10. 裾ぐけ</li> <li>11. 衿しるしつけ、衿つけ</li> <li>12. 衿つけ、かけ衿つけ</li> <li>13. 袖つけ・始末、門止め、仕上げ</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 作品</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 作品、実習記録</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法: 作品、実習記録</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 適宜プリントを配布する</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 大塚末子の新・ふだん着 著者名:大塚末子 出版社:文化出版局 (4-579-10412-9) 図でわかる基礎きもの 著者名:呑山委佐子 阿部栄子 金谷喜子 木野内清子 出版社:おうふう (978-4-273-03501-3)</p>	

授業科目名 (副題)	被服材料学		
担当者	古田 貴美子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	図書館活用		
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>被服材料に求められる性能はさまざまです。人体を美しく包み動きを妨げないこと、着心地がよいこと、丈夫で取り扱いやすいことは、最低限必要な性能ですが、季節や用途によって異なる外環境や衣服内の体温調節、放熱産熱を助けることも要求されます。実際にはこれらすべてを満たす単独の繊維素材はないので、目的に合ったものを選択することが重要です。また外観や質感、色合いの多様さが繊維素材の魅力であり、異なる素材の組み合わせも生活を豊かにしてくれます。理解が深まるように、実物や写真を見ながら解説します。</p> <p>持続可能な社会に向けて消費者としてできることを考えることが目的の一つです。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①繊維の種類と特徴、糸や布の構造と性質を理解することができる。          ②被服に要求される性能を考えて、目的に合った被服材料を選択することができる。          ③アパレル商品の選択に関して、素材と縫製の知識を役立てることができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>繊維素材に触れる、取り扱い方法を見るなど、授業で得た知識の確認を行ってください。          各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>レポート(40%)、小テスト(10%)、理解度確認テスト(50%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>レポートの講評および、理解度確認テスト、小テストの解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>繊維やアパレル業界に関する記事などを読み、小売店の現状にも注目することを望みます。</p>			

授業科目名 (副題)	被服材料学
担当者	古田 貴美子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ファッションと被服材料</li> <li>2. 布の種類、織物組織と編物組織</li> <li>3. 被服に必要な被服材料の性能             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 着心地に関する性能</li> </ol> </li> <li>4. 被服に必要な被服材料の性能             <ol style="list-style-type: none"> <li>(2) 外観と耐久性に関する性能</li> </ol> </li> <li>5. 繊維の特徴(天然繊維・再生繊維)</li> <li>6. 繊維の特徴(半合成繊維・合成繊維)</li> <li>7. 繊維と糸、糸の構造</li> <li>8. 布の風合いと仕上げ加工</li> <li>9. 布の造形性</li> <li>10. 裏地と芯地</li> <li>11. アパレル製品の生産と流通</li> <li>12. ファッションと持続可能な生活</li> <li>13. 繊維素材に関する知識の確認</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 小テスト、理解度確認テスト</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法: レポート、理解度確認テスト</p> <p>【2-4】持続可能な社会のために、未来を切り開く創造力を有している。 成績評価方法: レポート</p> <p>【3-3】多様なものの見方や考え方を尊重する姿勢を有している。 成績評価方法: レポート</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『繊維材料にフォーカスした 生活材料学 新版』 著者名: 榎本雅穂/古濱裕樹編著 出版社: アイ・ケイ コーポレーション (978-4-87492-351-1)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>『ファッションのための繊維素材辞典』 著者名: 一見輝彦著 出版社: ファッション教育社 (978-4-7952-4174-9)</p> <p>『やさしい繊維の基礎知識』 著者名: 繊維学会編 出版社: 日刊工業新聞社 (4-526-05289-2)</p>	

授業科目名 (副題)	ビューティ心理学		
担当者	遠藤 瑞穂		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	長期美容業界教育経験、米国NLP認定トレーナー・日本マナー協会マナー及びコーチング講師・特級メイクセラピスト・JAAアロマ認定インストラクター・認定カラータイプコンサルタント・CTA認定インストラクター・LABプロファイルプラクティショナ・キャリアコンサルタント(国家資格)の資格を有する講師が美と心理のあらゆる分野について指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          ビューティ/美・美しさ=化粧、ファッションに注目されやすいが何故その化粧、髪型、ファッションなどをしているのか個人や他者の心理を学びます。又、美しい、上品、綺麗など表現される日常生活のしぐさなどの心理を学ぶことで個人をどのようにアピールし、コミュニケーションに役立てていくのかを学びます。          視覚、聴覚、臭覚、味覚、触覚など脳と五感の関係、感情の変化、記憶のしくみなど深層心理を追求し、日常のなにげないしぐさ・動作・言葉遣いなどを学ぶことで個人の心の変化を体感し、メイク、ファッション、日常生活でかかせない美しい立居ふるまいなど幅広い豊かな創造性、社会人として美しい一般的マナーを身に付けることを目的とします。</p> <p>[ 到達目標 ]          ①人間の美しさの深層心理を理解することで、個人と他者の美に対する違いがわかり個人の内面と相手の内面を正しく理解できるようになる。          ②個人と他者の価値観や五感の感じ方、美しさの心理の違いを理解することで自分自身をうまく伝え、上手にコミュニケーションがとれるようになる。          ③美に対する多様性心理を理解することができ自己肯定感をもつことができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          メイクアップ、髪型、バック、靴、アクセサリー、ファッション、話し方など個人や家族・友人の方達をよく観察して講義の振り返りに役立ててください。          新しく何か購入する際(服、化粧品、バック、自宅のカーテン、ハンカチなど)個人の気持ちや購入したときの感情の変化などメモをしておいてください。</p> <p>各回の講義についての日常生活の振り返りなど予習、復習は毎回説明します。質問事項を考えておいてください。          各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          理解度確認テスト(50%)、小テスト(30%)、レポート提出(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          ・レポートは、後日添削して全て返却します。          ・理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          積極的に授業に参加してください。学生生活・個人のライフスタイルに習得項目をとりいれてください。          質問事項はメモに記入して提出してください。個人だけの質問は個人へ全体に解説したほうが良い質問は、講義の中で解説します。</p>			

授業科目名 (副題)	ビューティ心理学
担当者	遠藤 瑞穂
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション 授業全体の概要、授業の進め方 / アンケート</li> <li>2. 美と心理について・脳の働き(見えない世界考える)</li> <li>3. 化粧品と心理 (メイクセラピーの心理学)</li> <li>4. 美と対人認知(印象管理)</li> <li>5. 美(色)と感情</li> <li>6. 美と健康・衣食・住(ライフスタイルとカラー心理)</li> <li>7. 美しい肌をつくる(五感の心理)睡眠・香り・肌トラブル改善)</li> <li>8. 美とファッション パートⅠ(服、髪型、髪の色)</li> <li>9. 美とファッション パートⅡ(靴、バック、アクセサリ、ネイル)</li> <li>10. 美とファッション パートⅢ(眼鏡、帽子、イヤリング、リング)</li> <li>11.信頼される美しいコミュニケーション</li> <li>12.美とマナー(日常生活、感情心理)</li> <li>13.レポート/理解度確認テスト</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって主体的に学修を深め、資格取得に資する力を有している。 成績評価方法:理解度確認テスト(50%)、小テスト(30%)、レポート提出(20%)で評価。</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法:理解度確認テスト(50%)、小テスト(30%)、レポート提出(20%)で評価。</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法:理解度確認テスト(50%)、小テスト(30%)、レポート提出(20%)で評価。</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法:理解度確認テスト(50%)、小テスト(30%)、レポート提出(20%)で評価。</p> <p>【2-4】持続可能な社会のために、未来を切り開く創造力を有している。 成績評価方法:理解度確認テスト(50%)、小テスト(30%)、レポート提出(20%)で評価。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>『言葉を変えると、人生が変わる』 著者名:クリスティーナ・ホールPh.D著 出版社:株式会社VOICE  『美人の正体』 著者名:越智 啓太 著 出版社:実務教育出版  『カウンセリング理論』 著者名:國分康孝 著 出版社:誠信書房  『印象測定心理学』 著者名:神宮英夫 出版社:川島書店  ひみつの心理学 著者名:斎藤 勇 出版社:宝島社</p>	



授業科目名 (副題)	ファッションデザイン論		
担当者	福西 由美子		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	アパレル企業において婦人服デザイン、ユニフォームデザイン、ファッションイラストレーターの経験とファッションの専門学校における教員経験を活かして、ファッションデザインの基礎から展開について指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          ヨーロッパを中心とした古代・中世・近世・現代までのファッションデザインの変遷、流行とは何か、デザインの基礎的要素、イメージのデザイン展開をフォルム、色彩、素材の観点から「デザインする」こと「装う」ことにおける専門知識を学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]          ①服飾の変遷を学ぶことで、その時代性と衣服の関係を理解し、デザインの基本論理から衣服におけるデザインと機能について理解を深める事ができる。          ②学んだ知識をもとに、実生活において活用することができるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          授業前の準備として、課題にビジュアルの資料が必要な時は、事前に自宅でプリントアウト等の資料収集をしておいてください。          各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          提出課題(40%),レポート(40%) 受講態度(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          課題は、評価コメントを記載して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          欠席した場合、翌週に配布プリントを授業前後に取りにきてください。</p>			

授業科目名 (副題)	ファッションデザイン論
担当者	福西 由美子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ファッションデザイン概論 ファッションの始原</li> <li>2. ファッションの変遷 I 古代ギリシャ・ローマ・中世のファッション</li> <li>3. ファッションの変遷 II 近世ルネッサンス・バロックのファッション</li> <li>4. ファッションの変遷 III 近世ロココ、近代のファッション</li> <li>5. 女性の社会進出とファッション</li> <li>6. 20世紀のデザイナー</li> <li>7. ファッションデザインの基礎 I 形の見え方・シルエット</li> <li>8. ファッションデザインの基礎 II 色の見え方とイメージ</li> <li>9. ファッションデザインの基礎 III 配色の基本</li> <li>10. ファッションデザインの基礎 IV ファッションにおける配色の応用</li> <li>11. ファッションデザインの基礎 V 素材特性とデザイン</li> <li>12. ファッションデザインへの展開 デザインの発想とトレンド感性分類</li> <li>13. アパレル産業の構造とトレンド アパレルデザインの企画</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]  【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって主体的に学修を深め、資格取得に資する力を有している。  成績評価方法: 提出課題(40%),レポート(40%) 受講態度(20%)で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]  『ファッション&amp;ビューティの色彩』 著者名:大関 徹・田原二美・高田葉子 共著 出版社:財団法人日本色彩研究所 (978-4-901355-28-5)  新配色カード199a・3×12cm  (他の授業で使用したもので可能です) 著者名:日本色研事業株式会社  必要に応じてプリント資料を配布</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]  授業内において参考図書を紹介 著者名:授業内にて 出版社:授業内にて (文化ファッション体系 服飾デザイン)</p>	

授業科目名 (副題)	ファッションビジネス論		
担当者	於保 可那子		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	衣装スタイリストとして、映像作品やイベント衣装のデザインやスタイリングを行っている教員が、最新のモードを取り入れながら講義を行います。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他	○		
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他	○		
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]            ファッションに関する基本的な知識と技術を身に付けるとともに、ファッションブランドをバーチャルで企画することで、ファッション商品の企画、流通、販売に関する知識を習得します。スタイリング演習では、服装でブランドを表現し、イメージをつくる実践をしてもらいます。ファッションビジネスの構造や変遷を認識しながら、アパレル戦略システム(マーチャンダイジング)を自ら感じとることを学習目的とします。</p> <p>[ 到達目標 ]            ①ファッションビジネス基礎知識とマーチャンダイジング戦略の認識を習得することができる。            ②チームで企画を作り上げることにより、コミュニケーション力を高めることができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]            ブランド企画・スタイリング実習は保守的にならず、流行をつくり出すつもりで取り組んで欲しい。そのためにもファッション情報やニュース等に関心を持つことを意識してみてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて2 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]            マップレポート提出(60%)授業態度と発表(40%)で評価します。社会実践力(分析力、考察力、構成力)は特に評価します。提出物期限厳守。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]            返却時に直接コメントと指導。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]            常にファッションに興味を持ち、「オシャレであり続けたい」という気持ちをもって授業にのぞんでほしい。また、演習はグループ単位で行うためお互いの協力と協調性をもってのぞんでください。</p>			

授業科目名 (副題)	ファッションビジネス論
担当者	於保 可那子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業計画と成績評価の仕方・流行のはじまりとサイクル</li> <li>2. モードのサイクル</li> <li>3. アパレル業界探訪</li> <li>4. 八大感性を手に入れろ</li> <li>5. ターゲットを探し出せ</li> <li>6. 雑誌で見る日本のモード</li> <li>7. イメージの見える化 ブランディングスタート</li> <li>8. ブランド誕生/ターゲットを探し出せ！実践編</li> <li>9. バイキングシミュレーション</li> <li>10. 商品リストをつくろう</li> <li>11. ショッププランニング</li> <li>12. キービジュアル</li> <li>13. プレゼンテーション・まとめ</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法: 発表で評価します。</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: マップレポート提出で評価します。 ・</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法: マップレポート提出で評価します。 ・</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 教科書は無しです。プリントを配布します。(ファイルにまとめておくこと)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 『アパレル・マーチャンダイジング』 著者名:菅原正博 監修 出版社:ファッション教育社発行 星雲社発売 (4-434-04332-3) 『ファッション・マーケティング』 著者名:菅原正博、本山光子 共著 出版社:ファッション教育社発行 星雲社発売 (978-4-7952-4177-0) WWD 出版社:株式会社INFASパブリケーションズ (<a href="https://www.wwdjapan.com/">https://www.wwdjapan.com/</a>)</p>	

授業科目名 (副題)	フードコーディネーター実習		
担当者	西 奈保		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>おいしいものをよりおいしく食べるための食空間演出、すなわちテーブルコーディネート基礎について学びます。日本料理・西洋料理・中国料理のそれぞれについて、食のシーンに合ったテーブルコーディネートができるように、セッティングの約束ごと、食器・食具やリネン類などのコーディネートアイテムの知識と使い方、カラーコーディネートなどを習得し、テーブルマナーやサービスマナーも学びます。 食の企画・実践として、料理教室の企画と実践を行います。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①基本的なセッティングの約束ごとと、コーディネートアイテムとカラーコーディネートの基礎知識を理解できる。 ②フードコーディネーターとして「おいしいものをよりおいしく食べるための食空間演出」ができるようになる。 ③食に関する企画を立案し、実践することができるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>事後学習として、毎回のレポートは授業時間外に仕上げてください。 学習したことを日常の食事に応用し、食事がおいしく演出できるよう心がけてください。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>提出物(50%)、理解度確認テスト(30%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>レポートは後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>調理実習の授業回がありますので、実習着と実材料費が必要です。 衛生面に充分注意してください。 できれば「調理基礎実習」を履修しておいてください。</p>			

授業科目名 (副題)	フードコーディネーター実習
担当者	西 奈保
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション フードコーディネートの概要</li> <li>2. テーブルコーディネートの基本 ・テーブルコーディネートについて ・テーブルナプキンについて</li> <li>3. 食空間の構成 ①西洋料理 ・テーブルセットの約束ごと ・コーディネートアイテムを知る ・西洋料理のテーブルマナーの実践</li> <li>4. 食空間の構成 ②日本料理 ・和食のコーディネートの約束ごと ・和の食卓 ・日本料理のテーブルマナーの実践</li> <li>5. 食空間の構成 ③中国料理 ・中国の食の約束ごと ・テーブルセット ・中国料理のテーブルマナー</li> <li>6. サービスマナーの実践とプロトコール、席次</li> <li>7. 料理教室の企画・レシピ作成</li> <li>8. 料理教室の企画・レシピの検討</li> <li>9. 料理教室の実践</li> <li>10. 料理教室の実践と評価</li> <li>11. テーブルコーディネートの実践とおもてなしのお菓子① ・クリスマスのテーブルコーディネートの計画</li> <li>12. テーブルコーディネートの実践とおもてなしのお菓子② ・クリスマスのテーブルコーディネートの実践</li> <li>13. フードコーディネートの実践についての理解度確認テストと解説</li> </ol> <p>※状況により順序が変更する場合があります。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びをとおして、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 提出物、理解度確認テスト</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法: 提出物、授業態度</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 提出物、理解度確認テスト</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>【3-3】多様なものの見方や考え方を尊重する姿勢を有している。 成績評価方法: 提出物、授業態度</p> <p>【3-4】人々と協働・協調して学修を進める力を有している。 成績評価方法: 提出物、授業態度</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 新・フードコーディネーター教本 著者名: 特定非営利活動法人 日本フードコーディネーター協会 出版社: 株式会社 柴田書店 (978-4-388-15447-0) プリント配布</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] プリント配付</p>	

授業科目名 (副題)	フードコーディネーターの基礎		
担当者	安原 美帆		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>フードコーディネーターの基礎として必要な食に関する教養、①文化(食文化)、②科学(健康と栄養と安全)、③デザイン・アート(食環境デザインと芸術的創造性)、④経済・経営(経済的概念と食関連事業経営実務)の4つの分野について学び、食に対する裾野を広げていきます。さらに、時代とともに変化が著しい厨房機器・設備について理解し、基礎知識を習得していきます。そして、フードコーディネーターとして必要な食の企画力を養います。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>フードコーディネーターに必要な教養と知識が習得できる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>毎回の授業内容をよく理解し、ポイントを整理しておいてください。特に、小テストで間違ったところは、テキストやプリントやノートで確認しておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>小テスト(50%)、レポート(30%)、提出物(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>小テスト回収後、manabaに模範解答を掲載します。 レポートは後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>フードコーディネーターに興味を持って、積極的に授業に参加してください。 必ずテキストを準備し、図表や用語を確認しながら受講してください。</p>			

授業科目名 (副題)	フードコーディネーターの基礎
担当者	安原 美帆
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食文化</li> <li>2. 健康と栄養と安全</li> <li>3. 厨房の基礎知識(1) 厨房計画とメニュー内容</li> <li>4. 厨房の基礎知識(2) 調理方法と厨房機器</li> <li>5. 厨房の基礎知識(3) 厨房機器の種類と標準寸法</li> <li>6. 厨房の基礎知識(4) キッチンスタイルの基本</li> <li>7. 厨房の基礎知識(5) 厨房計画の進め方</li> <li>8. 食環境デザインと芸術的創造性</li> <li>9. 経済的概念と食関連事業経営実務(1) フードマネージメント</li> <li>10. 経済的概念と食関連事業経営実務(2) メニュープランニング</li> <li>11. 経済的概念と食関連事業経営実務(3) 食の企画の事例</li> <li>12. 経済的概念と食関連事業経営実務(4) 食の企画立案のコツ</li> <li>13. 経済的概念と食関連事業経営実務(5) 企画書(提案書)の作成の基礎とポイント</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって主体的に学修を深め、資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 小テスト、レポート、提出物</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法: 小テスト、レポート</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: レポート、提出物</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『フードコーディネーター教本2022』(最新発行のもの) 著者名: 日本フードコーディネーター協会 出版社: 株式会社 柴田書店 (2月末発行のため未定)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>プリント配布</p> <p>『フードコーディネーター用語集 3級資格認定試験対応』 著者名: 日本フードコーディネーター協会 出版社: 株式会社 柴田書店 (978-4-388-15329-9)</p> <p>『たのしい!・おいしい! テーブル・カラー・コーディネート』 著者名: 一般財団法人日本色彩研究所 出版社: 日本色研究事業株式会社 (978-4-901355-25-4)</p> <p>『秘められた和食史』 著者名: カタジーナ・チフィエルトカ, 安原美帆 出版社: 新泉社 (978-4-7877-1607-1)</p>	



授業科目名 (副題)	フードコーディネート論		
担当者	安原 美帆		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          フードスペシャリスト資格認定試験に必要なフードコーディネート論の基礎知識を学び、食に関するコーディネートの仕事に必要な知識と技術と実践力を養います。</p> <p>[ 到達目標 ]          ①フードコーディネートが食生活に果たしている役割と価値を理解できる。          ②フードコーディネート論の基礎知識が習得できる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          テキストの各章冒頭の「★概要とねらい」を、次回の授業までに読んでおいてください。          授業後は、用語の整理をしておいてください。特に、小テストで間違ったところは、テキストで確認しておいてください。          各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          小テスト(50%)、レポート(30%)、提出物(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          小テストは回収後、manabaに模範解答を掲載します。          レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          フードコーディネートに興味を持って、積極的に授業に参加してください。          必ずテキストを準備し、指示した重要な語句や用語や図をチェックしながら受講してください。</p>			

授業科目名 (副題)	フードコーディネート論
担当者	安原 美帆
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. フードコーディネートとの基本理念</li> <li>2. 食事の文化(1) ①食のタブーと宗教 ②特別な日の食事</li> <li>3. 食事の文化(2) ①日本の食事 ②外国の食事</li> <li>4. 食卓のコーディネート</li> <li>5. 食卓のサービスとマナー(1) ①サービスとマナーの基本 ②日本・中国・西洋の各料理のサービスとマナー</li> <li>6. 食卓のサービスとマナー(2) ①パーティ ②プロトコルと席次</li> <li>7. メニュープランニング(1) メニュープランニングの要件</li> <li>8. メニュープランニング(2) 料理様式とメニュー開発の基礎</li> <li>9. 食空間のコーディネート(1) 食事空間のコーディネートの基礎</li> <li>10. 食空間のコーディネート(2) 食事空間とキッチンのコーディネート</li> <li>11. フードサービスマネジメント(1) ①フードサービスビジネスの動向と特性 ②マネジメントの基礎</li> <li>12. フードサービスマネジメント(2) フードサービス(レストラン)の起業</li> <li>13. 食の企画と実践フードコーディネート</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 小テスト、レポート、提出物</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって主体的に学修を深め、資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 小テスト、レポート、提出物</p> <p>【3-3】多様なものの見方や考え方を尊重する姿勢を有している。 成績評価方法: 小テスト、レポート</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『三訂 フードコーディネート論』(最新発行のもの) 著者名:(社)日本フードスペシャリスト協会 編 出版社:建帛社 (978-4-7679-0440-5)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>プリント配付</p> <p>『たのしい!おいしい!テーブル・カラー・コーディネート』 著者名:一般財団法人日本色彩研究所 出版社:日本色研究事業株式会社 (978-4-901355-25-4)</p> <p>『秘められた和食史』 著者名:カタジーナ・チフィエルトカ, 安原美帆 出版社:新泉社 (978-7877-1601-1)</p> <p>『Branding Japanese Food: From Meibutsu to Washoku (Food in Asia and the Pacific)』 著者名: Katarzyna J. Cwierka with Yasuhara Miho 出版社:University of Hawaii Press (978-0824881221)</p>	

授業科目名 (副題)	フードスペシャリスト論		
担当者	細見 和子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          フードスペシャリスト資格認定試験に必要な基礎知識を学び、認定試験に合格できる力を養います。また、フードコーディネーターに必要な基礎知識も学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]          フードスペシャリストの基本知識が習得できる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          各回の講義についての予習・復習を行う(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。          「★概要とねらい」を、次回の授業までに読んでおいてください。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          小テスト(60%)、レポート(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          小テスト、レポートは、後日、解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          重要な語句・用語や図をチェックしながら受講して下さい。</p>			

授業科目名 (副題)	フードスペシャリスト論
担当者	細見 和子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食の専門職の現状</li> <li>2. フードスペシャリスト資格認定試験について</li> <li>3. フードスペシャリストとは ①概念 ②業務とその専門性 ③活躍分野 ④責務</li> <li>4. 人類と食物(1) 人類の歩みと食物の概要</li> <li>5. 人類と食物(2) ①食品加工 ②保存技術史</li> <li>6. 世界の食 ①食作法 ②食の禁忌 ③世界各地の食事</li> <li>7. 日本の食 ①日本食物史 ②食の地域差</li> <li>8. 現代日本の食生活(1) ①食生活の変化 ②食産業の変遷</li> <li>9. 現代日本の食生活(2) ①食料自給率 ②環境と食</li> <li>10. 食産業の役割 ①フードシステムと食品産業 ②食品製造業 ③食品卸売業 ④食品小売業 ⑤外食産業</li> <li>11. 食品の品質規格と表示 ①概要 ②JAS法による規格制度 ③食品表示法による表示他</li> <li>13. 食情報と消費者保護 ①食情報 ②食品の安全 ③消費者保護</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を身に付ける。 成績評価方法: レポート、小テスト</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を身に付ける。 成績評価方法: レポート、小テスト</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を身に付ける。 成績評価方法: レポート</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『四訂 フードスペシャリスト論 第6版』(最新発行のもの) 著者名:(社)日本フードスペシャリスト協会編 出版社:建帛社 (978-4-7679-0660-7)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>『2021年版フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集』 著者名:(社)日本フードスペシャリスト協会編 出版社:建帛社 (2月末発行のため未定)</p>	

授業科目名 (副題)	ブライダル・プランナー I		
担当者	細見 和子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          日本におけるブライダルについて、わかりやすく解説していきます。          ブライダルプランナーの仕事を学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]          日本のブライダルについての基礎知識を理解できるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          テキストを参考にしながら、ブライダル関連の情報収集を積極的に行い、レポート課題を作成するための予習や復習をしてください。          各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          課題レポート(40%),発表(30%),テスト(30%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          レポート等回収後に、解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          ブライダルプランナーの仕事を理解するために、ブライダルのプランニングの基本を学び、課題の作成に取り組んでください。</p>			

授業科目名 (副題)	ブライダル・プランナー I
担当者	細見 和子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ブライダルプランナーとは</li> <li>2. 日本のウエディングの歴史</li> <li>3. 神前式・キリスト教式</li> <li>4. 人前式・仏前式</li> <li>5. 打ち合わせ・スケジュール</li> <li>6. 披露宴・披露宴会場について</li> <li>7. 衣装について(和装)</li> <li>8. 衣装について(洋装)</li> <li>9. 婚礼料理</li> <li>10. テーブルセッティング・ペーパーアイテム</li> <li>12. ブライダルフェアのプランニング</li> <li>13. ブライダルフェアの発表、まとめ</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を身に付ける。 成績評価方法:テスト</p> <p>【2-4】持続可能な社会のために、未来を切り開く創造力を身に付ける。 成績評価方法:レポート</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を身に付ける。 成績評価方法:発表</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を身に付ける。 成績評価方法:レポート</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『The Business of Japanese Weddings , The Business of American Weddings』 著者名:全米ブライダルコンサルタント協会 日本オフィス発行 出版社:「ブライダルプランナーⅡ」「ブライダルコーディネータ論」「ブライダルコーディネータ演習」のテキストとしても使われます。</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>随時、紹介します。</p>	

授業科目名 (副題)	ブライダル・プランナーⅡ		
担当者	細見 和子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]            アメリカやヨーロッパの挙式および披露宴の特徴を理解し、プランニングを学びます。            ブライダルプランナーとしての実践力を付け、知識を深めていきます。</p> <p>[ 到達目標 ]            ①世界のブライダル事情が理解できるようになる。            ②ブライダルの企画がきるようになる。”</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]            テキストを参考にしながら、ブライダル関連の情報収集を積極的に行い、課題の予習や復習を行うようにしておいてください。            各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]            講義中の課題(テスト含む)(30%)、レポート(30%)、発表(40%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]            テスト、レポート回収後は、解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]            前期「ブライダルプランナーⅠ」を履修しておいてください。</p>			

授業科目名 (副題)	ブライダル・プランナーⅡ
担当者	細見 和子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. American Weddingの特徴 について</li> <li>2. ブライダルプランナーⅠの復習</li> <li>3. American Wedding(ブライダルパーティについて)</li> <li>4. American Wedding(フェイバー、ギフトの特徴)</li> <li>5. American Wedding(世界のウエディングの特徴)</li> <li>6. American Wedding(世界のウエディングの進行)</li> <li>7. American Wedding(イベント、自己開発)</li> <li>8. American Wedding(対応力、知識、スキル、経験、)</li> <li>9. Wedding プラン作成(ウエディングの基本)</li> <li>10. Wedding プラン作成(披露宴のタイムスケジュール)</li> <li>11. Wedding プラン発表</li> <li>12. Wedding プラン発表</li> <li>13. American Weddingのまとめ</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を身に付ける。 成績評価方法:テスト</p> <p>【2-4】持続可能な社会のために、未来を切り開く創造力を身に付ける。 成績評価方法:レポート</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を身に付ける。 成績評価方法:発表</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を身に付ける。 成績評価方法:レポート</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『The Business of Japanese Weddings , The Business of American Weddings』 著者名:全米ブライダルコンサルタント協会 日本オフィス発行 出版社:ABC協会</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>適宜必要資料を提示する。</p>	



授業科目名 (副題)	ブライダルコーディネート演習		
担当者	松本 梨香子		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	ウエディングプランナー経験を有する教員が、現場経験を元に結婚式についてお伝えします。現在も現役でウエディング業界に在籍しており、最新のトレンドを取り入れたウエディングの作り方や、パーティ・イベント企画についてお伝えしていきます。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他	授業内で神戸市内のゲストハウス(結婚式場)を訪問します。		
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他	授業内で神戸市内のゲストハウス(結婚式場)を訪問します。		
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]            ブライダル業界全般の知識を取得しながら、同時に実践体験を多く取り入れます。            広告の考え方、花嫁を美しく見せる為のトータルビューティコーディネート、挙式・パーティ企画など、実践を通して理解を深めていただきます。</p> <p>[ 到達目標 ]            ①ブライダル知識を体験することでより深く理解できるようになる            ②ワークをとおして、企画力・想像力・実践力が身に付けることができる</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]            演習での体験を自身で掘り下げて探求するよう心掛けてください。            各回の講義についての事前準備・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]            プレゼンテーション(60%)・レポートや課題(20%)・受講態度(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]            授業内で直接、プロのウエディングプランナー目線でフィードバックします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]            受講人数は、最大25名まで。            尚、前期のブライダルコーディネート論を履修してください。</p> <p>※授業内でiphone、ipad、パソコン等を使用します。            何等かの端末をご準備下さい。</p>			

授業科目名 (副題)	ブライダルコーディネート演習
担当者	松本 梨香子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ブライダル広告(基礎知識)</li> <li>2.ブライダル広告(実践:広告制作)</li> <li>3.ブライダル広告(プレゼンテーション)・新規接客(基礎知識)</li> <li>4.営業コミュニケーション・新規接客(実践ロープレ)</li> <li>5.ゲストハウス(結婚式場)訪問見学 (外出となります)</li> <li>※※式場の都合により、日時は変動する可能性があります。※※</li> <li>6.挙式プランニング(基礎知識)</li> <li>7.挙式プランニング(実践:コンセプト・衣装・BGM・演出企画)</li> <li>8.挙式プランニング(プレゼンテーション)</li> <li>9.イベント・パーティ企画(基礎知識・実践)</li> <li>10.イベント・パーティ企画(実践・プレゼンテーション)</li> <li>11.トータルプランニング(基礎知識:空間&amp;ビューティコーディネート・パーティ企画)</li> <li>12.トータルプランニング(実践)</li> <li>13.トータルプランニング(プレゼンテーション)／授業まとめ</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって主体的に学修を深め、資格取得に資する力を有している。 成績評価方法:プレゼンテーション・レポートや課題・受講態度で評価します。</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法:プレゼンテーション・レポートや課題・受講態度で評価します。</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法:プレゼンテーション・レポートや課題・受講態度で評価します。</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法:プレゼンテーション・レポートや課題・受講態度で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 演習内容により、資料としてプリントを配布します。</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 『The Business of Japanese Weddings , The Business of American Weddings』 著者名:全米ブライダルコンサルタント協会 日本オフィス発行</p>	

授業科目名 (副題)	ブライダルコーディネート論		
担当者	松本 梨香子		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	ウエディングプランナー経験を有する教員が、現場経験を元に結婚式についてお伝えします。現在も現役でウエディング業界にも在職しており、最新のトレンドやアイテムについて多く紹介していきます。また、現在はウエディング業界での採用活動にも多く関わっている為、業界知識や業界への就職希望者の支援もさせていただきます。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          ブライダルの歴史～現在の流行、基礎知識について、講義や映像、実物のウエディングアイテムを使用し、伝えていきます。          一生に一度の、思い出に残る結婚式を作る為に必要な、ブライダルの知識やマナーについて学んで頂きます。</p> <p>[ 到達目標 ]          ①ブライダルの歴史や関連する基礎知識を理解できるようになる。          ②日本従来のしきたりや文化を理解すると共に、現在の流行や最新のブライダルについて理解できるようになる。          ③ブライダル業界で求められるコミュニケーションスキルの必要性を理解できるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          講義の中で興味を持ったことや関心のあることは、自身で掘り下げて探求するよう心掛けてください。授業内で課題を出しますので、授業時間外に行い、指定した期日までに提出して下さい。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          4回分の提出課題(100%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          個別で直接、プロのウエディングプランナー目線でフィードバックします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          授業内でスマートフォン、iphone、ipad、パソコンのいずれかを使用します。いずれかの端末をご用意下さい。</p>			

授業科目名 (副題)	ブライダルコーディネート論
担当者	松本 梨香子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 結婚式とは・ブライダル市場の知識</li> <li>2. 日本のブライダル 歴史と文化</li> <li>3. 日本のブライダル業界の今 最新事情</li> <li>4. 挙式スタイル</li> <li>5. 披露宴の流れ</li> <li>6. 料理・ドリンク・ケーキ・デザート</li> <li>7. 衣装(和装・洋装)</li> <li>8. 衣装(洋装・衣装小物・美容)</li> <li>9. 装花・ブーケ</li> <li>10. 司会・写真・映像</li> <li>11. 引出物・引き菓子・マナー</li> <li>12. 演出</li> <li>13. 前期授業内容 総復習</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって主体的に学修を深め、資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 4回分の提出課題で評価します。</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法: 4回分の提出課題で評価します。</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 4回分の提出課題で評価します。</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法: 4回分の提出課題で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『The Business of Japanese Weddings , The Business of American Weddings』 著者名: 全米ブライダルコンサルタント協会 日本オフィス発行 出版社: 1年次の「ブライダルプランナー I」「ブライダルプランナー II」に引き続き、使用します。</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>なし</p>	

授業科目名 (副題)	プレゼンテーション演習 I		
担当者	福井 愛美		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	放送局などマスコミでのインタビューやレポーター、MCなどの幅広い実務経験を活かして、プレゼンテーションの重要性や、話し方・表現力に関連する内容の指導を行います。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>プレゼンテーションを行うために必要な基本的な事柄を学びます。          プレゼンテーションの意義・目的、内容、進め方、ツールの活用など、基礎を学ぶと同時に、話し方などの口頭表現、身体表現を中心とした演習を行います。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>① プレゼンテーションツールの種類と特徴を理解し、目的にあったツールを選択することができる。          ② プレゼンテーションに必要な情報収集と時間管理ができる。          ③ ノン・バーバルコミュニケーション技法を理解し、活用しながら話すことができる。          ④ 身近なテーマで簡単なプレゼンテーションができるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>テレビのニュースや新聞に目を通し、身近な話題から話すテーマを見つけておいてください。          また、新聞の記事は音読をして滑舌の練習をしてください。          授業内で出された課題については、授業開始までに自主的に学習して完成させておいてください。          各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>プレゼンテーション発表(20%)、授業内での課題(20%)、小テスト(60%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>レポートは提出後添削をして返却をします。          プレゼンテーション発表はその都度、講評します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>「プレゼンテーション実務士」資格の必修科目です。          プレゼンテーションは、積極的に発表して、経験を積み重ねることによって上達します。授業には積極的に参加してください。</p>			

授業科目名 (副題)	プレゼンテーション演習 I
担当者	福井 愛美
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プレゼンテーションとは…プレゼンテーションの種類と定義について</li> <li>2. コミュニケーションとプレゼンテーション</li> <li>3. プレゼンテーションの目的…紹介のプレゼンテーション</li> <li>4. プレゼンテーション準備と流れ…聴衆分析や目的の明確化、プラン作成、ツールについて</li> <li>5. 聴衆に好感を持たれる話し方の基本</li> <li>6. バーバル表現…効果的な言い回し方</li> <li>7. ノン・バーバル表現…聴衆に好感を持たれる話し方や態度、演出法</li> <li>8. 身近なプレゼンテーション…スピーチ・フリートーク</li> <li>9. パブリックスピーキング1…インタビューをしてみよう</li> <li>10. パブリックスピーキング2…学校生活について話してみよう</li> <li>11. 説明と説得のプレゼンテーション1…グループワーク・視覚資料作成</li> <li>12. 説明と説得のプレゼンテーション2…リハーサルと発表</li> <li>13. 振り返り</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法: プレゼンテーション発表で評価します。</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 課題と小テストで評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『プレゼンテーション演習』 著者名: 伊藤宏他 出版社: 樹村房 (978-4-88367-213-4)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>『プレゼンテーション概論』 著者名: 大島武編著 出版社: 樹村房 (978-4-88367-234-9)</p>	

授業科目名 (副題)	プレゼンテーション演習Ⅱ		
担当者	福井 愛美		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	放送局などマスコミでのインタビューやレポーター、MCなどの幅広い実務経験を活かして、プレゼンテーションの重要性や話し方・表現力に関連する内容の指導を行います。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>プレゼンテーション演習Ⅰで学んだ口頭表現・身体表現によるプレゼンテーション技術をより向上させるために、具体的な事例を取り入れたグループワークを中心に授業を進めます。</p> <p>前半は自分のセールスポイントを知り、就職活動にも生かせるよう、自己PRや面接時での表現法を、後半は企業内での身近な事例を取り上げ、プレゼンテーションの応用力を養います。さまざまな演習を通して、意思疎通や発表の楽しさ・大切さを実感します。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① グループディスカッションができるようになる。</li> <li>② パワーポイントを使っての資料作成、操作ができるようになる。</li> <li>③ 自信をもってプレゼンテーションを行い、共感を得ることができるようになる。</li> <li>④ 学んだことを就職活動や実社会で活用することができる。</li> </ol> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>国内外のニュースや、テレビ番組を見て、プレゼンテーション場面でキャスターがどのように表現しているか、またどのようなツールを使っているか、研究しておいてください。</p> <p>授業内で出された課題は、指定された時間に提出できるよう自主的に学習し、提出期限を守ってください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>プレゼンテーション発表(20%)、授業内での課題(20%)、小テスト(60%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>レポートは後日添削をして返却します。</p> <p>プレゼンテーション発表はその都度、講評します。</p> <p>課題はその場で解答解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「プレゼンテーション演習Ⅰ」を踏まえて「プレゼンテーション演習Ⅱ」に進みます。Ⅰを先に受講してください。テキストも、引き続き同じものを使います。</li> <li>2. 「プレゼンテーション実務士」資格の必修科目です。</li> <li>3. プレゼンテーションは、積極的に発表して、経験を積み重ねることによって上達します。授業には積極的に参加してください。</li> </ol>			

授業科目名 (副題)	プレゼンテーション演習Ⅱ
担当者	福井 愛美
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プレゼンテーションの基礎…「演習Ⅰ」のポイントの確認と復習</li> <li>2. 就職活動に活かすプレゼンテーション1…自分のセールスポイントを知る</li> <li>3. 就職活動に活かすプレゼンテーション2…自分プレゼンの作成と発表</li> <li>4. 企業内でのプレゼンテーション1…社会人としての話し方</li> <li>5. 企業内でのプレゼンテーション2…ミーティングと会議</li> <li>6. QC手法としてのプレゼンテーション…KJ法</li> <li>7. 説得のプレゼンテーション…ピラミッドストラクチャー</li> <li>8. ポスターセッション1…ポスター作成</li> <li>9. ポスターセッション2…発表と振り返り</li> <li>10. セールストークとプレゼンテーション</li> <li>11. 企画提案のためのプレゼンテーション1…企画会議</li> <li>12. 企画提案のためのプレゼンテーション2…視覚資料作成</li> <li>13. プレゼンテーション発表と振り返り</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法:プレゼンテーション発表で評価します。</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法:授業内での課題や小テストで評価します。</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。□ 成績評価方法:授業内での課題や小テストで評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『プレゼンテーション演習』 著者名:伊藤宏他 出版社:樹村房 (978-4-88367-213-4 )</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>『プレゼンテーション概論』 著者名:大島武編著 出版社:樹村房 (978-4-88367-234-9 )</p> <p>『即戦力になる ビジネス実務とPC活用 社会人基礎編』 著者名:日経BP社</p>	



授業科目名 (副題)	プレゼンテーション概論		
担当者	福井 愛美		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	放送局などマスコミでのインタビューやレポーター、MCなどの幅広い実務経験を活かし、プレゼンテーションの重要性やビジネス関連の内容について講義します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]          現代社会において、プレゼンテーションに関する知識を学び、学んだことを実行できる意義と重要性を理解します。さまざまな場面における効果的な対人コミュニケーションの方法について学びますが、ビジネスの場面においては、単に「話す」だけでは不十分で、「きく」ことを重視したコミュニケーション力、さらに相手を説得し行動変容を促すまでの成果が求められます。そのため、「説明」や「説得」という話し方における非言語的なメッセージの重要性、及びプレゼンテーション・ツールの使い方を学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① プレゼンテーションを学ぶ意義が理解できる。</li> <li>② 対人コミュニケーションの仕組みや形態に関する知識を深めることができる。</li> <li>③ プレゼンテーションのための要素を知り、自己分析により自らの弱点を見出すことができる。</li> <li>④ 課題によるプレゼンテーションの構成ができる。</li> <li>⑤ 表現、話し方、非言語表現についての知識を深めることができる。</li> <li>⑥ 発表時のツールやスライドに関する知識を深めることができる。</li> <li>⑦ 与えられた課題について、人前でプレゼンテーションできる。</li> </ol> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          常に自分の表現力を見直し、改善しようとする努力が大切です。この授業は「プレゼンテーション実務士」資格取得のための必修科目ですから、常に課題に取り組み、資格取得に見合う評価を得てください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]          授業への積極的な参加度(15%)、授業で出された課題の提出(15%)、達成度を確認する小テスト(70%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          提出課題は後日添削をして返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]          「プレゼンテーション実務士」資格取得の必修科目です。最近では、就職の面接試験において、「○○をプレゼンしてください」という課題が出されることがあります。そのような場面では学んだ内容を活用し、さらには、実際のビジネス場面で応用できるように、「プレゼンテーション実務士」資格を取得してください。</p>			

授業科目名 (副題)	プレゼンテーション概論
担当者	福井 愛美
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プレゼンテーションの重要性 <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜプレゼンテーションを学ぶか、プレゼンターの心構え</li> </ul> </li> <li>2. さまざまな場面でのコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの仕組みとさまざまなコミュニケーション形態</li> </ul> </li> <li>3. パブリックスピーチの基本 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチとプレゼンテーションの違い、対人コミュニケーションのための自己分析</li> </ul> </li> <li>4. 目的に応じたプレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書く」ことの重要性と「きく」ことの重要性。好感獲得・情報提供・聞き手の分析、ユーモアスピーチ</li> </ul> </li> <li>5. 話の組み立て/論理的な構成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入・本論・結び、論理的とは</li> </ul> </li> <li>6. 非言語表現の要素 <ul style="list-style-type: none"> <li>・非言語表現の力、表現技術について</li> </ul> </li> <li>7. 必要な情報・データの収集方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・提示資料はインパクトが大切、キーワード化、シンプル化</li> </ul> </li> <li>8. 効果的な視覚資料の作成方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スライド作成の基本、センスのよい資料とは、グループワーク実施</li> </ul> </li> <li>9. 配布資料と質疑応答について <ul style="list-style-type: none"> <li>・レジュメとアジェンダ、レジュメの基本要素、グループワーク実施</li> </ul> </li> <li>10. プレゼンターの態度・マナー <ul style="list-style-type: none"> <li>・質疑応答を成功させるには、コンセンサスレッスン(グループワーク)</li> </ul> </li> <li>11. 効果的なプレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> <li>・演出力を身につける、空間を演出する</li> </ul> </li> <li>12. プロフェッショナル・コミュニケーションスキル <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問や意見に適切に対処する、上達の決め手とは</li> </ul> </li> <li>13. プレゼンテーションの活用について <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職面接試験での活用について、評価とフィードバック</li> </ul> </li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法: 達成度確認テストで評価します。</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を身に付ける。 成績評価方法: ・ 達成度確認テストで評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『プレゼンテーション概論』 著者名: 福井 有監修 出版社: 樹村房 (978-4-88367-234-9C3034)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>「プレゼンテーション教育指導法」資料 著者名: 日本ビジネス実務学会/全国大学実務教育協会 出版社: 全国大学実務教育協会 (37773)</p>	

授業科目名 (副題)	プロジェクト演習		
担当者	福井 愛美		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	放送局などマスコミやイベント関係での実務経験を活かして、課題解決法についてアドバイスします。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>チームで話し合いながら課題を発見し、目標を設定して計画を立てます。計画に沿って課題解決策を考えながらプレゼンテーション用の視覚資料を制作して発表を行います。すべてチームで情報収集・分析・改善案の検討などを行い、プレゼンテーション後は再構築をして自分自身の成長を確認していきます。</p> <p>プロジェクトのテーマは、Withコロナ時代に相応しい内容や身近な問題を解決するプロジェクトなど、授業内で検討し決定します。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 自ら目標を設定することができる。</li> <li>② ビジョンを描き、多面的に物事を見ることができる。</li> <li>③ 情報収集と情報の取捨選択ができる。</li> <li>④ 課題を見つけてチームで解決していくことができる。</li> <li>⑤ 説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。</li> </ol> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>グループで活動を行いますので、授業を欠席した場合はそのグループ内で内容を確認し、お互いに情報を共有しておいてください。また課題はグループ内で解決して授業に臨んでください。</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>プレゼンテーション(50%)、各自の取り組み姿勢(20%)、レポート(30%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>課題解決をしていく過程で、その都度フィードバックします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>PBL型の内容ですので、参加者の主体性がそのまま学びの深さに関わってきます。答えのない課題に取り組む事を通して、これまで学んだことを身に付ける機会ですので、積極的な参加を求めます。</p> <p>「プレゼンテーション実務士」資格の必修科目です。</p>			

授業科目名 (副題)	プロジェクト演習
担当者	福井 愛美
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プロジェクト学習の進め方</li> <li>2. 課題発見と目標設定を行う</li> <li>3. 共通課題によるチームづくり</li> <li>4. 実践の手順とポイント…グループディスカッションと計画案作成</li> <li>5. 計画案に基づいての準備</li> <li>6. 情報収集と問題発見</li> <li>7. 情報分析をする</li> <li>8. 中間報告のプレゼンテーション</li> <li>9. 課題解決へ向けての再検討</li> <li>10. 課題解決へ向けての再構築</li> <li>11. 最終案作成 原稿(レポート作成)、資料等の作成</li> <li>12. プレゼンテーションの実施と質疑応答</li> <li>13. 課題解決に至る相互評価</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法: 授業への参加度とプレゼンテーションで評価します。</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。□ 成績評価方法: 取り組み姿勢で評価します。</p> <p>【3-4】人々と協働・協調して学修を進める力を有している。□ 成績評価方法: 取り組み姿勢とレポートで評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] 適宜プリントを配布します。</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 『プロジェクト学習の基本と手法』 著者名: 鈴木敏恵著 出版社: 教育出版 (978-4-316-80350-0)</p>	

授業科目名 (副題)	保育学(実習を含む)		
担当者	服部 伸一		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	シャトルカードを使用し、学生の質問・疑問を引き出します。内容によっては全員に共有します。		
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他	シャトルカードを使用し、学生の質問・疑問を引き出します。内容によっては全員に共有します。		
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>本授業では、保育の意義、乳幼児を取り巻く環境、保育施設、乳幼児の心身の発達、関わり方の基本について理解を深めていきます。多くの専門用語が出てきますが、配布資料、映像資料等を用いてわかりやすく解説していきます。なお、実習については別途指示します。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>親として子どもを守り育てることの意義と方法に関する基礎知識を習得することができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>前時の授業の配布資料をよく読んでおくようにしてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>レポート(30%)、中間テスト(10%)、確認テスト(60%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>理解度確認テストを実施の後、回答の解説を行います。レポートは添削後、返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>受講態度の良くない学生は、退席してもらうことがあります。</p>			

授業科目名 (副題)	保育学(実習を含む)
担当者	服部 伸一
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の意義</li> <li>2. 乳幼児を取り巻く環境と問題点</li> <li>3. 地域社会と保育施設</li> <li>4. 子どもの発達</li> <li>5. 子どもの生活(食事)</li> <li>6. 子どもの生活(排泄・清潔)</li> <li>7. 子どもの生活(睡眠)</li> <li>8. 子どもの生活(遊び)</li> <li>9. 子どもの生活(安全)</li> <li>10. よくある子どもの病気やケガへの対応</li> <li>11. 育児をめぐる社会問題(1)夫婦のパートナーシップ</li> <li>11. 育児をめぐる社会問題(2)父親の育児</li> <li>13. 保育学に関する理解度の確認</li> <li>14. 実習</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: レポート(30%)、中間テスト(10%)、確認テスト(60%)で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>なし</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>『新保育学』 著者名: 岡野雅子ほか 出版社: 南山堂 (978-4-525-63004-1)</p>	

授業科目名 (副題)	マーケティング論		
担当者	正岡 幹之		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	マーケティングの実務経験がある講師が、その経験を踏まえ、具体例を盛り込みながら丁寧に講義します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>企業が事業を継続していくためには、利益を獲得しなければなりません。利益は売上高から費用を差し引いた余りです。たとえば、アップルは『iPhone』を販売しています。この売上高を向上させるための策がマーケティングです。そこで、本授業ではマーケティングの専門用語を理解し、実社会で活かせる知識を修得することを目的とします。</p> <p>具体的には、売上高を上げるためには、どのような製品をつくれれば良いのか、どれくらいの価格をつけたら良いのか、どこで販売したら良いのか、どのような広告をしたら良いのか等について検討します。授業は講師による説明とワークで構成します。ワークのテーマは「商品企画」です。学生諸氏がマーケティング企画担当者という想定で商品企画書を作成します。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①マーケティングの定義及び役割が理解できるようになる。</li> <li>②マーケット・セグメンテーションに関する知識が理解できるようになる。</li> <li>③ターゲティング及びポジショニングに関する知識が理解できるようになる。</li> <li>④製品戦略並びに価格戦略に関する知識が理解できるようになる。</li> <li>⑤流通戦略並びに販売促進戦略に関する知識が理解できるようになる。</li> </ol> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>各回の講義についての予習と復習を行うこと(合計4 時間程度/回)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>授業への取組姿勢(30%)とワークシート(70%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>全体的な講評を基本としますが、中間で個人へのフィードバックを行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の出席を心がけてください。</li> <li>・気軽に質問してください。</li> <li>・ワークシートの作成は、担当教員の助言とともに進めますので、心配する必要はありません。</li> </ul>			

<b>授業科目名</b> (副題)	<b>マーケティング論</b>
<b>担当者</b>	<b>正岡 幹之</b>
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション マーケティングとは、ガイダンス: 授業目標/授業内容/評価方法 マーケティングの定義を共有したうえで、本授業の目的であるマーケティングの知識の修得について概要を説明します。</li> <li>2. 製品コンセプト 製品全体を貫く概念(製品コンセプト)について、iPodの「1,000曲をポケットに」やスターバックスコーヒーの「サードプレイス」を例に挙げて説明します。</li> <li>3. マーケット・セグメンテーション 性別や年代別等の基準で市場を細分化し、その客層に合わせて製品が製造・販売されていることについて説明します。</li> <li>4. ターゲティング マーケット・セグメンテーションにより細分化された市場からターゲットを選定する方法について説明します。</li> <li>5. ポジショニング 数ある製品の中から自社製品を選んでもらうために、差別化することを意図した位置づけの方法について説明します。</li> <li>6. 製品戦略①(製品開発戦略) ポジショニングで位置付けた新製品の具体的な仕様(スタイル、素材、カラー、サイズ等)の決定方法について説明します。</li> <li>7. 製品戦略②(製品ライフサイクル戦略) 製品のライフサイクル(寿命)を示す導入期、成長期、成熟期、衰退期の各期に応じた戦略について説明します。</li> <li>8. 価格戦略①(コスト・需要・競争志向型) 製品の原価やターゲット客層の価値感、競合状況等を踏まえた価格の設定方法について説明します。</li> <li>9. 価格戦略②(心理価格) ステイタスの高さをアピールする威光価格をはじめとする、心理に関連した価格の設定方法について説明します。</li> <li>10. 流通戦略①(流通経路) メーカーが製造した製品が消費者に辿り着くまでの主な経路である卸売業及び小売業について説明します。</li> <li>11. 流通戦略②(販売チャネル) コンビニエンスストアや専門店、ECモールをはじめとする製品の販売場所の決定方法について説明します。</li> <li>12. 販売促進戦略①(広告) インターネット広告をはじめとする製品の認知度やイメージをアップさせる広告媒体の種類及び宣伝方法について説明します。</li> <li>13. 販売促進戦略②(営業) ルートセールスをはじめ、営業担当者が自社製品の販売活動を行い、売上に結び付けていく方法について説明します。</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>【2-1】客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力を有している。 成績評価方法: ワークにおける情報収集・分析等で評価します。</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法: ワークにおける課題発見・解決等で評価します。</p> <p>[ テキスト (ISBN) ] レジュメを配布します。</p> <p>[ 参考文献 (ISBN) ] 『コトラー &amp; ケラーのマーケティング・マネジメント 第12版』 著者名: フリップ・コトラー・ケビン・レーン・ケラー 著、恩蔵直人 監修、月谷真紀 訳 出版社: 丸善出版 (978-4621066164) 『1からのマーケティング 第4版』 著者名: 石井淳蔵・廣田章光・清水信年 編著 出版社: 碩学舎 (978-4502327711)</p>	



授業科目名 (副題)	メイクアップ演習		
担当者	遠藤 瑞穂		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	長期美容業界教育指導経験、MTJ認定特級メイクセラピスト・JAA認定インストラクター・セラピスト、AFT色彩検定1級、CTAカラータイプ?協会認定講師などの資格を有する講師が美容教育科目を担当します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p>前期メイクアップ論の授業で学んだ内容を個人、他人の顔型に合わせて顔のプロポーション、黄金律を活用してメイクができるように対面、ロールプレイングで学びます。</p> <p>顔のパーツを部分技術を習得し、個人のメイクアップによる対人認知の変化を確認します。ライブマスクを使い、ベースメイク・アイメイク・リップメイクを練習して、個人の苦手とするメイクアップ技術を向上させ、実際にメイクにより個人の気持ちの変化やスキルアップを体感しながらメイク技術を学びます。(ライブマスクとは、メイクアップ練習用 顔型のこと)</p> <p>*メイクセラピー2級 資格取得(認定メイクセラピーアドバイザー)のための筆記・実技試験合格対策も授業中に実施します。 *メイクセラピー2級資格取得検定試験は学内受験にて実施します。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>①メイクアップ論での習得した内容を実践することで、自己流メイクで理解できていなかった顔のプロモーションやパーツバランス、アンダートーンにあったメイクができるようになる。 ②技術を向上させることで、第一印象(好感度)をアップさせ印象管理の重要性を理解・表現できる。 ③メイクセラピー検定試験 2級認定メイクセラピーアドバイザー資格を履修者全員取得する。 ④就活メイク・社会人になった時の個人の演出メイクができるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>毎日スキンケアの手入れを心がけてください。スキンケアをしなかった場合、翌日の肌状態(乾燥・毛穴など)やメイクをした時のファンデーションのつき・のび・もちなどの違いを確認しておいてください。個人で化粧品を購入する際や化粧品など質問がある時は、事前に準備して相談してください。各回の講義について予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>理解度確認テスト(50%)ライブマスク課題(30%)レポート提出(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートは、後日添削して解説後返却します。</li> <li>・ライブマスクは当日課題確認して技術向上のフォローアップをします。</li> <li>・2級資格検定試験対策、筆記模擬試験用紙は解答時に解説後返却します。</li> </ul> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]</p> <p>①眉は顔型で整え方を説明、指導しますので無理にさわらないようにしてください。 ②オリエンテーションで個人のメイク品、備品関連を伝えますので準備してください。 演習には、個人の化粧品を持参します。(不足分は大学で予備を準備しています。) *日頃使用しているスキンケア・メイク化粧品、鏡、タオル、ヘヤーピンなど ③教科書は前期メイクアップ論 2冊を使います。(資料は、別途配布)</p> <p>メイクアップ演習履修者人数は20名を上限とします。</p> <p>履修者はメイクセラピー検定 2級資格取得試験(認定メイクセラピーアドバイザー)を受けて資格を取得します。(学内団体受験・2級検定試験は受験料が必要です)</p>			

授業科目名 (副題)	メイクアップ演習
担当者	遠藤 瑞穂
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション 授業全体の概要、演習の進め方、セルフメイク</li> <li>2.顔型と眉 セルフ アイブ로우テクニック、眉の整え方</li> <li>3.顔型と眉 ロールプレイ</li> <li>4.ベースメイク</li> <li>5.目の形による セルフ アイメイク パートⅠ (アイシャドウ、アイライナー)</li> <li>6.目の形による修正メイク</li> <li>7.リップエステ、リップメイクと唇修正</li> <li>8.顔型とブラッシュメイクパートⅡ (ブラッシャー、ハイライト、シェイディング)</li> <li>9.タッチアップメイクと顔型によるメイク</li> <li>10.メイクセラピー2級/筆記試験&amp;実技試験対策</li> <li>11.セラピーメイク (交互メイク)</li> <li>12.メイクセラピー2級資格取得学内試験</li> <li>13.実技演習に関する理解度確認テスト</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって主体的に学修を深め、資格取得に資する力を有している。 成績評価方法:理解度確認テスト(50%)ライブマスク課題(30%)レポート提出(20%)で評価。</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法:理解度確認テスト(50%)ライブマスク課題(30%)レポート提出(20%)で評価。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『メイクセラピー入門 3級対策』 著者名:岩井結美子 出版社:一般社団法人メイクセラピストジャパン メイクセラピー検定事務局</p> <p>『メイクセラピー検定 2級対策』 著者名:岩井結美子 出版社:一般社団法人メイクセラピスト メイクセラピー検定事務局 プリント配布</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>『「きれい」への医学』 著者名:海原純子著書 出版社:株式会社 講談社</p> <p>『MAKEOVER/AHAPEOVERBEAUTYPROGRAM』 著者名:アドリアン・アーベル著 出版社:サンケイ出版</p> <p>『美容の天才365日』 著者名:斎藤 薫 出版社:株式会社講談社</p>	

授業科目名 (副題)	メイクアップ論		
担当者	遠藤 瑞穂		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	長期美容業界教育指導経験、MTJ認定特級メイクセラピスト・JAA認定インストラクター・セラピスト、AFT色彩検定1級、CTAカラータイプ?協会認定講師などの資格を有する講師が美容教育科目を担当します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  メイク論にプラスしてメイクを美しく仕上げるために必要な皮膚知識・皮膚の働き・美容知識・四季と肌・トラブルを改善していくための食事・日常生活のあり方なども授業の中にとりいれていきます。総合的にメイクアップの必要性及びスキンケアの知識も学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 社会人になるための女性として必要な正しいスキンケア・メイクアップができるようになる。</li> <li>② 化粧品の成分やその効果を理解することで、肌にあう化粧品選びや肌トラブルを未然に防ぐことができるようになる。</li> <li>③ 顔型・顔のプロモーション・パーソナルカラーを習得することで個人の魅力を演出することができるようになる。</li> </ol> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  現在 個人が使用しているスキンケア・メイク品などがあれば、どのような種類を何故使っているのかなど事前に講義の中で課題を提示します。質問事項を考えておいてください。  また、どのようなスキンケア商品・メイク商品等があるか事前に化粧品コーナー・薬局・コンビニなどで確認しておいてください。  各回講義について予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  理解度確認テスト(60%)、小テスト(20%) レポート提出物(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  当日レポート及び課題提出分は、後日添削し必要箇所は授業で解説をして返却します。  理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  積極的に授業に参加して、下さい。  スキンケア、メイクなど日常生活の質問・疑問などは、事前にノートに記入にしておいてください。</p> <p>※後期メイクアップ演習を履修する計画をしている方は、前期のメイクアップ論をできる限り履修しておいてください。  (後期メイクアップ演習受講人数は20名を上限とします)</p>			

授業科目名 (副題)	メイクアップ論
担当者	遠藤 瑞穂
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション/授業計画、セルフスキンケアDVD</li> <li>2. 化粧歴史(始まり～現代)・化粧心理</li> <li>3. スキンケア概論(顔の部位・骨格、筋肉、肌タイプ)</li> <li>4. 美容知識(日常生活と肌、化粧品役割)</li> <li>5. メイクアップ概論&amp;顔のプロポーション</li> <li>6. 肌色の知識</li> <li>7. 色彩とメイク(色・光・パーソナルカラー)</li> <li>8. アイメイクアップ(基本4ステップ)</li> <li>9. リップ&amp;ブラッシュメイク</li> <li>10. 修正メイク(形の錯覚とメイクへの応用)</li> <li>11. イメージ演出</li> <li>12. メイク療法(メイクセラピー・印象分析)</li> <li>13. 就活メイク・理解度確認テスト</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【3-1】実現可能なキャリアプランに向かって主体的に学修を深め、資格取得に資する力を有している。 成績評価方法: 理解度確認テスト(60%)、小テスト(20%) レポート提出物(20%)で評価</p> <p>【3-2】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法: 理解度確認テスト(60%)、小テスト(20%) レポート提出物(20%)で評価</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『メイクセラピー検定 3級対策』 著者名: 岩井 結美子 出版社: 一般社団法人メイクセラピストジャパン メイクセラピー検定事務局</p> <p>『メイクセラピー検定 2級対策』 著者名: 岩井 結美子 出版社: 一般社団法人メイクセラピストジャパン メイクセラピー検定事務局</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>『美容の医学 美容皮膚科学事典』 著者名: 浅田康夫 監修 出版社: 中欧書院</p> <p>『美容の皮膚科学』 著者名: 安田利顕 漆畑修 改訂 出版社: 南山堂 プリント配布</p>	

授業科目名 (副題)	洋裁基礎演習		
担当者	古田 貴美子		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba		Moodle	
その他			
[ 授業全体の内容の概要 ] ワンピースを製作課題とし、洋裁の基礎的な知識と製作技術を学びます。			
[ 到達目標 ] ①デザインに合った布地・糸・付属品を選択することができる。 ②縫製技術を理解し、道具を正しく使用することができる。 ③ワンピースを美しく仕上げることができる。			
[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 直ちに実習に取りかかれるように準備をしてください。 製作手順の確認をしてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1 時間程度)。			
[ 成績評価方法 ] 作品(70%)、実習記録(10%)、授業態度(20%)で評価します。			
[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 作品に対する講評を返却します。			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 受講生への要望、その他 ] 布地などの材料費は自己負担です。 「被服構成基礎実習」を履修していることが望ましいです。			

授業科目名 (副題)	洋裁基礎演習
担当者	古田 貴美子
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 布地の選び方、裏地・芯地の使い方、採寸</li> <li>2. 型紙作成(身頃)</li> <li>3. 型紙作成(スカート)</li> <li>4. 裁断とするしつけ</li> <li>5. 仮縫い(身頃)</li> <li>6. 仮縫い(スカート)</li> <li>7. 試着補正、型紙修正、接着芯裁断</li> <li>8. 身頃ダーツ縫い、見返し縫い</li> <li>9. 身頃肩縫い、わき縫い</li> <li>10. 袖ぐりの始末</li> <li>11. スカートはぎ合わせ縫い、すその始末</li> <li>12. 身頃とスカート縫い合わせ、ファスナーつけ</li> <li>13. 衿ぐり始末、仕上げ、着装観察</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 作品、実習記録</p> <p>【1-2】 】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 作品、実習記録</p> <p>【3-2】 】主体的に学修を深める力を有している。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] プリントを配布します。</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] 文化女子大学講座『服装造形学 技術編 I』 著者名: 中屋典子、三吉満智子 監修 出版社: 文化出版局 (978-4-579-10859-6 )</p>	

授業科目名 (副題)	ライフステージ栄養学		
担当者	西 奈保		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]  各栄養素の機能について確認するとともに、年代別の身体や食生活の特徴について学び、年齢やライフスタイルに応じた栄養素がなぜ必要なのかについて解説します。また、必要な栄養素を摂取するための具体的な食事について学びます。</p> <p>[ 到達目標 ]  ①各年代に応じた栄養の必要性について理解できるようになる。  ②各年代における食生活の問題やその改善方法について理解できるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  シラバスの「授業計画」を確認し、テキストを読んでおいてください。  事後学習として、毎回ノートまとめや配布資料等の整理を授業時間外に行ってください。  各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  授業態度(10%)、提出物(40%)、理解度確認テスト(50%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]  積極的な受講態度を望みます。</p>			

授業科目名 (副題)	ライフステージ栄養学
担当者	西 奈保
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体と食事の関係</li> <li>2. 日本人の食生活に関する問題点</li> <li>3. 乳児期の栄養1(乳汁栄養)</li> <li>4. 乳児期の栄養2(離乳)</li> <li>5. 幼児期の栄養1</li> <li>6. 幼児期の栄養2(アレルギー対応)</li> <li>7. 学童期の栄養</li> <li>8. 思春期の栄養</li> <li>9. 成人期の栄養(生活習慣病を予防する食生活)</li> <li>10. 成人期の栄養(若い女性の理想的な食生活)</li> <li>11. 妊娠期の栄養</li> <li>12. 高齢期の栄養</li> <li>13. 健康的な食生活についての理解度確認テスト・解説</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-2】選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 成績評価方法: 提出物と理解度確認テスト</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法: 提出物と理解度確認テスト</p> <p>[ テキスト(ISBN) ]</p> <p>『栄養の基本がわかる図解辞典』 著者名:中村丁次監修 出版社:成美堂出版 (978-4-415-32743-3)</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ]</p> <p>プリント配布</p>	



授業科目名 (副題)	恋愛心理学		
担当者	水澤 慶緒里		
実務経験のある教員による授業			
実務経験内容			
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
<p>[ 授業全体の内容の概要 ]</p> <p><b>【メディア授業】</b>            テキストの内容が理解できるように解説をし、関連する心理学の理論も紹介します。また、自分自身のパーソナリティを客観的に把握するテストや心理学実験を実際に行ったり、DVDを視聴することで授業内容の理解を深めます。</p> <p>[ 到達目標 ]            自分や他者の行動、考え、感情表現などを、心理学的な視点から理解できるようになる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]            テキストを予習し、授業の後には、授業内容に関連した本や新聞記事を見つけて自主的に読んでください。            各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[ 成績評価方法 ]            授業内試験(50%)、提出物(50%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]            レポートを回収後、解答の解説とともに、参考に他受講者の解答の紹介を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 受講生への要望、その他 ]            なし</p>			

授業科目名 (副題)	恋愛心理学
担当者	水澤 慶緒里
<p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 恋愛心理学と対人魅力、ジェンダー</li> <li>2. 重要な第一印象</li> <li>3. 人に好まれるパーソナリティとは</li> <li>4. 恋に落ちやすい状況とは</li> <li>5. ロミオとジュリエット効果、ピグマリオン効果</li> <li>6. 女らしさ・男らしさと恋愛関係</li> <li>7. 恋人同士の会話</li> <li>8. loveとlike、恋愛の種類</li> <li>9. 同性愛、両性愛</li> <li>10. 嫉妬、共依存</li> <li>11. デートDV、セクシャル・ハラスメント</li> <li>12. 結婚相手に求めるもの</li> <li>13. 結婚後の家族関係</li> </ol> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>【1-1】生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 成績評価方法: 授業内試験(50%)、提出物(50%)で評価します。</p> <p>【2-2】現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 成績評価方法: 授業内試験(50%)、提出物(50%)で評価します。</p> <p>【2-3】社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 成績評価方法: 授業内試験(50%)、提出物(50%)で評価します。</p> <p>【2-4】持続可能な社会のために、未来を切り開く創造力を有している。 成績評価方法: 授業内試験(50%)、提出物(50%)で評価します。</p> <p>[ テキスト(ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考文献(ISBN) ] プリント配布</p>	